



岐阜県地方自治研究センター

各務原市のまちづくりと市民活動

2024年3月

はじめに

岐阜県地方自治研究センターでは、岐阜県内の自治体との連携協定を結んで、それぞれの地域のまちづくりと市民活動についての報告を、2021年度は関市、22年度は岐阜市で行ってきた。23年度はさらに隣接する各務原市との協定に基づいて、各地区や活動団体に協力を依頼して、本報告書を作成している。

各務原市は1963年に那加、蘇原、鶉沼、稲羽の4町の合併によって市制を施行した。さらに平成の大合併の際に、川島町との編入合併を行っている。木曾川右岸の低地と台地、さらに北には美濃山地の最南端の山々が連なっている。縄文時代からの遺跡や古墳も広がっている。旧東山道から、江戸時代に入ると東に中山道の鶉沼宿、西には次の加納宿との間之宿として新加納が置かれた。

河岸段丘上では水が得られず、西部は長良川から各務用水が引かれ、南部には犬山で取水される羽島用水が流れる。境川の洪水対策として新境川が開削されて、今では春に百十郎桜の並木が見られる。大正時代にこの台地の上に軍の飛行場が開発され、続いて川崎重工業の航空機工場が立地して開発が進む。国鉄高山線、現在の名古屋鉄道各務原線が東西を結び、国道21号線が貫通している。

岐阜高等農林が1923年に設立されて、1949年には岐阜大学農学部となる。また同じ敷地に岐阜県立医工科大学から1954年に岐阜大工学部となる。この各務原キャンパスから1981～82年に岐阜市黒野地区に移転して市民公園となり、農場跡地もその後、学びの森となった（小野報告）。

東部の鶉沼地区では、丘陵を開発して住宅団地が造成され、西部でも岐阜市に隣接して尾崎団地が置かれて、名古屋市や岐阜市方面へのベッドタウンとして人口が急増している。戦後生まれの団塊の世代が入居したこうした住宅団地は今、今度は急激な高齢化を迎えており、団塊ジュニア以降は市外に進学や就職で流出している。他方、名鉄の各駅の沿線でマンション、アパートが建ってきている。

那加を除いて商業集積は小さく、隣接する岐阜や犬山に買い物客は流出してきた。しかし、大店法の規制緩和や大店立地法への転換の中で、アピタ各務原店や各務原イオンなどの大型ショッピングモールができ、各地区にもスーパーや量販店が立地している。国道21号線沿いにはロードサイド施設も建ち並んでおり、商業集積の成長は著しかった。

市政と総合計画

各務原市では（第一次）総合計画（1975年）、第二次（1981年）、第三次（1991年）に引き続いて、森真市長の下で新総合計画（2000年）、第二次新総合計画（2010年）、浅野市長になってからの「総合計画」（2015年）、そして現在、次期総合計画（2025年～）の基本構想を策定中である。

この審議会に委員としても参加しているが、その他にかつての旧大店法の意見聴取、産業振興ビジョン、まちづくり活動助成金事業、新しい工業団地と旧東亜会館の活用、そして各務原市史現代編（平成版）にも関わっている。

今回の自治研の各務原市のまちづくりと市民活動の報告は、その他にも関わりを持っている、あるいは活動をつないでもらったそれぞれの地域団体やグループに報告をお願いした。歴史的な分野では鶉沼宿、新加納（加納宿への中山道のまちあるき）、郊外団地からは八木山、かかみがはら暮らし委員会とマーケット日和（学生も参加）、助成金の事業でお手伝いした大野町、川上貞奴をテーマとした活動など、今回はさまざまな地域とテーマで報告をお願いした。ご協力頂いた各務原市の皆さん、市役所の企画政策課とまちづくり推進課に感謝し、この報告書がこれからの各務原市のまちづくりに役立つことを期待しています。

富樫幸一（岐阜県地方自治研究センター理事長、岐阜大学名誉教授）

目次

はじめに	1
1. 各務原市の人口と産業 富樫幸一.....	3
2. 各務原市はどのように公園都市となったか～各務原台地の地理と歴史 小野千里.....	12
3. 中山道鶴沼宿まちづくりの会 安田新作.....	21
4. 中山道間の宿 新加納まちづくり会.....	37
5. 川上貞奴と、貞奴をキーワードにした地域文化活動 藤田敦子.....	50
6. つつじが丘自治会 杉山忠男.....	60
7. 大野町の歴史と大野町自治会の取り組み 鈴木智晴.....	102
8. トーク・インかわしま 川島町の皆さん.....	115
9. まちを楽しむひとたちのコミュニティ かかみがはら暮らし委員会.....	130
10. 各務原市のまちづくり活動助成金について 各務原市市長公室まちづくり推進課.....	142

1. 各務原市の人口と産業

(1) 人口の推移

1963年の合併時の人口は59,210人であった。住宅団地の拡大や工業の発展によって、1977年に101,679人と10万人を超えて、川島町との合併前の2004年に137,219人、合併後の2005年には148,315人となった。2009年には150,024人と一時は15万人を超えたものの、その後は減少に転じて、2023年は145,311人となっている。

地域別に見ると、大規模な住宅団地の造成が続いた鵜沼地区が1975年には那加地区を上回って、5万9千人台まで到達するが、2008年に減少に転じて、2015年からはさらに減少が続いている。那加地区は3万5～6千人台でほぼ横ばいから微減、蘇原は2012年まで増加して、その後は横ばいから微減となっている。稲羽地区はピークとなるのが1995年と比較的早かった。これに対して、旧川島町・地区では増加傾向が続いている(図1-1)。

年齢構成から見ても、70代に団塊の世代のピークがある鵜沼地区に対して、那加と蘇原地区では40才台がピークになっている。この3地区では0～10才代が落ち込んでくるのに対して、川島では団塊ジュニアのピークの下世代も比較的フラットになっている(図1-2)。

地方自治法では「市」となる要件の一つに、「中心となる市街地に戸数の6割があること」があり、通常は1つの核となる中心の市街地を周囲の農(山)村部が取り巻いていることが想定されていたようである。しかし、戦後の昭和の大合併以降で、複数の核に分散しているのは加賀市(城下町の大聖寺、動橋、温泉街の山代、片山津、2005年に山中温泉も合併)、上越市(城下町の高田と、港町の直江津、平成の合併で周辺13町村も合併)のように例外的である。もう一つがこの各務原市である。なお、平成の大合併ではこの要件が3万人基準とともに外されているので、岐阜県内では本巣市や山口市のように核となる市街地が明瞭にはないケースがでてきている。

東部の鵜沼の団地群は名鉄とつながって、名古屋や尾張北部のベッドタウンとなっているのに対して、西部では岐阜市と隣接してこちらとの繋がりが強い。中央に自衛隊基地や川崎重工の工場群があることもあって、中央に市役所のある那加があるとはいっても、商業的にも中心性は低い。また、旧川島町は、木曾川を越えて一宮や江南との結びつきがもともと強かったし、現在でも橋やバス交通は愛知県側に続いている。

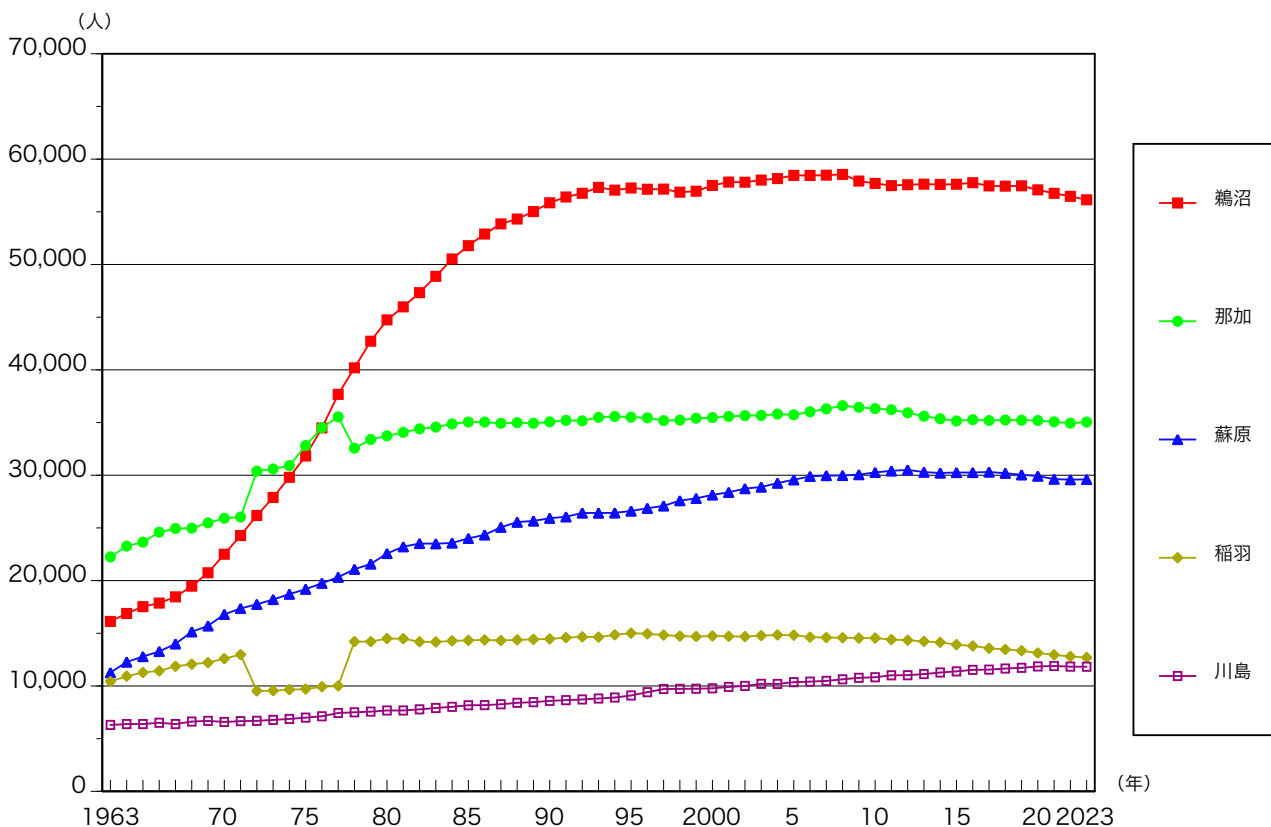


図 1-1 各務原市の地区別の人口の推移

資料：各務原市統計書、岐阜県統計書

4地区別年齢構成 2020

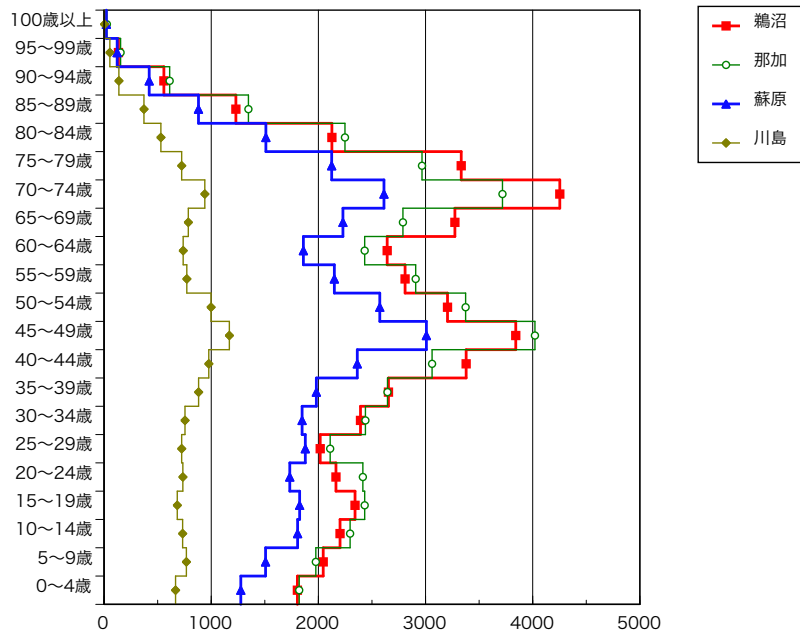


図 1-2 各務原市の地区別の年齢構成（2020年）
資料：各務原市統計書（国勢調査）

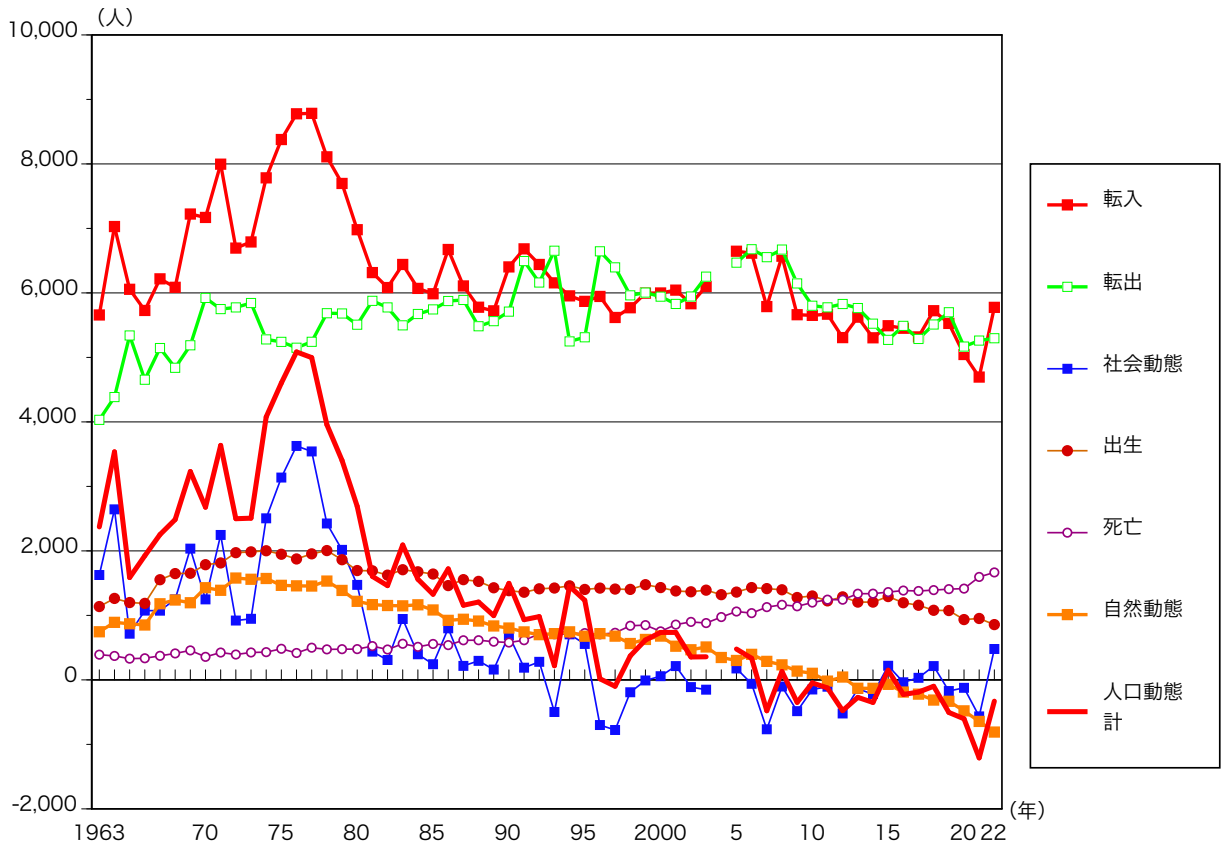


図 1-3 各務原市の人口動態
資料：各務原市統計書（住民台帳人口）

毎年の人口動態からみると、1960年代は転入が増加して、1971年には7,996人のピークを迎える。その後、1980年代～1992年まで次第に減ってはくるものの、2000～1000人の転入が続く。転出者数も1963年から4000～5000人に次第に増加して、1993年には6654人のピークとなる。転出との差の社会動態は1996年に初めてマイナスを記録する。それ以降、若干の増加もしくはマイナスとなっている年が多い。

団地などへの段階の世代の転入の増加もあって、出生数は1974、78年は2000人を超えていた。それ以降はなだらかな減少傾向から1990年以降は1400人前後で横ばいだったが、2004年に1300人台へと落ち込み始めて、16年以降の減少が続いて、2022年には857人となっている。コロナ禍の影響もあるだろう。死亡者数は1963年の391人から微増はしていたが、83年に560人、2005年に1060人と千人台に乗って、20年に1415人、22年には1666人となっている。出生と死亡の差の自然動態は2007年以降にマイナスを記録し始めて、22年は809人となっている。

各務原市の「人口ビジョン」（令和元（2009）年、改訂版）によれば、国立社会保障人口問題研究所の平成30（2018）年の推計に準拠すると、約40年後の2060年には103,643人まで減少する。これに対して市の総合計画では99,779人とさらに厳しい数値となっている。人口ビジョンではこれを2060年で12万人の押しとどめることを目標としておいている。

地方創生の懇談会でも人口減少を大きなテーマとして議論している。その点では、人口がいまでも増えている川島町に住み、あるいは移住してきて、仕事や生活の範囲は広いが、木曾川の環境に恵まれた暮らしがいいと語って、出産や子育ての経験をしている人たちがいる。大野町でも10年、20年と住み続けられることを、子どもたちと一緒に考え、地域の目標に掲げていた。また、かかみがはら暮らし委員会の皆さんのように、学びの森や那加のまちづくりに関わる若い人たちの集まりや交流が、これからの可能性を物語っているのではないだろうか。

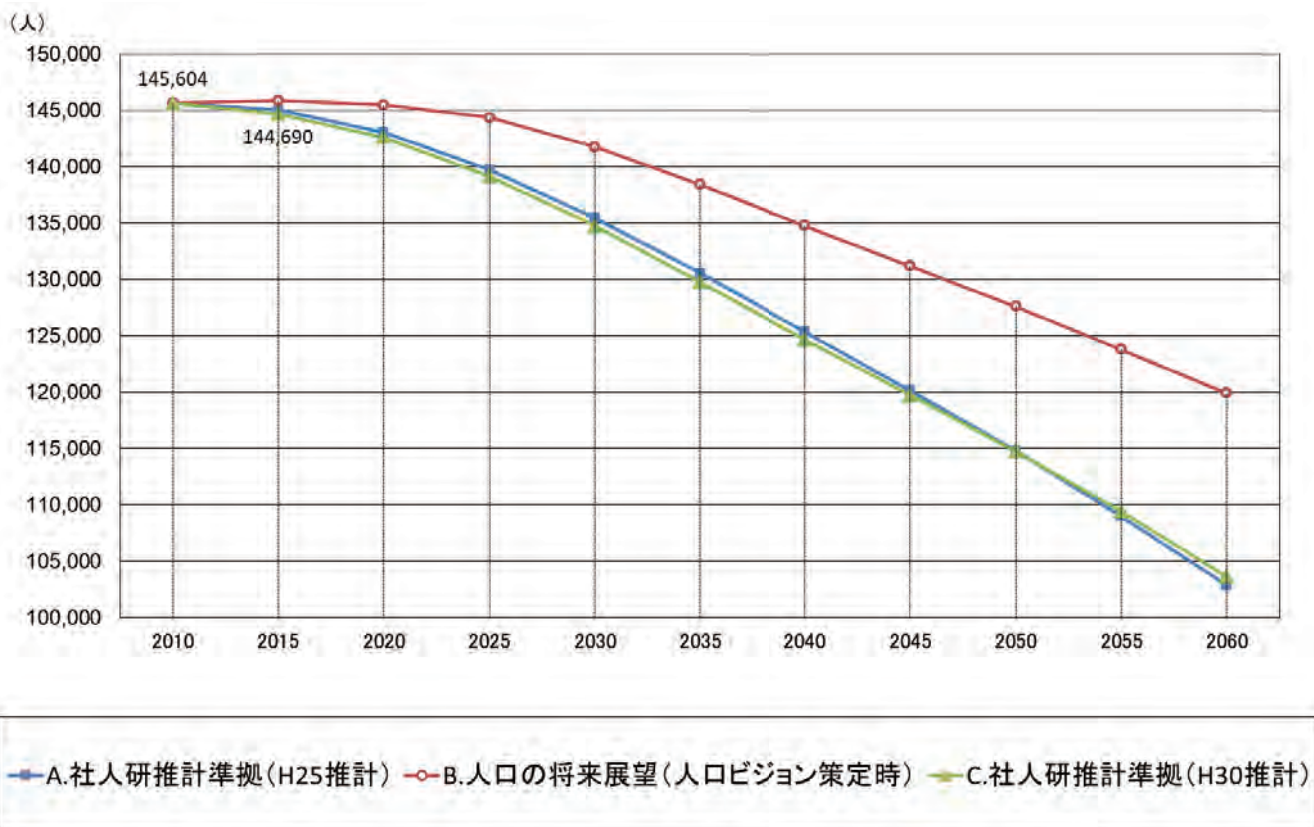


図 1-4 各務原市の人口推計と人口ビジョン

資料：各務原市人口ビジョン（令和元（2019）年改訂）

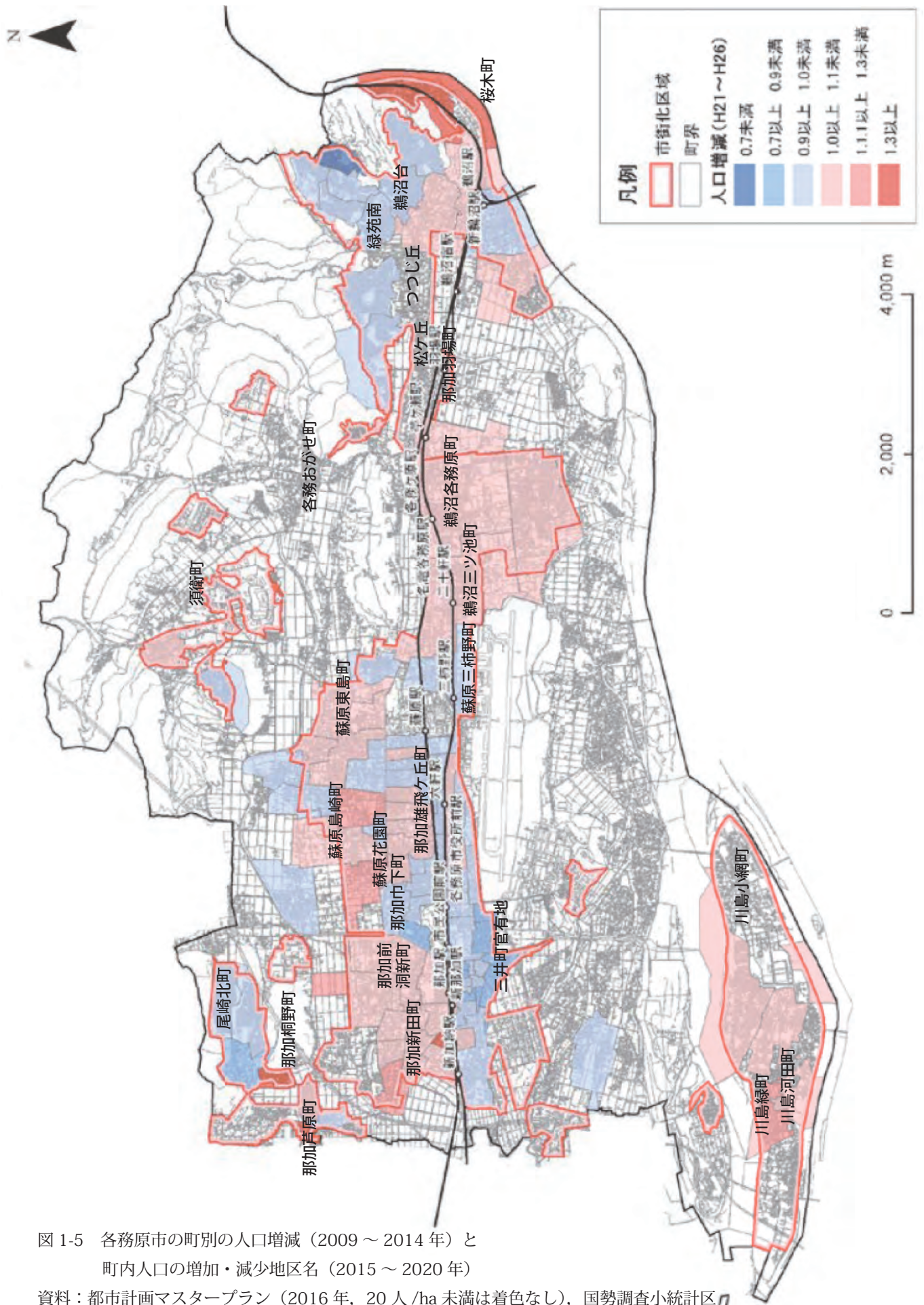


図 1-5 各務原市の町別の人口増減（2009～2014年）と町内人口の増加・減少地区名（2015～2020年）

資料：都市計画マスタープラン（2016年，20人/ha未満は着色なし），国勢調査小統計区

表 1-1 国勢調査による小統計区の町内で、増加と減少している地区

	2015	2020	2015-20
増えている上位の地区			
鵜沼各務原町	6239	6735	496
桜木町	652	1124	472
鵜沼三ツ池町	4882	5176	294
川島小網町	1725	1966	241
那加前洞新町	2573	2813	240
那加桐野町	1041	1275	234
鵜沼羽場町	2969	3168	199
蘇原島崎町	403	544	141
川島緑町	1419	1555	136
蘇原花園町	1200	1329	129
蘇原東島町	1434	1558	124
那加新田町	955	1075	120
那加中下町	445	561	116
川島河田町	2305	2415	110
那加芦原町	252	352	100

減少している下位の地区			
緑苑東	1302	871	-431
尾崎西町	1920	1530	-390
那加雄飛ヶ丘町	1482	1247	-235
つつじが丘	2822	2645	-177
各務おがせ町	2464	2298	-166
三井町官有地	690	539	-151
蘇原三柿野町	1078	929	-149
鵜沼台	2190	2057	-133
尾崎北町	1412	1305	-107
緑苑南	1332	1225	-107
須衛町	1349	1244	-105
松が丘	2122	2018	-104

資料：国勢調査・小統計区別人口

市街地が分散的だったのが各務原市の特徴であったが、最近の町別の人口の動きをもう少し詳細にみってみる。図 1-5 では、都市計画マスタープランによる人口の増減（平成 21（2009）年～平成 26（2014）年）と、国勢調査による 2015 年～2020 年の増加と減少のそれぞれ上位の地区（表 1-1）を示した。

減少が著しいのは、那加雄飛ヶ丘町（戦前の川崎重工の職員住宅、1937 年）や、北東部のつつじが丘（八木山団地、1976 年、5 章）や緑苑（東、南、1972～76 年）、北西部の尾崎団地（1974 年、北町、西町）である。

一方、増加している地区は、鵜沼各務原町、鵜沼三ツ池町、那加新洞町などの旧市街地を取巻く周辺部で、名鉄駅沿線の減少とは対照的となっている。また、川島（小網町、緑町、河田町とほぼ全域）が増えている（8 章）。局所的には桜木町、那加桐野町のように開発されている地区も存在する。

(2) 産業構造と就業

ベッドタウンとしての住宅団地があり、また市内に 10 もの工業団地を持つ各務原市の特徴から、周辺地域との通勤移動も非常に多いという性格をもたらしている。2020 年の国勢調査・通勤通学編によれば、市内に常住する就業の 67,781 人のうち、市内で従業しているのは 36,200 人、53.3%と約半数にすぎず、市外が 29,789 人、43.9.%（不明を除く）、そのうち岐阜市などの県内が 16,703 人、愛知県など県外が 13,086 人となっている。

逆に市外から各務原市に通勤しているのが 24,706 人だが、最も従業者数の多い製造業では、全体の 17,682 人のうち、市内居住者は 10,347 人、市外へ 7,089 人、市外からは 9,839 人、そのうち県内が 7,304 人、県外が 2,535 人と、流入している従業者数の方が上回っている。卸小売業、医療・福祉、建設業では常住地ベースの方が多い。

主要な 3 業種について常住地ベースで年齢構成をみると、製造業の男性では 40 代から 50 代前半にかけてにピークがあり、30 代前半がそれについて 20 代は少ない。女性でも 40 代後半の団塊ジュニアがピークで若年層はさらに少ない。定年の延長に伴って 60 代前半から 70 代前半まで仕事を続けている人もみられる。しかし、このまま

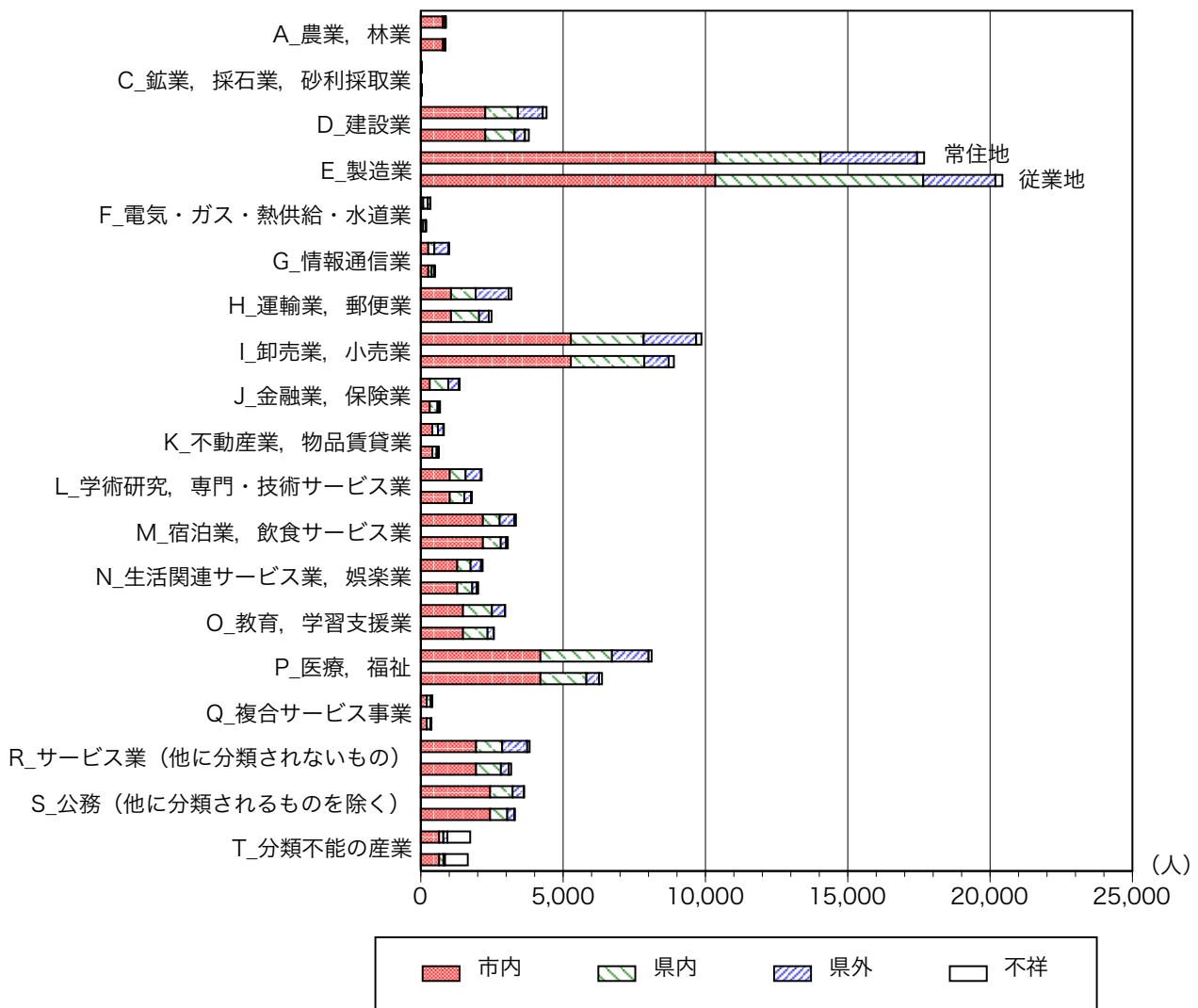


図 1-6 各務原市の産業別の就業人口の市内外の流動

資料：国勢調査・通勤通学編（2020年）

推移すると、あと 20 年がすぎれば（2040 年）この団塊ジュニアも定年を迎えていくために、人手不足が非常に顕著になっていくだろう。

卸小売業でも男女ともに 40 代後半がピークで、それ以下の年齢層は少なく、かろうじて 20 代後半が少しみられるだけである。医療福祉でも女性の 40 代後半を中心としており、男性職では 30～40 代だけがみられる。

岐阜県内では大垣市や岐阜市をしのいで各務原市の従業者数がトップを続けてきている。しかし東海地域のなかでみると、豊田を中心とした西三河や、小牧、春日井、一宮など、各務原市を上回る規模の都市があり、こうした東海の産業集積の一部をなしているとみることができるだろう。

(3) 各務原と相模原、豊田を比較してみる

各務原市史の新しい現代編の作製あたって、似たような地域の条件を考えて、相模原市と新しい豊田市の市史を参照してみた。まず、いずれも共通するのは、台地の上に市街地がある点である。洪積台地を、相模原は相模川と境川、豊田は矢作川が侵食し、一部に沖積低地を残している。各務原もそうだが、水田が支配的だった近世から近代の途中までは、水利が得られないこともあって、畑地や桑畑などの粗放的な農村地帯だった。低地の一部には、相模原川の河水統制事業とダム、明治用水や、各務用水・羽島用水がそれぞれ引かれているところもある。大正から昭和の戦前にかけて、新たに飛行場や軍の施設、工場が立地する上で、広い面積を取得し、水田を転用する必要もなかったこと、軍の施設や工場開発ということもあって、地元からの同意を取ることができたためといえる。

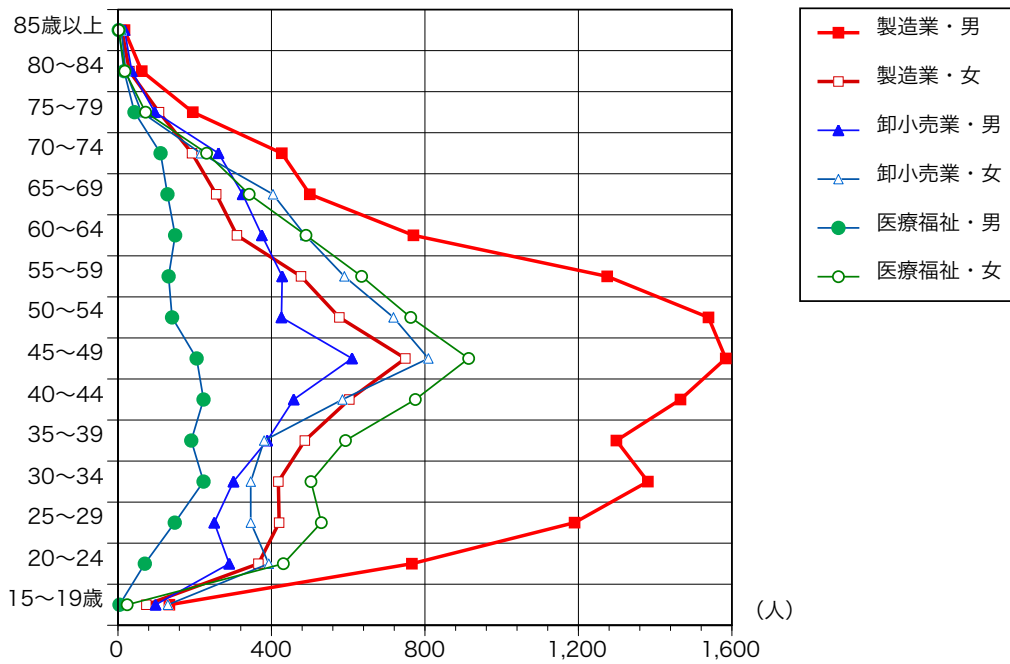


図 1-7 各務原市の製造業，卸小売業，医療福祉の 3 業種における性別・年齢別の構成
資料：国勢調査（2020 年）

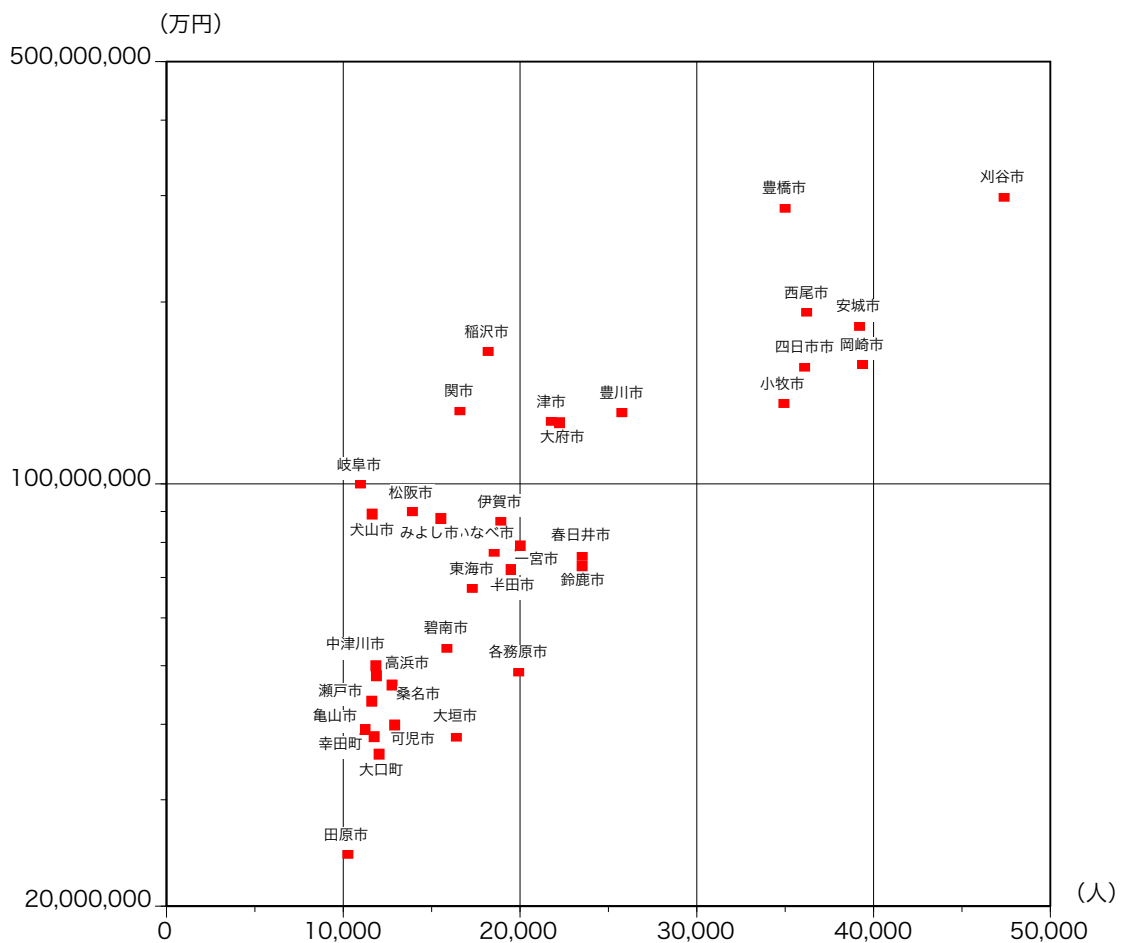


図 1-8 東海三県の市別の従業者数と製造品出荷額等
豊田市の 114,620 人，146,978 億円と，名古屋市の 91,740 人，29,932 億円を除く
資料：経済センサス（2021 年）

① 相模原市：政令指定都市と相模川流域の合併

相模原市は、西を相模川が北西から南に、東は東京都の町田市との間に境川が流れ、その間に台地面が広がっている。相模川には戦前の河水統制事業以来、城山ダム、相模ダムなどが建設された。

横浜線（1908年）と小田急線（1927年）が開通し、東京や横浜方面との接続が便利となった。陸軍の施設が1937年以降、次々に置かれて、41年に相模原町へと合併、戦後、1954年に市制を施行している。アメリカ軍基地に転用され、これも米軍基地が置かれた座間町（座間市、1971年）が1948年に分離している。

50年代から早くも住宅団地、工業団地が次々に建設される。また、東京都心からの大学キャンパスの移転も受け入れた。平成の合併では2005年に上流の津久井郡津久井町、相模湖町、2007年に藤野町、城山町を編入合併している。人口は70万人を超えたことで、2010年に横浜市、川崎市に続く政令指定都市となった。旧藤野町には都心からの移住者も多く、文化村を形成している。

もともとは農村的な地域で、市制を引く時にも中心となる市街地がなかった。北部の橋本地区は、八王子市と隣接しており、京王相模原線、JR横浜線が入り、リニア中央新幹線の駅も予定されている。相模大野が現在ではもう一つの核となっているが、小田急小田原線では町田とも隣接しており、ほぼ一体の都市圏を形成している。台地上にはまだ一部、農地を残している。

② 豊田市：低密度分散型の市街地、農山村の合併

豊田の場合は、豊田自動織機の刈谷工場を母体として1937年に豊田自動車が設立されて、北東に当たる挙母町に新工場が建設された。名古屋への近接性、優良農地を潰さなくてすむこと、近隣の農家の次三男の就業先になることなどが立地条件として挙げられていた（豊田自動車二十年史）。かつての中心は、西三河の山間部の足助などと繋がる北部の挙母にあったが、南部に高岡、上郷など次々に大規模な自動車の組み立て、部品工場が建設され、同時に周辺の町村を合併していき、1959年には市名も豊田市へと変更される。低密度分散型の市街地ともいわれる。

名鉄豊田線が地下鉄鶴舞線に乗り入れ、名古屋との通勤圏に入って、北部には住宅団地も造成される。保見などは、自動車関係の下請工場で働く日系ブラジル人が多く住む地域ともなる。また、名古屋から中京大学などの新しい学部も受け入れた。

西に隣接する三好市、日進市、長久手市なども同様の都市化、市街化を経験している。南西は刈谷市、安城市などのトヨタグループ企業群の工業地帯で、南に隣接する岡崎市からも多くの通勤者を受け入れている。2005年には北部の藤岡町・小原村・足助町・下山村・旭町・稲武町を合併している。

平成の合併で注目されるのは、東海豪雨（2000年）では矢作川流域で大きな被害を受けたことから、奥三河山間部に対して積極的な地域づくりの支援体制をとったことである。1970年代から上流域ではゴルフ場などの開発が進み、矢作川の水質も悪化した。おんぱくスタイルの「とよたまちさと未来塾」も行われ、自動車産業都市から観光まちづくりへの方向も目指されている。

名鉄挙母駅前で再開発が行われたが、40万都市とはいえ中心核や商店街を持たない独特の都市構造となっている。トヨタ生協があることもあって、市内には民間の大型ショッピングモールの立地を認めてこなかった。その代わりに岡崎や三好にはイオンモールが立地しているし、長久手のイケアの誘致のような商業化が周辺で進んでいる。

③ 各務原市と比較する視点

人口規模では相模原市の70万人、豊田市の40万人と、各務原市の14万人では違うが、いずれも元は台地上の農村地帯にで、先行する都市的な核がなく、工場、基地、大学などの拠点施設ができて、まだ東京や名古屋のベッドタウンともなっている点で共通している。

合併によって矢作川、相模川の上流部まで抱えている点は、各務原市と木曽川の関係では異なる。木曽川中流域で「木曽川学」や観光では、美濃加茂市、可児市、犬山市、江南市などとの連携が行われているが、名古屋市と御嶽山の王滝村の交流のように、木曽川や飛騨川の上流地域との交流があってもいいだろう。

第二に、豊田市で旧の東西の加茂郡の町村や、相模原市が旧津久井郡を編入した時に、地域自治区を設けている。各務原市の場合は、川島町の合併ではそれを行わなかった。なお、岐阜市と柳津町の合併では、合併特例法による地域自治区を10年間、置いていた。2021年の関市の報告書では、小学校区単位の旧関市内と旧武儀郡の地域委員会について報告している。これは自治体内分権を行う場合の課題となる。

富樫幸一

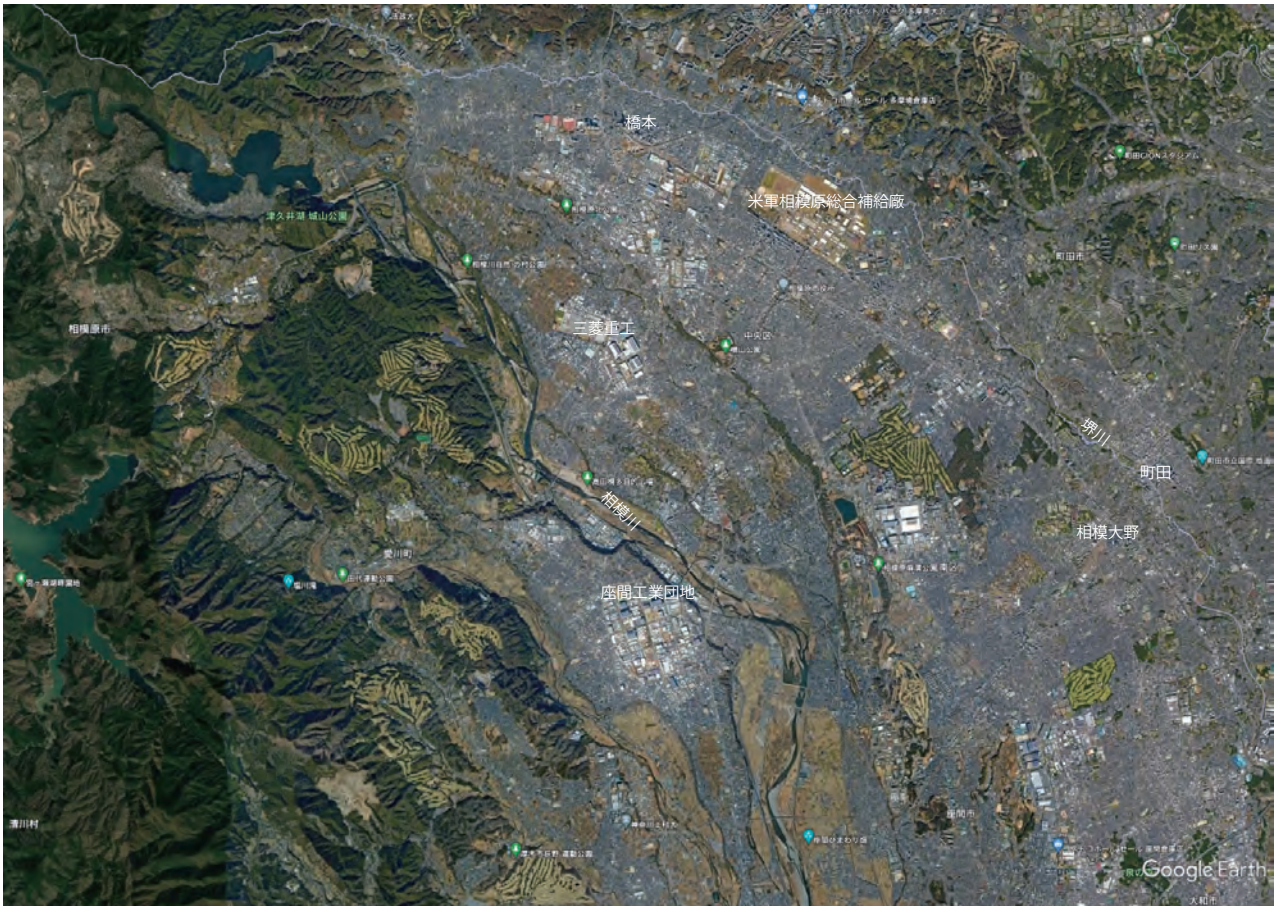


図 1-9 相模原市とその周辺
資料：google earth に加筆



図 1-10 豊田市の中心部とその周囲における豊田自動車グループの工場群
資料：google earth に加筆

各務原市はどのように公園都市となったか。

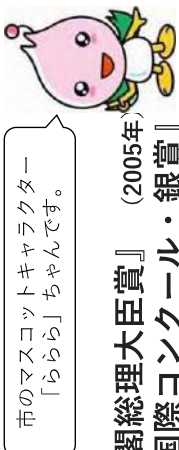
～各務原台地の地理と歴史～



1、はじめに

主な受賞歴

- 『第25回緑の都市賞・内閣総理大臣賞』 (2005年)
 - 『LivCom 住みよい都市国際コンクール・銀賞』 (2007年・2009年)
 - 『日本都市計画家協会日本まちづくり大賞・建築業協会賞』 (2008年)
 - 『都市計画学会・計画設計賞』 (2008年)
 - 『第26回都市公園コンクール・国土交通大臣賞』 (2011年)
 - 『第7回まち交大賞・まちづくり効果賞』 (2012年)
 - 『第39回都市公園コンクール・国土交通大臣賞』 (2023年)
- ※今回は、公園の運営が評価された。
他



岐阜新聞

※森真：1940～2021 (市長4期 1997～2013)

国交省の「緑の都市賞」

各務原市に総理大臣賞

森市長「受賞で事業に弾み」

目下、公園都市づくりを推進する各務原市は、国土交通省から「緑の都市賞」を受賞した。市長は「受賞で事業に弾み」を歓迎している。市長は「受賞で事業に弾み」を歓迎している。市長は「受賞で事業に弾み」を歓迎している。

公園都市づくりと緑の都市賞を授けられた各務原市

2023年(令和5年)11月15日 水曜日 ※浅野健司1972～(市長2013～)

各務原市と「暮らし委員会」

公園運営で国交大臣賞



「学びの森」中心にぎわい創出

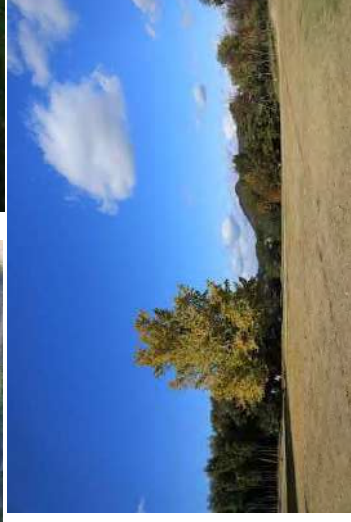
1985年に創設された「暮らし委員会」は、公園の運営やまちづくりの推進に努めている。市長は「暮らし委員会」が、公園の運営やまちづくりの推進に努めている。市長は「暮らし委員会」が、公園の運営やまちづくりの推進に努めている。

- 2、評価された「公園都市」構想のデザイン
- (1) 『水と緑の回廊』 & 『桜の回廊』、
市の中心部に市民公園 & 学びの森を設置。
- (2) 市内150カ所の中小すべての公園を芝生化
し、できる限り柵を撤去し、市内全域を開

放的な緑の空間に。

ハウードの「田園都市構想」や、
大ロンドン計画（グリーンベルト）の影響。

…前市長の森真氏（任1997～2013）の強いリーダーシップ
もあったが、一方で、これらの形式を採用しやすい**地理的
要因**といくつかの**歴史的な偶然**がうまく作用した。



緑の回廊だけではなく、すべての公園を芝生化。できる限り、柵を撤去。

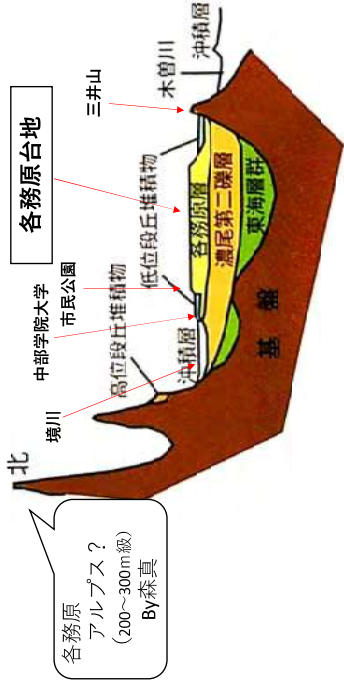




「緑の街づくりの会」
による管理
※バーグレンジャーの
一つ：68団体1680名

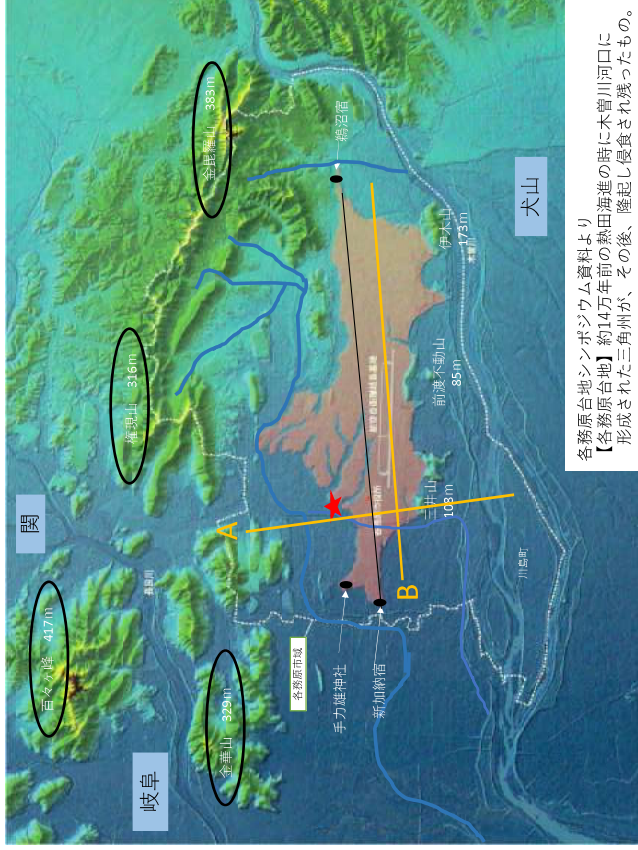
(1) 地理的要因

北に褶曲山地の連なり、南に木曽川の流れ、
中央に各務原台地と、各地形が東西に平行に並び、
シンブルな市域をもつ。



各務原台地の模式断面図
(横山・牧野内 1991)

『各務原台地シンポジウム資料』より



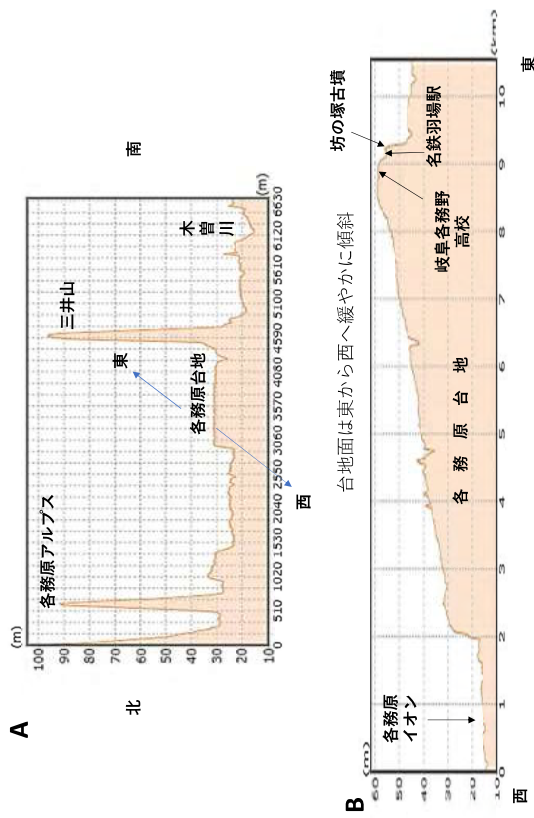
各務原台地シンポジウム資料より
【各務原台地】約14万年前の熱田海進の時に木曽川河口に
形成された三角州が、その後、隆起し侵食され残ったもの。

3、「水と緑の回廊」 「桜の回廊」

公園都市としての成功要因

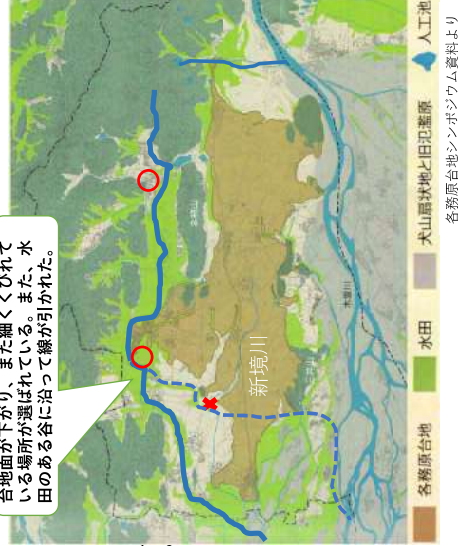
- (1) 地理的要因…シンブルな市域の地形構造
- (2) 地理的・歴史的要因①…中心地に境川放水路と桜
- (3) 地理的・歴史的要因②…台地の恩恵
岐阜大学農学部部の立地により美しい環境を維持。
- (4) 地理的・歴史的要因③…大学移転後、この環境を
遺産として、最大限に生かす政策を市が選択。
- (5) 韓国の春川市との提携と韓流ブーム

【A・Bの断面図】 国土地理院地図より作成



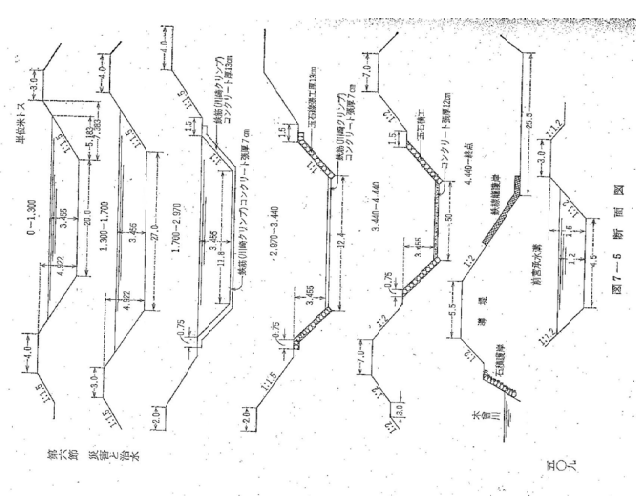
(2) 地理的・歴史的要因①

市の中心部を流れる新境川（境川放水路）が、桜の名所であった。



明治時代の地図→
江戸～昭和初期、境川は、西流して長良川に注ぐ28kmの河川で、各務・蘇原地域、下流域で洪水を頻発させた。
木曾三川工事の完了後、第一の治水工事として、1928（昭和3）年から3年をかけて、台地を掘削し、木曾川に接続する工事が行われた。
費用は、国が42%、県が17%、地域の各組合が40%であった。（『各務原市史』より）

『各務原市史』
P 509



Wiki・各務原市HP・各務原市史より
・境川の近くで育った歌舞伎役者が、工事の犠牲者の話を聞き、約1200本の吉野桜を寄付した！

※市川百十郎（1882～1969）…現在の各務原市蘇原大島町出身の歌舞伎役者

1931年 ふるさと巡業で村国座（明治初期、1974年に国重要有形民俗文化財）にて公演。
境川放水路工事の犠牲者を供養するために、吉野桜を1200本、寄付。
（市史によれば、犠牲者は4人、うち3人は朝鮮籍。市史は、工事に至る経緯や設計図を掲載しているが、工事の詳細や労働者等についての記載はない。）
桜は堤防に植樹され、やがて桜の名所に。
戦中、戦後 薪炭用木材として伐採され、十数本を残すのみに。

1963年 各務原市が市の発足記念に植樹。
1983年 『百十郎桜』と命名
1990年 『日本さくら名所100選』に。
2003年 『飛騨・美濃さくら三十三選』
2008年 『桜の回廊』計画、開始
2012年 完成、総延長は31km。
日本最長の桜回廊をもつ都市に。
（さいたま市や弘前市も日本一を名乗る）
現在、桜まつりには毎年約20万人が訪れる。
近年は、木の老化が進み、そのメンテナンスが課題に。



近年は、木の老化が進み、そのメンテナンスが課題に。

(3) 地理的・歴史的要因②

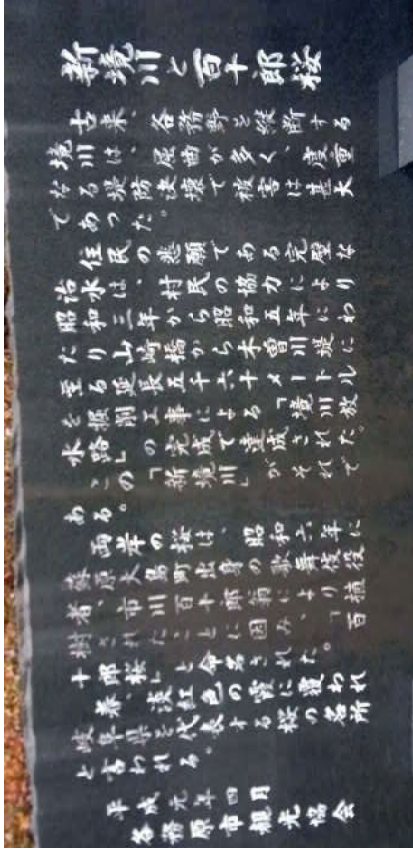
岐阜大学農学部が台地上に立地、市の中心部に美しい環境が維持されてきた。

- ・ 1924年 **岐阜大学農学部の前身** = 岐阜高等農林学校、開校。
- ・ **各務原台地の広大な土地** 瘦せた土地ではあったが、県下の農業の近代化、科学的発展を目指した。
- ・ **陸軍飛行場の設置により、交通環境が整備** されいつつあった。

【大正時代の各務原市の発展】

- ・ 明治期、台地上にほとんど集落はない。

・ 水が得にくい
・ 酸性の痩せた土壌
(クロボク：くろくも)



移転直前の岐阜大学

『絵葉書かかみの』岐阜大学農学部同窓会より
1983年～解体工事開始



岐阜大学
漂真寮・グラウンド
(1983 各西高開校、)

那加中学校

那加第2小学校



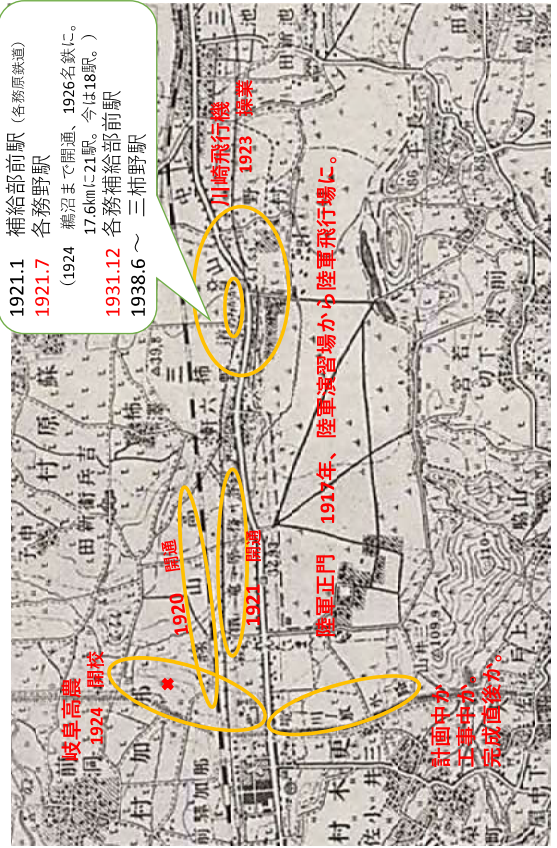
図1 1/2.5万「各務ヶ原」1923年(原寸)

大正12年。岐阜高等農林学校ができる直前。周辺は、桑畑～水田が広がる。まだ、新境川はない。各務原鉄道の鉄路は、後のものと多少違う。

『岐阜の昭和30年代を歩く』井口貢・安元彦心 編著
P.86 「進取・那加の華やかな昭和」文/今井晴昭 より

・大正 (1912～1926) 後期、発展開始。

陸軍飛行場、鉄道、川重、岐阜農林高等学校・・・



「古地図見放題」
スタンフォード大学サイトより
(2016～)

1921.1 補給部前駅 (各務原鉄道)
1921.7 各務野駅
(1924 稲沼まで開通、1926名鉄に。
17.6kmに21駅、今は18駅。)
1931.12 各務補給部前駅
1938.6～ 三柿野駅

計画中小、
五重中が、
完成直後か。



1982年までの岐阜大学正門



←正門跡に建てられている同窓会の碑



現在は、市民公園駐車場



移転前の岐阜大学農場

(「目で見る70年の歩み」・国土地理院1970年代の航空写真より) 25m



放牧場



現在は、
学びの森の
シンボルツリー



『目で見る70年のあゆみ
岐阜大学農学部』
『絵葉書かかみの』
岐阜大学農学部各務同窓会
より



←農場正門

畑・温室
イチヨウ並木
↓

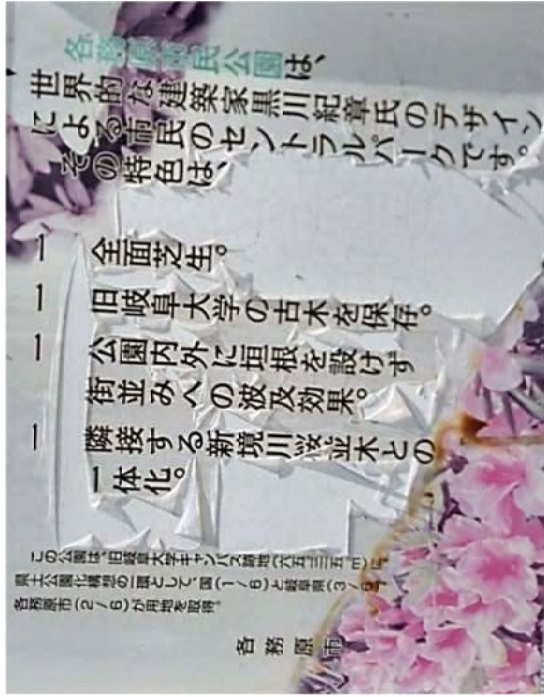


果樹園
↓



(4) 地理的・歴史的要因③…『都心ルネサンス計画』

大学移転後、その環境を遺産として最大限に生かす政策を市が選択。(2001～2008年)



公園の正面に建て
られている看板

(5) 韓国の春川市との提携と韓流ブーム

1999年 春川市と「知識・情報・技術及び人的交流協約書」を締結。
2000年～両市の職員を1～2年の任期で相互に派遣する人材交流、開始。

2002年 映画『冬のソナタ』が大ヒット、ロケ地の春川市が有名に。
→舞台となった春川市南怡島の並木道が、学びの森プロムナードと似ていると話題になる。

※福祉センター前のメタセコイアの並木と、農場跡地のイチヨウ並木を繋げて、当時、市が整備していた約300mの並木道のこと。

2003年 春川市と「姉妹都市提携都市」提携。
2004年11月～12月 姉妹都市提携1周年記念イベント
「冬のソナタ～春川物語」開催。

51日間で約70万人が訪れ、経済効果は約66億円と試算された。また、両市の人材交流で生まれた**各務原キムチ**が会場で爆発的に売れ、新たな市の名産品になった。

2005年 **竹島問題**を機に両市の交流は無期延期に。



ふるさと納税返礼品

各務原市特産のニンジン、
春川特産の松の葉を使用！



12～1月には、20万球のイルミネーションが市民の目を楽しませる。

4、おわりに

「水と緑の回廊」「桜の回廊」 公園都市としての成功要因

- (1) 地理的要因…シンブルな市域の地形構造
- (2) 地理的・歴史的要因①…中心地に境川放水路と桜
- (3) 地理的・歴史的要因②…台地の恩恵 岐阜大学農学部の立地
- (4) 地理的・歴史的要因③…大学移転、「都心ルネッサンス計画」
- (5) 韓国の春川市との提携と韓流ブーム

(6) 防衛省補助事業の他、国からの交付金・補助金
…大きな予算の確保が可能であった。

・防衛省補助事業（民生安定事業）

- 平成14～17年度 学びの森整備事業(4.0ha)
- 平成13～14年度 旗本徳山陣屋公園の新設 (0.45ha)
- 平成17年度～ 生命の森 基盤整備
- 平成22～23年度 浜見公園の新設 (0.15ha)
- 平成21～22年度 羽場南公園の新設 (0.12ha)
- ※平成17～20年度 樺通り整備事業

※もちろん、そのための市の職員の手労にも大きいものがあった…。

※自衛隊立地都市としての恩恵が大きい。 しかし、不利益もある…。



完



PFAS 検出濃度示す地図公表

各務原と泉 39カ所で超過確認

各務原市の三井水源地（三井東町）の地下水から国の暫定目標値を上回る有機フッ素化合物（PFAS）が検出された問題で、県は8日、県庁で記者会見を開き、これまでの水質調査で超過を確認した場所や

地下水調査場所のPFAS/PROAD濃度 (ng/L)
400以上
300~400
200~300
100~200
50~100

WE LOVE GIFU 2024.2.9

また分析が必要とした地図は県のホームページで公表する。今後の調査については定まっているが、継続して地下水を「ろりろ」といふ時、一方で、地図には岐阜白鬚線草基地内の井戸も含まれていない。草野雄自の調査で目標値を超過しているが、草野は井戸を複数設置する恐れがあるため、安全確保上の観点から発表されないとしている。（朝日新聞）

市のHPより 市民公園の次期工事計画

公園都市 = 各務原市の進化は続く...

各務原市次期公園計画

各務原市は、市民公園の次期工事計画を発表しました。計画は、市民公園の整備と、公園都市の進化を促すためのものです。

- 市民公園の整備
- 公園都市の進化

3. 中山道鵜沼宿

景観シンポジウム 2018 にて報告した内容に筆を加えた。

中山道鵜沼宿まちづくりの会 顧問 安田新作

1. 何が私をまちづくりに動かしたか

・私は江戸時代中山道の宿場であった土地に生まれ育ち、我々の世代までは隣近所をお互いの名字ではなく、屋号で呼び合ってきた。

例えば「丸一屋の・・・」、「茗荷屋の・・・」、「丸井屋の・・・」または昔の家業の関連で「紺屋の・・・」、「鍛冶屋の・・・」、「機屋の・・・」、「畳屋の・・・」等であり、我が家のご先祖も「若竹屋」という旅籠を営んでいたため、古い町並みを守ることに関心があった。

・私は仕事の関係で、1995年から2003年末までの8年間ドイツに住んでいたが、欧州ではどの町も人間中心の本当に落ち着いた雰囲気を持っていたので、何とか自分の住む町もこのようにならないかと考えていた。

- ① 町並みの建物の形状、色彩が統一されている
- ② 古い建物が大切に修理されている
- ③ 町並みに多種多様な広告がない
- ④ 緑豊かで噴水のある小公園がある
- ⑤ 町並みに電柱がなく、全て地下埋設されている

・帰国して半年後の平成16年（2004年）6月、市より鵜沼西町公民館にて「景観に関する意見交換会」が開催されたので、町並み再生の活動に参加した。

2. まちづくりの会設立までの経緯

・平成16年（2004年）10月と11月に「旧鵜沼宿の景観方針に関する意見交換会」が2回開催されたが、参加者数名と非常に少ない状況であった。

〔当時住民の主な意見〕

- ① まちづくりをやるなら20年前に始めるべきで、今頃始めても遅すぎる。
- ② 全く店も無いようなところでまちづくりをやっても、他所から人は来ない。
- ③ こんなに交通量が多くては、まちづくりをやっても落ち着かないし、危険である。

・平成17年（2005年）6月から、4回の「風景づくりワークショップ」が開催され、町並みの再生は如何に進めるかを学び、この頃から次第に参加者が増えて行った。

・平成19年（2007年）3月「中山道鵜沼宿まちづくりの会」が、沿道の住民を中心に結成され、現在も会員20名で活動しており、平成23年度までは毎月1回その後は、2ヶ月に1回行政も巻き込んでまちづくりの会を開催している。

〔最初のまちづくりの会〕

忘れてならないのは、平成元年（1989年）鵜沼宿の町並み再生に関して、同様の趣旨で「中山道と鵜沼宿を愛する会」が発足したが、残念ながらその後消滅した。その後の約20年間に本陣の跡地には新しいタイプの住宅が数軒建ち並び、景観が全く変わってしまったが、この事実から町並みの再生には、

- ① 事業には、極力早期に集中的に着手する。
- ② 事業に着手したら、行政と市民がしっかりと協力して頑張る事が重要である。

3. まちづくりの会の仕事

- 平成 19 年（2007 年）3 月 14 日に「中山道鵜沼宿まちづくりの会」が結成され、以来より良い形でまちづくりをするため、市と地元住民がそれぞれの立場から意見を述べ、検討を重ねるいわゆる協働作業で進めて来ている。
- ・平成 19 年（2007 年）2 月 27 日市より「中山道鵜沼宿地区」の風景形成基準（案）の説明があり、参加し議論した。
 - ・平成 19 年（2008 年）8 月に過去 25 年途絶えていた盆踊りを復活した。
 - ・平成 20 年 8 月まちづくりの会から、お願い書と協本陣の設計図及び尾張地区の文学碑の文献を薬師寺に提出し、返還を依頼したことで 130 年ぶりの里帰りが実現した。
 - ・平成 20 年（2008 年）8 月 3 日まちづくりの会として、大垣城鉄門の鵜沼宿への移設に対し、町民文化の宿場に戦国文化の城門は、歴史的整合性がないと反対した。その後国内に残る三つの門（名古屋城、大阪城）の一つであり、歴史的に重要な文化財であると市からの強い申し入れにより受け入れたが、個人的には、鵜沼城址の公園化が進んだ時点で、移築すべきと思っている。
 - ・平成 21 年（2009 年）3 月 26 日芭蕉の句碑が犬山市の薬師寺から返還された。
 - ・平成 21 年（2009 年）5 月 8 日大垣城鉄門移築完成。
 - ・平成 22 年（2010 年）6 月 1 日から「中山道鵜沼宿協本陣」の管理人当番を実施。
 - ・平成 22 年（2010 年）6 月 17 日「鵜沼西町交流館」着工、自治会と共にまちづくりの会として、外観意匠、各部屋の配置と機能に関し各種の提案を実施した。
 - ・平成 22 年（2010 年）11 月 3 日「各務野歴史街道文化財一斉公開」実施に協力して以来、年 1 回秋の鵜沼宿祭りの際、文化財一斉公開に協力している。
 - ・平成 23 年 2 月登録有形文化財以外の家の外観修景の検討に着手し、現在まで 5 世帯が協力、町並み景観向上に貢献しているが、修景の促進には長い時間が掛る。
 - ・平成 23 年（2011 年）9 月 23 日中山道鵜沼宿完成記念祭挙行。
 - ・平成 23 年 10 月 11 日まちづくりの会から「中山道鵜沼宿の活性化案と要望」提出
9 月 23 日の中山道鵜沼宿完成記念祭で、町並み再生のハードウェア部分は、一区切りがついたので、そのハードウェアを利用し、如何に活性化（集客）すべきかというソフトウェアの部分が、重要な課題と考えた。
 - ・平成 28 年（2016 年）7 月 1 日各務原市観光協会に対し、協会の活性化に関する「提言書」を提出した。

4. 中山道鵜沼宿木遣り保存会

- ・木遣りとは木遣りの「木」は大きな木で、「遣り」はある場所から別の場所へ遣り渡す、つまり運ぶという意味
例：山から木を切り出す、切り出した木を筏に組んで川を下る、城の石垣に使う大きな石を運ぶそしてお寺に奉納する重い釣鐘を運ぶ 等木遣り音頭は、皆で力を合わせる時に歌われる「仕事の歌、労働歌」である。
鵜沼宿の木遣りは、歌い手の高齢化などで消え去る寸前であった。
- 平成 23 年（2011 年）5 月鵜沼宿の再生整備事業の機会に「中山道鵜沼宿木遣り保存会」を立ち上げ、9 月の中山道鵜沼宿完成記念祭にてデビューした。年 2 回の鵜沼宿祭りへの参加はもちろん、太田宿の中山道祭への参加や、その他色々なイベントに参加している。

5. がんどばぼち

- ・各務原市鵜沼地区では、ユリ科のサルトリイバラの葉を「がんどば」と呼び、「ぼち」とは、小麦粉を練って蒸したものの呼び方で、「がんどば」を使って作られた蒸し饅頭のことで、昔（昭和 40 年頃まで）は、田植えが終わると家の奥さんや婆さんが、「がんどばぼち」を作り、農休み（のやすみ）のおやつとして食べた。
- ・平成 21 年（2009 年）9 月 25 日「がんどばぼち」の試作品をまちづくりの会婦人部が作製し、市役所の職員にも評価して戴いた。以来各イベントに合わせて作製販売し、今ではかなり知名度も上がって来た。

6. 中山道の美化清掃

- ・平成 22 年（2010 年）7 月 1 日からまちづくりの会で中山道の美化清掃を毎月 2 回（第 2 日曜と第 4 日曜）実施、以来、基本的に休まず継続中。
- ・清掃する範囲は、中山道の中心部を二手に分かれて実施
- ・月別ゴミ収集実績（約 10kg / 月）は、気温の高い時期に多くのゴミが捨てられる
- ・我々の願いは、鶴沼宿を訪れて戴く人々に少しでも気持ちよく散策して貰いたいことと、美化活動を通して少しでもポイ捨てが減ること

7. まちづくりの今後の課題

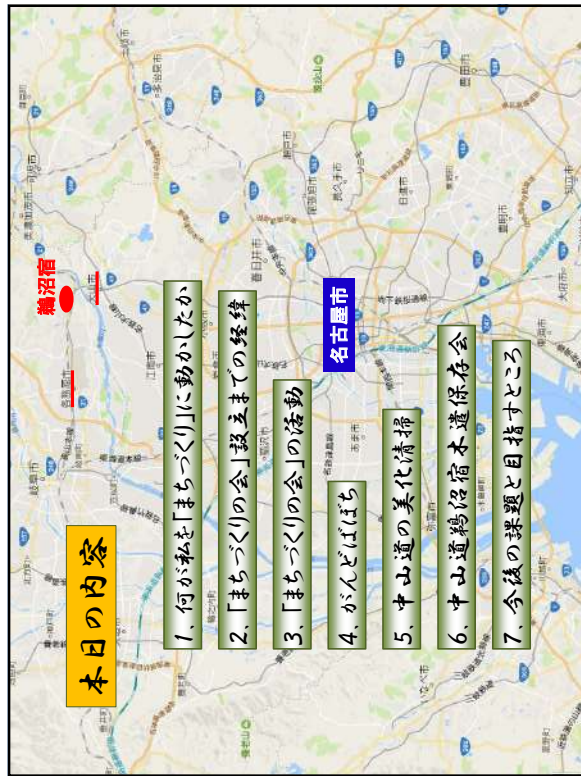
- ・来訪者が安全に安心して歩いて戴けるよう、通過する車が 30Km/Hr を守るように徹底すること、更に交通量の削減、即ち一方通行の実現に向けて取り組みたい。
- ・今後登録有形文化財の建物を維持や管理に要する費用負担、また新築される建物のデザインに関する協力要請、指導 等行政と協働して進めたい。
- ・日本家屋の維持には、伝統的な材料、例えば瓦、漆喰壁、木材 等の確保とそれ等を扱う職人の確保が必要であり、将来発生が予測される地震後の対策も含め、他の団体とも連携しながら、ネットワークの確立 等行政に要請したい。
- ・町並みには既に近代的な家も出来ているため、それらの改修には 50 年、100 年の期間が必要であるので、時代と共に町の景観に磨きを掛けながら、後世に伝えて行きたいと思う。その意味でも若い人達を巻き込み、一緒に議論しながら進めたい。

8. まちづくりの目指すところ

- ・町並みを再生することにより、地域の人々や訪れる人々が「町の美しさ」や「心の安らぎ」を感じ、人と人のつながりが広がり、安全で安心な社会を目指したい。



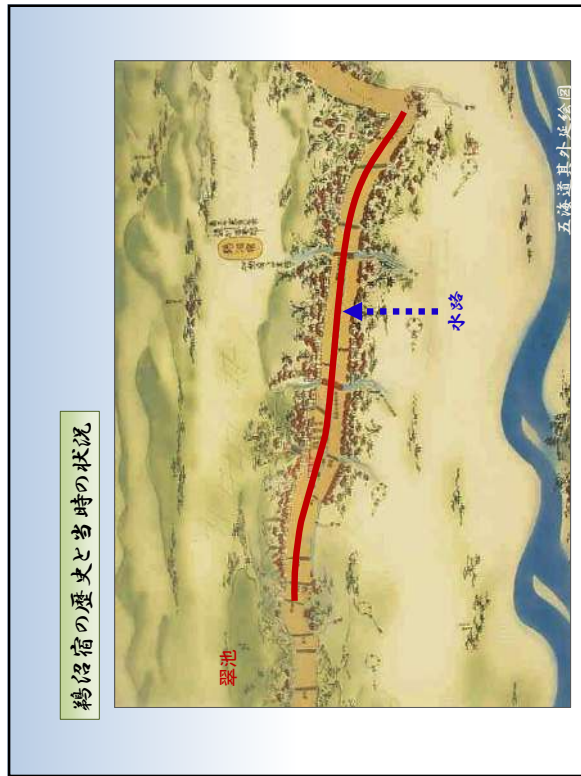
1



2



3



4

8年間のドイツ暮らしで、感じた落ち着いた町並みの雰囲気



- ① 建物の形状、色彩の統一されている
- ② 古い建物が大切に修理されている
- ③ 多種多様な広告がない
- ④ 緑豊かて噴水のある小公園がある
- ⑤ 電柱がなく、全て地下埋設されている

2.「まちづくりの会」設立までの経緯



平成16年

- 6月：各務原市景観基本計画策定委員会設置
- 6月：「景観に関する意見交換会」開催
各務原市の「都市計画マスタープラン」の紹介
- 10月、11月：「旧郷侶宿の景観方針に関する意見交換会」開催

当時住民の意見：

- ・まちづくりやるなら20年前に始めるべきで、今頃始めても遅すぎる
- ・全く店も無いようなところでまちづくりをやっても、他所から人は来ない
- ・こい各に交通量が多くては、まちづくりをやっても落ち着かない、危険である



平成17年

- 6月～：「風景づくりワークショップ」開催(4回)
- 7月：「各務原市景観基本計画」決定
基本計画から「景観法に基づく各務原市景観計画」に移行
- 8月：第一回本曾川景観協議会(各務原市、犬山市)



ワークショップ



平成19年3月：「中山道鴉沼宿まちづくりの会」結成

【過去の失敗】

平成元年に「中山道鴉沼宿を愛する会」発足したが、行政の協力が得られず、事業の進展もないまま消滅し、その後の20年間で景観が大きく変化していった

【その失敗から学んだこと】

- ① 事業には、極力早期に集中的に着手する
- ② 事業に着手したら、行政と市民が「かかり」と協力して進める



より良い形でまちづくりを進めるため、市と地域住民がそれぞれの立場から意見を述べ、また専門家の意見も聴き、検討を重ねるいわゆる協働作業で「景観計画案」の作成及び実施を進める
 ・計画完了後は、その維持管理に積極的に参画すると共に、より広範囲の理解を得ながら、更なるまちづくりの発展を進める

中山道鴉沼宿地区の風景形成基築案

9 緑化

建築物の周囲及び空地、柱土壁には多くの緑の植栽に努めるとともに、趣正な樹木の植栽管理に努める。

鴉沼宿地区に生息する鳥類にやさしい環境を構築するとともに、歴史的な趣意を継承する景観を創出し、観光客の滞在体験を向上させる。また、雨水も大気に還元する緑のインフラを整備し、景観を向上させる。

10 自動販売機

中山道に設置する自動販売機は、周辺の景観に馴染むような高さが適切なデザインとする。また、景観を損ねないよう設置場所を慎重に選定し、設置する場合は地域のシンボルとなる景観を損ねないようデザインを工夫する。



白壁地区 / 高田町



新町通り / 近江八幡町



平成18年

3月：「各務原市景観計画」策定
 「中山道鴉沼宿地区」を重点風景地区として位置づける。

平成19年

2月：「中山道鴉沼宿地区の風景形成基築案」の説明会
 6月：「中山道鴉沼宿景観計画」告示
 8月：「中山道鴉沼宿景観計画」施行開始

歴史的な文化遺産の保全、復元、活用を図りつつ、鴉沼宿および宿場町としての歴史的街並みにふさわしいまち並みの再生と創出、および歩行者が安心して歩ける道づくりを行う

町並み再生にかけた情熱


— 神奈川大学 西和夫研究室

平成17年
 9月～10月：古い町並みの家々や酒蔵等の調査

平成18年
 4月：西教授の第1回講演会

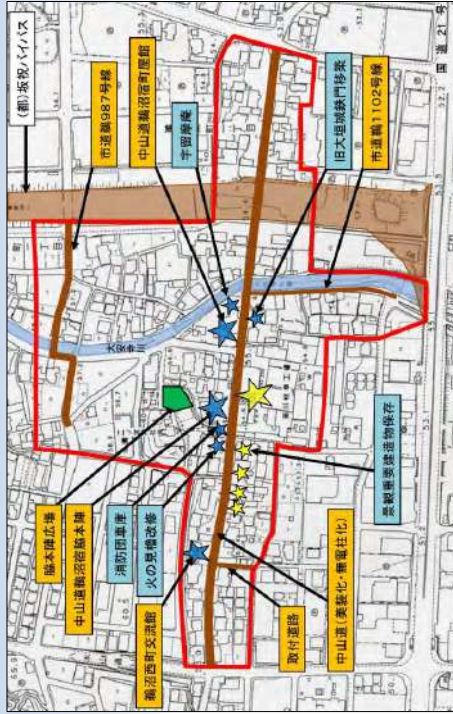
平成19年
 5月：西教授の第2回講演会

平成22年
 12月：意見交換会



西和夫教授

町並み再生事業の基本計画(平成18年～22年)



中山道鶴沼宿町屋館の修復



町屋館(旧武藤家)籠れ産敷

中山道鶴沼宿町屋館の修復



旧武藤家
屋敷は、中庭を囲むように
・主屋(旧郵便局)
・東側の附属屋
(現歴史民俗資料館)
・西側の籠れ
の三棟からなる



江戸時代は「須屋」の屋敷で旅籠を営んでいました。本家より郵便局業務を引き継ぎ、昭和39年(1964)まで同局

中山道鶴沼宿町屋館修復



歴史民俗資料館窓口



町屋館籠れ産敷での定例会議

(各務原市歴史民俗資料館)

中山道鶴沼宿鵬本陣復元



平成22年5月完成



鵬本陣跡



中山道鶴沼宿鵬本陣復元

芭蕉の句碑を芝生広場(当初案)から中山道沿いの設置を提案(実現)



移設前の句碑群

中山道鶴沼宿鵬本陣復元／芝生広場



芝生広場から見下ろす鵬本陣



中山道鶴沼宿鵬本陣復元／芭蕉の句碑



ふく恋るも喰へは喰せよきく乃酒

「まちづくりの会」から、お願い書と鵬本陣の設計図及び尾張地区の文学碑の文献を薬師寺に提出し、返運を依頼したことと130年ぶりの里碑りが実現しました

景観重要建造物の保存改修



23

景観重要建造物の保存改修



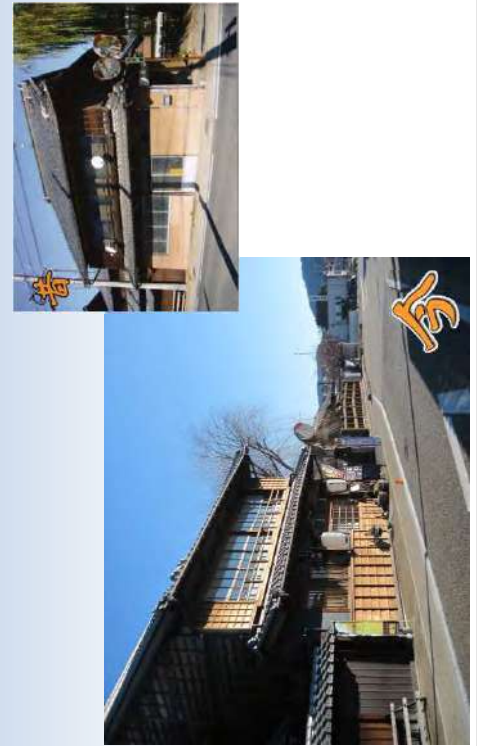
24

中山道鶴沼宿本陣復元／管理受託

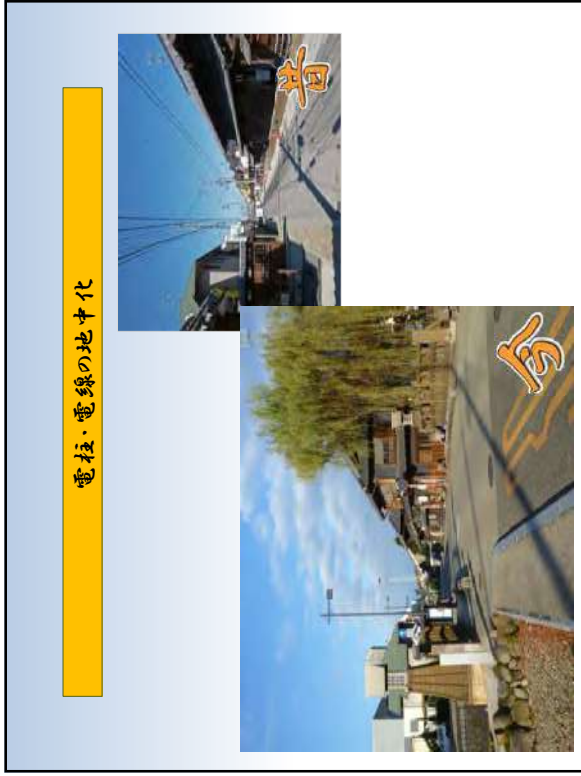


21

宇留庵の改修（一服茶屋「花ノ木」）



22



歩行者優先の交通安全対策

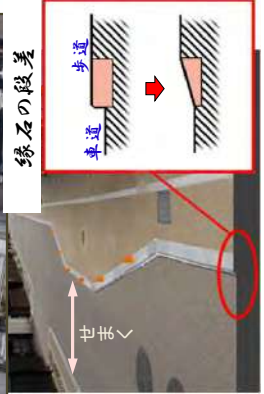


車道に狭窄部設置

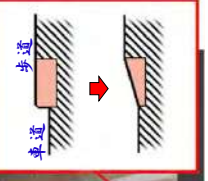
制限速度40km/h⇒30km/h



減速のマーキング



縁石の段差



鵬本陣東隣の石碑も町显み再生事業に加えるよう要望



「南豊妙法蓮華経」の碑文のため実現せず、以来「まちづくりの会」で清掃活動を続け、保存に努めています

せせらぎ水路の復元



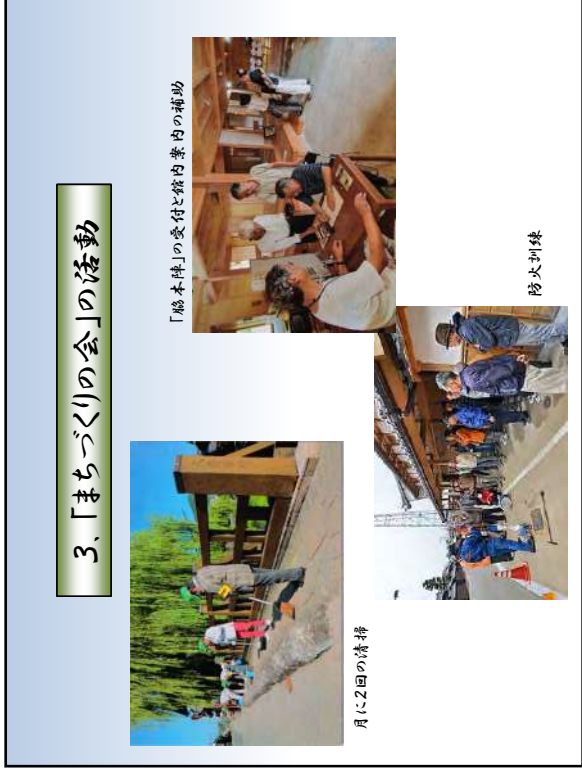
水質改善の取組み

年2回、木酢液散布
(平成25年より)



平成23年8月：各務原市と犬山市で「まちづくり盟約」締結





3. 「まちづくりの会」の活動

- 1) 「中山道鶴沼宿景観計画」策定への参画
- 2) 「中山道鶴沼宿景観計画」施行に協力
(町並み再生事業)
- 3) 再生された施設の保全
 脇本陣の受付、清掃活動、防火訓練
- 4) 町並み再生への理解の拡大
 地域団体との協働(全議への参加)、イベント企画への参画
- 5) 知名度の向上、集客力のアップ
 がんどばばら、犬山市との連携、商業施設の誘致



防災訓練



37

4. がんどばぼち



39

平成26年1月

第60回 文化財防火デー 防災訓練

- ・トリアーゴ訓練・初級消火訓練・放水訓練
- ・通報訓練・避難誘導訓練・搬出訓練



38

平成21年9月

「がんどばぼち」の試作(まちづくりの会婦人部)



40

サルトリイバラ
「がんどば」=「猿捕蒺」



【サルトリイバラの葉】



【サルトリイバラの花】



【サルトリイバラの実】



5. 中山道の美化清掃(毎月2回)



「ばち」とは小麦粉を練って蒸したものを



小麦粉を練った生地をこねる



「がんどば」にのせて蒸し器へ



6. 中山道鶴沼宿木遣保存会



日本火洲(の江戸本選り)



伊勢式年遷宮のお本曳



諏訪大社御柱祭

清正の石引



慶應15年(1610)築城の名古屋城

平成9年(1997)の棒振り復活



この時結成された保存会は、平成11年(1999)の白山神社落慶法要を最後に僅か3年で解散

昭和36年(1961)の棒振り(本遣り)



毎月2回の練習／毎年3～5回本遣りを披露



花園会愛知西教区大会／犬山市民文化会館

平成24年7月

第七回
まちづくり情報交流大賞で
「まちづくり効果賞」受賞

平成25年2月

国土交通省の
「まちづくり郷土賞」
の認定証授与










7. まちづくりの目指すところ

- 町並みの再生により「町の美しさ」や「心の安らぎ感」を創出
- 人と人のつながりが広まって「連帯感」が生まれる
- 安全で安心な社会を目指す




7. 「まちづくりの会」今後の課題

- **安全安心**
交通量の削減
● 平成16年頃: 10,000台/日 → 狭持駅設置後: 3,500~4,500台/日
● 今後、一方通行化を実現し、さらに駐車減を狙う
- **集客力**
● 多彩なイベントの開催や近隣自治体との交流拡大
● 商業施設の拡充及び周辺観光地とのリンク
- **持続性**
新しいタイプの家が既に建ち、今後増加の可能性大
● 会員の居住範囲拡大により、新しい協力者を増やす
● 50年、100年掛ける事業と捉え、若手メンバーの積極勧誘

中山道鶴沼宿における保存活用の取り組み

平成29年2月1日(水)

ご静聴ありがとうございました



中山道鶴沼宿まちづくりの会 会長 安田新作

4. 中山道間の宿 新加納まちづくり会

(1) 活動の背景

本地区は、中山道 52 番目の「鵜沼宿」と 53 番目の「加納宿」の間に栄えた間の宿で、関ヶ原の戦いの戦功により旗本坪内利定が設置した新加納陣屋が存在したことで知られる。明治に入り、陣屋は解体されたが菩提寺少林寺を始め、趣のある建造物、神社など歴史的な景観資源が多く残されており、平成 20 年 8 月には景観法に基づく「重点風景地区」に指定されている。平成 22 年度からは「新加納地区都市再生整備計画事業」がスタートし、歴史的な趣と調和するまちなみの保全と安全安心なまちづくりを進めてきた。この事業に合わせて、平成 23 年 7 月に町内の有志 50 人で「中山道間の宿 新加納まちづくり会」が発足、郷土に対する理解と愛着を高めて、住みよいまちをつくる活動を行っている。

(2) 活動の概要

まちづくり会では、年 1 回の総会のほか、毎月第 2 月曜日の定例会やまちづくりについてのワークショップなどを定期的で開催している。また、まちづくりイベントとして、講演会や視察研修、歴史勉強会、事業進捗報告会を開催するとともに、新加納にまつわる歴史コラムなどを掲載した「まちづくりかわら版」をこれまでに全 21 号発行している。さらに、会のホームページを開設したり、フェイスブックなどの SNS を活用して、本地区の魅力について積極的に情報発信を行っている。

市事業の「都市再生整備計画事業」における道路や公園などの整備では、地域住民の意見をとりまとめるなど市と住民のパイプ役となり、住みよいまちづくりに大きく貢献した。また、平成 22 年度より地区内で実施された「新加納土地区画整理事業」では、新たに居住し始めた住民にも地区の魅力を伝えることで、郷土愛を醸成し、地域の絆づくりを図っている。

加えて、防犯・防災活動を行う「新加納防犯パトロール隊」、道路や公園の清掃活動を行う「パークレンジャー」、景観を保全する「ビューレンジャー」、地域の子どもたちに「ふるさと新加納」の歴史を伝える活動などが、まちづくり活動を行う過程で派生的に立ち上がり、自分たちの住む地域を自分たちの手でよくしていく取り組みを行っている。

(3) 活動の特徴

- ・先人たちが築いた中山道間の宿の歴史や文化を、地域住民自らが丁寧に掘り下げ、その魅力を再認識することで、郷土愛を醸成し、まちおこしと地域の絆づくりを主体的に行ってきた。
- ・地域の歴史・文化を、土地区画整理区域内に新たに住み始めた住民と共有し、次世代に継承していくことで、「ふるさと新加納」として、将来にわたり住み継がれる、個性豊かなまちとなった。
- ・ドローンにより撮影された地区の魅力を SNS で発信
- ・開催した行事は動画で撮影し DVD に保存して次世代に継承
- ・「新加納防犯パトロール隊」は無線機を使用して地区の安全を連携して確認

- ・日吉神社にまつわる「日吉のかえる伝説」を継承するため、まちづくり会と地元中学校が共同で「日吉かえるプロジェクト」を立ち上げた。新加納駅前に整備された広場は「けろっと広場」と名付けられ、かえるの形をしたモニュメントを設置
- ・合唱、創作劇「ひよしのかえるものがたり」が作られ、子どもたちによって地区の伝説を継承
- ・各務原児童合唱団協力のもと「日吉かえる歌伝承会」を開催
- ・市と連合自治会と自治会が一丸となってまちづくり会を運営

(4) 今後の活動

- ・新加納陣屋公園を拠点に子ども会、シニアクラブなどの他団体と連携し、まちづくり活動を展開、地域の絆を形成
- ・旗本坪内氏が石川県ゆかりの富樫氏の末裔であることから、野々市市との歴史を通じた多彩な交流

- ・土地区画整理区域内に新たに居住する住民にも地区の魅力を伝え、郷土愛を醸成するとともに景観形成・保全に取り組む
- ・防犯・防災活動を行う「新加納防犯パトロール隊」、道路や公園の清掃活動を行う「パークレンジャー」、景観を保全する「ビューレンジャー」、地域子どもたちに「ふるさと新加納」の歴史を伝える活動の継続
- ・新加納にまつわる歴史コラムなどを掲載した「まちづくりかわら版」の発行
- ・ホームページやフェイスブックなどSNSを利用して、積極的に情報発信





まちづくり会によりデザイン提案された新加納陣屋公園
(施工前)



まちづくり会によりデザイン提案された新加納陣屋公園
(施工後)



新加納陣屋公園のまちづくり会により作成されたパネル



まちづくり会により推敲された旗本坪内氏由緒記



年1回の総会



毎年行う講演会



まちづくりについてのワークショップ



毎年行う先進地視察



まちづくり会が作成したパネル勉強会



地域の子供たちに行う歴史勉強会



地域の子供たちに行う歴史探訪



石川県野々市市との交流



地域の子供たちに防犯活動を行う新加納防犯パトロール隊



まちづくり会より立ち上がった新加納防犯パトロール隊

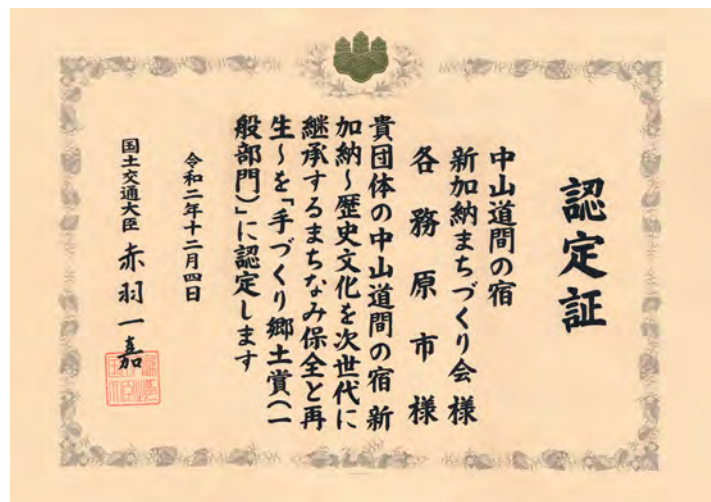


日吉神社に奉納された日吉の蛙



全 21 号発行しているまちづくりかわら版

中山道間の宿 新加納～歴史文化を次世代に継承するまちなみ保全と再生～
令和 2 年度「手づくり郷土賞」(一般部門)応募資料より



新加納の思い出：祭り、学校、大学生活など

《瓢箪池》

瓢箪池では、毎年ガマガエルのおたまじゃくしが夥しい数で泳いでいました。数百の群れが居る所は真黒になっています。池はひょうたん形で、池の中あたりに岩が二つ程あったと思います。墨を水面に流したような景色です。膝までの水がありました。この池は、年中水の枯れることはありませんでした。どの位置か解りませんでした。「湧き水があるのだ。」と古老が言っていました。蝦蟇の誕生池が瓢箪池です。もう一つ年一回ですが、瓢箪池が利用されたことがあります。春の祭りの日（四月の第一日曜日）の厄年の餅投げに関することです。

厄年では、四十二歳が一俵、二十五歳が半俵の紅白餅を投げます。台櫃に紅白の餅を綺麗に積み上げ飾り注連を付けます。私の時は、四十二歳が十九人、二十五歳が五人でした。それぞれ二つの台櫃の餅を投げました。新加納の厄年の餅投げは、数が多いので近隣の村々に鳴り響いているため餅拾いの人々が多数来ていました。想像してほしいのですが、五十以上の御台櫃が、L型に作られた檣の上に並んでいるのは壮観です。花火の合図で各自一升餅を播きます。次に一合餅を、最後にカマスを二つ投げます。カマスの最終到着場が瓢箪池です。

カマスには縄が、一尺程の長さで十本以上付けてあります。この縄に最後まで捕っていた者が、カマス餅の分け前の権利がある訳です。男気のある者たち、元気のある者たちが、半分喧嘩気分で群がります。これもまた壮観です。池に入り最終人員を確認して、平地で山分けとなります。伯父が言っていました、拾った餅は全て無くなり、服は揉みくちゃの中で破れていたとのこと。全てが水濡れ、汚く見苦しくても、この日だけは妻にも家族にも咎められることは無いです。むしろ妻は夫に愛情が溢れたことでしょう。

餅は業者に搗いてもらい厄年の人が御台櫃に積み上げて注連で飾るのです。餅投げまでに四日程が経っているので固くなっています。顔に当たると怪我をします。覚えているのは、中学生だったと思いますが、和服姿の三十代の女性の額にスコンと当たった事です。一言も発せずに蹲りました。急ぎ救急車が呼ばれて病院へ行きました。これ以降は、下から投げることになりました。遠くに飛ばなくなり餅投げの棚からは十メートルに人が集中する事態となり、餅の争奪戦が勢いを増しました。結婚当日の嫁入り時の菓子播きと同じで、播いた方向に人が群がって動きます。自分の匙加減で自由にできるのです。これは快感でした。息子の厄年には、この快感を伝えましたら、すぐに参加を決めてくれました。やはりこの快感は味わったと言っていました。

神社と私達の関りは、あまりありません。檜の巨木が林立している状況は、森そのものです。何時も日陰が十分に地面に広がっていて僅かな日溜りは正殿の前の広場くらいだったと思います。祭りの日は、この広場で相撲が催されて、私はいつも参加していました。三人抜き、五人抜きで勝ちますと、バケツの賞品を頂きます。お金もあったような記憶はありますが、確かではないです。従兄弟が祭りに来ていて、二人勢い良く飛び出していました。彼は、私より背も高く、腕節もあります。他の人は気後れして土俵に上がりません。仕方なく私と二人で対戦するしかありません。私の戦法は、潜込んで寄り切るのですが、腕をつかまれ両手で軽々と持ち上げられ、土俵の外へヨッコイショと置かれ、簡単に負けです。力量が違うと悔しさは全くありませんでした。

後、日溜りを使用したのは、夏休みに通学班での夏期学習でした。でも日溜りは、移動するのです。日が当たっている時は、暖かいのですが、十分近くで日陰になると肌寒くてたまりませんでしたので、日溜りへと蔭を移動させるのです。でも直また日陰へ移動です。三回も繰り返せば、面倒で学習は中止で、遊びに変更しました。動いていれば寒くなく時間も過ぎてくれます。鬼ごっこが一番でした。

瓢箪池での思い出が、もう一つあります。それは、ザリガニ釣りです。池で遊んでいるトノサマカエルを捕まえることから始まります。当時どの家庭でも大麦を裏作で作っていました。収穫した麦を精米所に引き取ってもらい、うどんの引換券で貰います。食べたくなったら券でうどんを必要なだけ受け取ってきます。ほとんどが、今で言います煮込みうどんとして食べます。身近に肉は無いので油揚げが入るものです。寒い日々でも最高な食生活でした。さて大麦のストローを二三本短くして持って池に向かいます。捕えた蛙の尻穴にストローを差し込み息を吹き込みます。吹く時、絶対にストローを吸い込まないことです。小便がストローから口に入り込んでしまうのです。誰でもこの失敗はして上手になるものでした。味は覚えていませんが、びっくりして唾を吐したのを記憶しています。ストローで息を吹き込むとトノサマさんの腹は見事に膨らみポンポコボンになります。かわいそうなので、池にポイ捨てしますと、浮いてしまってもがいていました。いつまでも見とれていると次のザリガニ釣りができませんので、次の蛙を捕

えることとなります。結果として蛙の足が枝につけた糸に結びつけられます。これを池に垂らすとザリガニがハサミで取りに来ます。入れ喰いではないので少々時間がかかります。先のポンポコ蛙に気づき水面を見ますと、何にも見当たりません。空気を吐き出したのでしょうか。今思えば残酷なことをしていました。ひと夏に三回釣ったと思います。

《神輿》

祭りの主役は神輿ではないでしょうか。十二町の思いで作られた子供神輿です。祭りの一週前に神社の倉庫から出してきた各町内組長宅で作る訳です。私の町内では当日に各家庭で飾る花を五十個作って持ち寄ります。赤・白・青の三色が組長さんの手で配られます。花を飾る竹を二十本程、一間程の長さで作ります。竹竿は五分幅強あり、これに障子紙に糊を塗り巻き付けます。竹は真竹を使用します。以前は村内各地域に真竹があり、苦もなく入手できました。現在は孟宗竹がほとんどです。真壁に使用されなくなり、筍としては美味ではなく、重宝ではないです。今ではアパート・分譲地となることが多いです。木曽川沿いに残っているので、私はここで調達していました。私の町内の神輿は指物師の水野さんが無償で作られたものです。桧で大変立派な気品が漂うものです。出来た看に、一つの議論がありました。白木でいくか、朱色にするかです。色を塗るのはいつでも可能なのだから、初年度は白木を私は主張しましたが、朱塗となりました。残念無念でした。今尾医院の先生も白木を提案されたと記憶しています。一人でなかったことに、安堵の気持ちになった記憶があります。長老が二三人言い張れば右へ倣えでした。赤鳥居、鏡、幕、紅白の縄で締めつけて出来上がりです。昨今の神輿のつり手は、子供が少なく大人が大半です。どこの町内も同じ状況となっています。神輿は土曜日に町内を隅なく回ります。このとき各家庭から祝儀を頂きます。神輿の飾り付けの道具代、子供のお菓子代、御神代に使われます。収支はなんとか赤字ではなく続いています。戸数は四十一戸です。

祭り本番は翌日の日曜日となります。昼に組長さん宅を出発して日吉神社の鳥居に集合します。境内への乗り入れ順は宮当番の順が所定の位置となります。十二町の神輿に大人神輿（昔の青年用）二基と中学生の金銀の蛙神輿二基が加わります。蛙神輿は平成十四年四月に立ち上がっています。大人神輿、蛙神輿は新加納中を廻っています。大きな部落ですから相当の距離を歩くのだから大変疲れます。毎年ご苦労様です。



本年度の宮当番である神輿が境内に入り円を描いて二回廻り順に並び神主の厄払いを全員で受けます。大人神輿の喧嘩神輿の実演が催されます。金銀の二基が木の股で宙に持ち上げられぐるぐると数回廻されます。手力での本番では神輿が上下に重ねられます。二つの神輿で時間切れの最後に上にいたほうが勝ちとなります。このため上になるための男たちの動きは、喧嘩以外の何ものでもありません。花飾りが取り付けられ神輿は元の姿にもどり、町内神輿の最後に境内を去っていきます。町内に戻り解体され、神社の倉庫に納まり催しは終了。町内では子供達に菓子が渡され、大人には神酒が配られて全ての祭り行事が終了となります。

神輿は二つあります。大人神輿と中神輿。

今では町内で作る子供神輿。中学生が担ぐ蛙神輿を含めて四つとなります。大人神輿は、手力神社に奉納される喧嘩神輿でしたが、蘇原地区で人身事故があり中止となりました。以後中神輿は「神輿保存会」により毎年担がれてきましたが、近年担い手が無くなりつつあり、コロナ禍で中止の場面も出てきました。鍋屋工業の従業員さんに助けを求めましたが、会社移転で厳しい年々となっています。

子供神輿は、十二町独自で作っています。私の西本町では花神輿です。祭りの一週間前に各家で作った花を持ち寄り、竹に取り付けて飾を付け完成させます。

中学生の蛙神輿は、金と銀の蛙が取り付けられて完成品としてあるので、毎年倉庫から出して祭りに使います。平成十四年四月から始まりました。一番新しい歴史となります。



《ひよしの蛙》

長尾先生は、私の中学生の時の音楽の教師でした。高校入学年に岐阜国体があり、先生は入場式で音楽演奏の指揮をされました。入場式に聖火を持って最終ランナーを務めたのが現在の古田知事です。坊主頭に鉢巻を締めガニ股でした。式の終わりに鳩が飛び立ちました。この時隣の岐高生の頭にフンが落ちて小さな騒ぎが起きていました。これらは予行練習時の出来事です。

中学一年の時、先生の授業中に津田君が「君は誰が好きだ。教えろよ。」としつこく話しかけてきます。声が大きかったので先生の耳にすぐ入り私達二人は立たされました。「何を話していたのだね。」津田君は正直に答えてしまいました。「では誰が好きなんですか。」と先生は尋ねられました。私は思う人はもちろん居ましたが「居ません。」と返事をしましたが津田君は女性の出席番号を大きな声で答えました。彼女は自衛隊幹部の子女です。大変迷惑なことでしたと思う。私の思い人も同じ席番号でした。クラスはもちろん学生五百四十名に知れ評判となりました。

各務原児童合唱団は、長尾先生が代表で、副代表の青木先生は娘さんです。「日吉のかえるものがたり」は、青木先生が作詞作曲されたものです。創作オペラです。作詞については、ふれあいセンターで二度程打合せをしました。方言についてのものでした。

平成二十八年五月七日「あすかホール」で初演を迎えました。たくさんの子供が可愛いしぐさで演じてくれました。関係者たくさんで行きました。好きで入ったとはいえ歌と踊りの両方を教えて、そして見事に演じ切ることは並大抵な事ではないです。感服を致しました。



《林本店》

十月十一日十時に林本店社長を訪ねました。日吉神社の瓢箪池の湧水と酒造りの水とが同じ水系の水ではないかとの思いからです。酒造元として成立したのは大正九年十月です。里榮子さんは五代目となります。私は二代目から存じています。二代目の栄一さんは、恰幅が良く少々小太りの方でした。奥様も快活な方でした。小さな頃お婆さんに連れられて蔵開きに行きました。二回は訪れたと記憶があります。帰りに酒粕を頂いて帰りますと、たまり醤油をつけて焼いたのを作ってもらいました。子供故、お酒は駄目ですが、これは普通に食べさせてもらいました。でもやはりお酒の効果はあり、ホンワカ気分になったものです。甘酒は作りませんでした。思うに砂糖がまた我が家には希少価値があったのでしょうか。

さて酒造りの水は、現在深さ七十メートルの井戸から汲み上げて、酒と家庭生活の全てに使用しているとのこと。中庭には、井戸があります。昔はこれで賄っていたのでしょうか。釣瓶と木の滑車が残っています。社長のお話ですが、水は木曾川水系ではなく、長良水系とのこと。この水系について、北は昔の東山道から南はエーザイ川島工園までの地下五百メートルの円錐を考えると、ここにある貯水量は琵琶湖の貯水量に匹敵するとの興味深い話を聞きました。各務原台地は木曾川の扇状地の一部ですから、長良川水系が古いものとなります。

水系について

飛騨小坂の巖立峡は、五万四千年前の摩利支天火山郡の活動により噴出した溶岩が原因ですから、濃尾平野ができたのはそれ以降のことです。昔、浜見町まで海であったと聞くことは、木曾川の活動がいかに活発であったかを想起させます。現在の木曾川の流れは、一五八六年（天正十四年）六月六日、一夜にして現在の境川から南に移動したのだから納得できることです。治山治水が可能な現在では考えられぬ程の大変化が自然現象の度々にあったのです。

日吉神社境内の西側部分の一部に湿り気があります。地下からの湧水があるのでしょうか。私には日吉の水と林本店が使用している水とが同じ長良川水系のものと思われるのです。日吉の水は平安の時代に祀られた大山咋神が鎮座された以前から存在した謂れです。現在の境内の面積は三千坪は下りません。過去の飢饉時に農耕地に利用されることもなく存在してきました。ですから伊勢湾台風時まで樹齢数百年ある松の巨木が林立して森を形成していた訳です。各務原市に他に日吉神社があるのは蘇原熊田町です。境内は二百坪程です。三千坪は、飛びぬけて広大な境内なのです。これには言い伝えはありませんが、重大な理由があることと思えてなりません。どこかに古文書でも発見されるのではと考えるとロマンがわいてきます。

お米は地元のハツシモを使用していて、社員は十名ほどで昔のように杜氏は新潟からは来ていません。社員で全てを製造しています。お酒の製造期間は九月から翌年の四月までの八ヶ月。五月からは、お酒の瓶詰・蔵の清掃です。女性社長の蔵元は全国的に少なくないそうです。新商品開発の気概はすばらしく、チューブ入りの商品を販売されました。単体で配達するとガラス瓶では割れてしまう事故が発生する訳です。航空便を使用して割れたりしたら他の配



達物に被害が出ます。女性ならではの発想ですね。私は下戸で日本酒には無知なのですが、吟醸酒を飲んでみたい気持ちになっています。誰か一緒にどうですか。

酒瓶には歌舞伎役者の顔が貼り付けられています。今迄見てきたラベルで斯様なものは無かったので吃驚しました。意表を突く斬新なものです。社長の発案でした。今の販路に欧州があるそうです。国内はもちろん外に目を向けた行動ができるのは、ただの思いつきだけでは駄目であることは周知のことでしょう。地道な忍耐強い努力が必要であります。継続程、辛くて苦しいことはないと思います。さらなる飛躍が見られると期待しています。

《小学校》

一年は小野先生です。中年の女性です。ふっくらと色白の方でした。五十代ぐらいでしょうか。二年は戸谷先生、この方は定年間近でした。非常に優しい方で怒ることが無かったです。三年が覚えてないが四年が岩佐先生男性です。五年も担任だったかな。六年は男性の先生の名前が出てきません。東先生かも。思い出は理科室でのことです。岩佐先生は理科を大変解り易く説明されるので興味が自ら自然と湧いてくるのです。水を沸騰させた空気をガラス管に通すのです。ただしこの管は水中におかれています。このため蒸気は冷やされ、水滴が出現します。この理屈が物理現象で雨降りも同じことです。

理科室には、小学校が出来たときに出土した錆びた鉄銚、勾玉が有りました。時々この部屋に入る訳ですが、何故かしら楽しみでした。古代の生活が、豪族がこの小学校の土地に居たことになります。ロマンがそこに有りました。話はこのことではありません。部屋の中には、多くのホルマリン漬けの標本があり、この中の一つに釘付けになったのです。中には赤ちゃんが丸くなって沈んでいます。学校に人間のホルマリン漬けがあるのが不思議に思ったことだけは覚えています。いつからあるのか謎ですね。ある時、先生に間近で見せていただくことになり、先生が奥から出てきて頂きました。私たち数人は、近くでまじまじと見たいが半分、気味が悪く怖いのです。自然と先生を押すことになるのでした。先生はガラス瓶を、手を滑らせ落としてしまうのです。ガシャーんと大きな音がしたことでしょ。辺りにホルマリン液が飛び散り、その臭いが鼻を曲げます。後日新しいガラス瓶に落ちていた赤ちゃんを見ました。岩佐先生本当にごめんなさい。六十年後にやっと謝ることができました。先生は、中学生になると同じく那加中に転勤となり、私達を引き続きあたたかく見守ってくれました。

《中学生》

一年は中野先生です。聖心女子大出の方で、正田益子様のことをよく話していました。二年は小川先生、三年も担当となりました。体育と英語が担当で、陸上部もみていました。陸上部では種目はなかったです。自分は身長が一メートル五十九センチで寸足らずで飛び抜けて成績が良くないのです。だから走る飛ぶ投げるは全てができる人で人並でした。

しっかり記憶にあるのが、一つ上の学生に二人、下に一人のハーフの子がいました。下の子が女性でした。これは、今の岐阜基地に進駐軍がいたことによります。みんな仲良く生活していたと記憶しています。

陸上部で一年先輩の高跳びは、男女とも地区一番のジャンパーでした。武市さんと和田さんです。和田さんはハーフ顔でスタイル抜群なのでした。近くで練習を十分に見学できるのは部員の特権ですから、毎日活用してニンマリとしていたものです。今はどこでどうしているのか。

《七十年日米安全保障条約 反対デモ》

デモは六十九年のものと思われま。写真が撮られたのは、那加栄町岐阜信用金庫前の歩道橋からです。岐阜大学の西側の新境川の那加橋から西へ百四十メートル程にあります。道は(中山道)旧国道二十一号線で那加メインロードとなっています。撮影者は、歩道橋近くの有限会社松原文具店のご主人です。

デモがあった時代は、七十年安全保障条約反対の活動が活発でした。



東京大学安田講堂占拠、封鎖解除事件で六十九年度の東京大学入学は中止となりました。私は昭和四十四年度に林学科に入学しました。二十八名同窓の中で浪人生が十二名いました。三浪も北海道出身で一名いました。この六十九年度は、全国の大学入試のボーダーラインが上がったことの余波が岐阜大学入試にも影響した結果ではないかと今も考えています。

《学生生活》

那加キャンパスは、農学部工学部の専門学部です。教養部は一年半を長良キャンパスで過します。ここで必須単位を取得します。教養部から専門的那加キャンパスへ無事進学することを「長良川を渡る」と言います。ですから友達には「長良川を渡れたか。」と教養部終了近くになると聞くのが挨拶言葉となります。私は十二単位程落していたので仮進級でしたから。私は「一応渡るけど、又戻らないかのやわ。」と答えていました。大体渡ることの出来ない者は見ていれば解るもので、農芸化学の神谷君などは「やっぱりお前もか。」と返事してくるのです。仲間が居て喜んでいました。半年間は中途半端人間でしたが、全てを「可」で通して真当になりました。この時も神谷君が、本進できたか聞いてきましたので、「単位とれたよ。」と言いましたら「本当かよ。」と驚いていました。やっと胸を張れる喜びを感じました。

学部には京都の江持大田君二名大阪の坪田君、の関西出人の三人が居ました。昔から箱根越をして来る関東の人は無かったと聞いています。三浪の伊東君は北海道の北見沢だったと記憶していますが、全く異質な人物と言えます。私は那加新加納の自宅から通学でした。愛知、三重、岐阜出身が大半を占めています。遠方の学生は寮に入る人が多く居ました。

《寮生活》

女子寮は長良に一つ有りました。男子寮としては二つありました。いずれも那加キャンパスの近くです。西高の場所にあった「凜真寮」です。工農学部生が入寮できました。今一つは農学の「瑞天寮」です。農場の中にあり静かな場所です。今は公園と市の会館がある所です。この農場で思い出すことがあります。それは戦前陸軍の戦車が一台あったことです。小学校の遠足で行った時見た記憶がありま（す）ので昭和三十年頃までであったと思われる。

寮生活については、凜真寮に入寮した大阪市生まれの「坪田」君に。瑞天寮に入寮した、京（都）市生まれの「太田」君の両名の「林科四八記」の文章から抜粋します。

《凜真寮》

凜真寮は、三棟の木造二階建てです。農・工・医学部の男子が入寮し、八十名程の寮生が生活します。二年程の期間が多いようでした。隣に四百メートルのトラックがあり陸上部ラグビー一部が使用していました。現在は、各務原西高等学校になっています。

《寮のファイヤ》

坪田君の凜真寮の語りのなかで「ファイヤーを囲んで」の一文があります。このファイヤーは鉄道の枕木を燃やして行なわれるのが伝統となって居ました。では何処で調達していたのかと言いますと、名鉄新那加駅から借用していたのです。今では枕木はコンクリートに変わりましたが、木の枕木が全てであった時代でした。寮生が駅から枕木を運ぶのを観た人が警察に連絡したそうです。これが為永遠の借用の行動は中止となったと聞きました。寮生と周囲住民との良き暗黙の伝統が有った訳です。駅の方でも、燃しても良い枕木を、これ見よがしに一目で解る様に置いて用意してくれいたに違いありません。微笑ましいことでした。

鉢での酒の一气飲みあと工学部の一名が救急車で病院に運ばれました。後日名鉄電車に乗って居て偶然会いましたので入院のことを聞いてみました。彼は笑いながら「びっくりしたよ。でも翌日退院したよ。」と言いました。元気になって良かったです。お酒を好きだけ自由にいただくのは初めてのことで自分の限界なんて知る筈もなく各自思い知ったことです。

《学生運動》

入学した六十九年は、テレビで東大安田講堂の占拠・封鎖解除を見て学生軍は凄いと思う自分でした。長良キャンパスでは、学生のアジテーションが私達を迎えます。独特な書体の看板を見るのは初めてです。またピラも配れます。すぐには理解出来無い言葉が、次々と飛び出て来ます。アジテーションは二つ有りました。一つは教育学部の民青、二つは民青以外の新左翼です。新左翼は、凛真寮の学生が多かった。全国の学生運動に呼応・連動する様に教育学部も後期スト封鎖されました。この時に友達と二人で長良キャンパスへ行き中に入りたいと言うことを伝え中に入ったのを覚えています。シンパとして入れてくれたのです。何を話し見たのかは記憶に無いですが医学部のシンパの男性と話したことはおぼえています。彼は早（稲）田を退学して岐大医学部に入学した一年先輩の人でした。やはり凄い人が居るものだと感心したのは覚えています。デモにもそこそこ参加はしました。美江寺公園・金公園・岐阜駅南の公園が多かった。デモの帰りに凛真寮の先輩活動家と話たことが有り何を読んでいますかと質問しました。共産党宣言は勿論でした。すぐに書店で購入しました。デモをしていると常に右翼の街宣車を見ました。彼等は、機動隊と同じでした。戦闘服ですね。

《ヘリコプター》

令和五年十一月二十三日に神戸で従兄弟の直樹さんに会いました。喫茶店で話してきました時の話です。直樹さんより七つ程年上の先輩が、各務原の地でアメリカ軍のヘリコプターが墜落するのを見たと話しました。実は私も二回墜落を見ているので大変興味が沸きました。朝鮮戦争が終わった頃の話です。幼稚園に居る頃です。カーキ色の服を着た兵隊さんが隊列を組み歩くのを数回見かけた頃です。パタパタと大きな音が自衛隊基地の方から聞こえてきます。初めて聞く音に驚き外に飛び出して、音の方を見ます。初めて見る空飛ぶ物体でした。これがヘリコプターでした。一回目の墜落は、轟音を立てているヘリコプターを目で追っていますと急に音が不調音になるのです。音が小さくなり急に斜め方向に落ちていきました。ドカンという衝撃音は聞こえなかったです。二回目は、轟音はすぐ近くでします。突然轟音が小さくなりプスンと不調音がして斜め方向に落下します。私の家からはすぐ近くに落ちました。家の南側です。私は前の坂を下り前の川を越えました。ヘリコプターは目の前に墜落した姿を見ました。大破はしていませんでした。田に落ちたヘリコプターは扉が開けられ三人程の米兵がヘルプミーと呼んでいました。今でもありありと記憶に残っています。従兄弟の先輩は二回目のを見たのではと思う。確証は無いが何故かそう思えるのです。

戦争の名残りとして岐阜大学の農場で日本陸軍の戦車があったことです。

農場に入ると道沿いに平屋倉庫が東に延びていました。この平屋の下に動かぬ戦車が一台ありました。錆びたものです。大きさは小さかったです。小学校の遠足で低学年に行きました時が最初でしょうか。その後もう一度見たことを覚えています。その後いつに無くなったかは知りません。小学生の小さな子供が見てもびっくりする大きさでは無かったです。

(今尾真治)

5.川上貞奴と、貞奴をキーワードにした地域文化活動

1.はじめに

岐阜県各務原市には、日本初の近代女優であり、木曾川の水力による電源開発に大きく関わった川上貞奴が自ら創建した菩提寺・貞照寺とその霊廟がある。また、同時に建てられ、貞照寺参拝の際に滞在した別荘「萬松園」は、国指定の重要文化財となっていて、地域の文化資源として、また、観光資源として大きなポテンシャルを有している。

地元のソプラノ歌手で、生涯学習の分野でも大きく貢献している金光順子を中心に、2010年に、川上貞奴の生誕140周年に向けた市民による川上貞奴顕彰のオペラ制作の機運が起こり、「創作オペラ『貞奴』プロジェクト」(以下、「オペラ貞奴」と呼ぶ)という任意団体(市民団体)が立ち上がった。

オペラは、そもそも様々なバックグラウンドを有する人々に関わる総合芸術である。また、オペラ貞奴の活動から、音楽や舞台芸術のみならず、行政、ボランティアガイド、地域映画づくり団体などとの連携、地元和菓子店との協力による新たな和菓子の開発など、多くの地域の人たちの様々な連携を生んだ。さらには、「貞奴」をキーワードに、他地域で活動する個人・機関や団体との交流や連携、文化財を活用したパフォーマンスの場の創出、コロナ禍における地域の音楽家・音楽愛好家らの活躍の場の創出などにも取り組んできた。これらは、2021年の貞奴生誕150周年を契機に、より一層の進展を見ることができた。

この事例報告では、オペラ貞奴の活動が地域課題に対してどのように接点を持ち、どのような連携活動を行って、どのように影響を及ぼしてきているかについて検証を試みるため、その歩みと交流団体などの寄稿により構成する。

Column 1 【創作オペラ「貞奴」のはじまり】



貞奴生誕140年記念
創作オペラ
貞奴 第一部 青嵐篇
原作・台本 藤本尚子
作曲・指揮 菰田尚子
本邦 初演

平成23年4月24日(日) 各務原市民会館大ホール
13:00 開場 13:30 開演
音楽の街 かかみがはら
主催 創作オペラ「貞奴」実行委員会
共催 各務原市

2005年(平成17年)頃から、各務原市東亜町の東亜町会館(前各務原市産業会館)にあった喫茶店「ブーケガルニ」では、バイオリニストの大久保ナオミさん、ソプラノ歌手の金光順子さん、ウィーン岐阜合唱団の仲間やファンの方々、音楽の愛好家が集まり、コーヒーを飲みながら演奏を聴いたり、音楽談議に花を咲かせていた。そんな中、金光先生が鶴沼の貞照寺で貞奴の命日(12月7日)に毎年奉納コンサートを続けていることが話題となり、にわかに「貞奴ブーム」が到来し、貞奴と貞照寺について猛勉強することとなった。そして、2009年12月7日の命日の奉納コンサートには、川上音二郎の「オッペケペー節」を金光先生の男声コーラス仲間がハチマキ・はかま姿で熱唱し、喝采を浴びるまでになった。

翌2010年1月には創作オペラ「貞奴」プロジェクトが立ち上がり、7月17日には、翌日18日の貞奴の誕生日を記念して第1回の奉納コンサートを開催することとなった。

事務局を立ち上げてからは、市民手づくりをモットーにして。台本作家・藤本尚子さん、作曲家・菰田尚子さん等と相談し、第1回目となる【創作オペラ「貞奴」青嵐編】の制作・上演へと活動していくこととなった。

元・喫茶ブーケガルニ経営者
初代創作オペラ貞奴プロジェクト事務局長
今井 俊一

2.創作オペラ「貞奴」プロジェクト(オペラ貞奴)のあゆみ

この章では、オペラ貞奴の活動の変遷について、時系列にまとめていきたい。

■2009年(平成21年)12月7日の貞奴の命日に、貞照寺にて奉納コンサートを行った。その後も貞照寺において奉納コンサートを継続している。



上:2009年貞奴忌の貞照寺での奉納コンサート

■2010年(平成22年)1月22日、任意団体として【創作オペラ「貞奴」プロジェクト】が立ち上がり、貞奴生誕140周年となるオペラの制作に本格的に取り組み始めた。各務原市内の東亜会館に当時あった喫茶店「ブーケガルニ」の店主自身がオペラ貞奴の初代事務局長となった。

■2011年(平成23年)4月24日に、約1000席の大ホールである各務原市市民会館にて、最初の作品となる【創作オペラ『貞奴』青嵐編】を初演した。75年間にわたってビッグイベントの連続だった貞奴の人生を1回の舞台作品で描き尽くすのは難しく、川上音二郎との結婚までを中心に描かれた。原作・台本は藤本尚子氏(現・貞奴フォーラム代表)、作曲は、2023年現在日本女性作曲家連盟副代表となっている菰田尚子氏、貞奴役は金光順子が務め、「ブーケガルニ」に集まる音楽仲間から生まれた市民オペラとして新聞などでも大きく報道された。金光によれば、「仲間にながめたい(歌いたい)か?」と聞かれ、「地元ゆかりの川上貞奴のオペラを創り、歌いたい」と答えたことから始まったという。



■2013年(平成25年)11月17日、第2作として、華やかな女優としての貞奴像を中心にその生涯を描いた【創作オペラ「貞奴」完結編】を再び各務原市市民会館にて初演し、成功を取めた。1回目の上演の反響が大きかったことや、その制作過程における菰田・金光ら、多くの関係者の不完全燃焼もあって、菰田の紹介で、作詞を数々の創作オペラの経験と優れた実績のある小川淳子氏に依頼して、大幅にリニューアルした内容での上演となった。現在も歌い継いでいる「オペラ貞奴」の原型である。初回の【創作オペラ『貞奴』青嵐編】から2年後のことである。



上:「完結編」チラシと、公演の様子

■2016年(平成28年)9月25日、川上音二郎・貞奴一座が海外巡業後に本拠地とした神奈川県茅ヶ崎市で顕彰活動を行う市民団体主催の音貞オッペケ祭に招待され、野外での小公演を行なった。音貞オッペケ祭実行委員会は、貞照寺に残された川上音二郎の台本をベースにした復刻劇など、アカデミズムに土台を置きつつ精力的な企画を継続している。この茅ヶ崎での小公演の後も交流は継続され、新型コロナ禍のオンライン「音貞ゆかりの地フォーラム」を契機に関係がより深まっていくこととなる。



Column 2

【茅ヶ崎市 都市資源の発掘 イベント型エコミュージアム・音貞オツペケ祭】



「音貞オツペケ祭」チラシ(2020)



高砂緑地の川上音二郎・貞奴顕彰モニュメント

2011年(平成23年)、川上音二郎没後100年を記念し、茅ヶ崎市長を会長とする「川上音二郎 貞奴を顕彰する会」が結成され、茅ヶ崎市美術館での企画展示や講演会などが開催された。そのワークショップ参加者から、「音貞が面白い!」「顕彰活動を続けよう」という動きとなった。

2014年(平成26年)に、「音貞オツペケ祭」を音貞の自宅があった高砂緑地(現在は市の所有)で開催。音二郎による「正劇オセロ」を野外劇として上演するほか、筑前琵琶、謡曲、茶会など、様々な文化活動団体が音貞をテーマに集うイベントとなった。翌年以降は、川上一座が稽古をした旅館である茅ヶ崎館(国登録有形文化財。映画監督の小津安二郎も宿泊し脚本を書いていた)など、市内のゆかりの地で復刻劇を上演。音貞オツペケ祭は、一年交代で、この茅ヶ崎館と高砂緑地にて開催している。2016年(平成28年)は、岐阜県各務原市の「オペラ貞奴」のメンバーの出演があり、各地との交流を続けている。

新型コロナ禍ではネット配信による復刻劇に取り組み、日本各地で音貞顕彰に関わる団体が同時に参加できるオンラインフォーラムを開催した。また茅ヶ崎市美術館の小川稔館長のお力添えを得て、音貞研究を活動に生かすよう企画を進めている。また、2022年(令和4年)に、茅ヶ崎市図書館と、演劇・映画の専門図書館 松竹大谷図書館へ復刻劇の台本、記録映像などを寄贈し、現在は字幕などの観劇サポートに挑戦中である。

音貞オツペケ祭実行委員会

■2019年(令和元年)9月29日に、【Opera 貞奴～悠久の木曾川、わたしは紅葉。最後に選んだのはこの大地～】(プリニーの文化ホール。)を上演。この年のはじめ、各務原市文化会館(席数約1000の各務原市市民会館と席数500の文化ホール)に『市民チャレンジ応援企画 TUNAGU』という、会館と市民団体の共催事業の公募が始まり、設営から本番までの3日間について会場費の負担がないということですぐに応募。最初の採択事業となった。準備の期間も短く、プロジェクトを効果的に使い【完結編】のダイジェスト版という形で上演。定員500名の会場は満席だった。この作品で、各務原ゆかりの川上貞奴として、女優引退後の木曾川水力発電事業などへの関わりを強く意識し始めた。



2019年9月29日の「オペラ貞奴」チラシ

■2019年11月27日、2021年の貞奴生誕150周年に向けて、当時の観光協会会長の堀田みさ子氏、中山道鶴沼宿ボランティアガイドの会メンバー、萬松園広報担当の西田壽氏らに呼びかけ、浅野健司市長とのまちづくりミーティングを開催していただいた。各務原市や教育委員会、観光協会、地域映画づくり団体、中山道鶴沼宿ボランティアガイドの会などと緩やかな連携を図ること、オペラは独立した事業として金銭的な支援を市から受けることなく、新たな記念作品を制作する、といった方向性が生まれた。小説『水燃えて火』の神津カナナ氏の講演、「貞奴と各務原」企画展の提言などが話題にあがった。



2019年11月27日のまちづくりミーティング

■2020年11月から2021年1月にかけて、市の登録講師企画講座として採択いただき、稲羽コミュニティセンターにて「貞奴の時代の名曲を歌おう」講座を開講。明治時代から昭和にかけて、その時代時代を貞奴さんのエピソードを交えながら、ソーシャルディスタンスを充分にとって実施した。童謡や唱歌、訪れた国々の歌のほか、オッペケペー節、貞奴や桃介ともゆかりのある山田耕筰、島崎広助の実弟である島崎藤村、松井須磨子と島村抱月にも触れながら彼らの歌も学べる内容で、オペラ貞奴からエンディングの合唱曲「激しい時代を生きた」も一緒に歌った。また、クリスマスなど季節にあわせた演出で、厳しい新型コロナ禍の中でも音楽のひとつときを楽しめる貴重な時間を提供した。



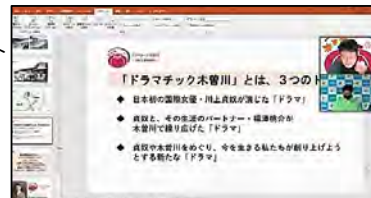
「貞奴の時代の名曲を歌おう」講座より。新型コロナ禍の中でも対策をして、楽し実施。下の写真は、メイン講師の金光順子とピアノの縣友里恵

■2020年11月27日には、茅ヶ崎市の音貞オッペケ祭実行委員会が主催したオンラインの「音貞ゆかりの地フォーラム」に代表の金光順子が登壇し、メンバーが協力して、10分ほどの持ち時間の中で、10年間の活動とその変遷の紹介や岐阜県ゆかりの人との関わり、そして、実際にオペラの歌の披露を行った。ZOOMを活用して双方向でのフォーラムであったため、小規模ながらも各務原における公共施設の一室をサテライト会場として公開した。この「音貞ゆかりの地フォーラム」の動画は、音貞オッペケ祭のYouTubeチャンネルで見ることができる。このフォーラムには、茅ヶ崎市から茅ヶ崎美術館長で音貞塾塾長の小川稔氏のほか、音二郎ゆかりの福岡から長谷川法世氏、名古屋から文化のみち二葉館の緒方綾子館長も登壇した。新型コロナウイルス感染症の蔓延により人の流れが制限される中で、オンラインという手段を通じて、「貞奴」をキーワードに茅ヶ崎市の市民団体メンバーとの交流はむしろ深まっていった。同様に名古屋の「文化のみち二葉館」（川上貞奴が木曾川の水力発電事業の拠点としてパートナーである福沢桃介とともに居住した館を移築し、名古屋市により管理、公開されている施設）の緒方綾子館長とも、しばしば連絡を取り合える関係に発展していった。



上:「音貞ゆかりの地フォーラム」ご当地4か所から
下:稲羽コミュニティセンターのサテライト会場にて
記念撮影。技術は大谷泰史が担当。生の歌唱の中継に苦心。

■貞奴生誕150周年の記念の年である2021年（令和3年）に入り、まず2月に兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）が主催するオンライン「第16回共生の広場」にて、オペラ貞奴の事例紹介を事務局長の藤田敦子が行った。主催者からの要望もあり、「自然」「兵庫」「SDGs」に結びつけながらプレゼンテーションを行った。神戸での公演や木曾川の水力発電と関西方面への送電などを絡めて紹介した。オペラ貞奴が名づけた「ドラマチック木曾川」のキャッチフレーズ①は本初の女優としてのドラマ、②木曾川の水力による電源開発のドラマ、③貞奴さんの眠る地で自分たちが未来に向けて創り上げていくドラマの3つのドラマの意味を込めていることを話す。また、プレゼン後、「オペラの制作には数多くの多様な人が関わるがどのようにまとめるのか？」と質問され、「皆さん、それぞれ価値も目的も違う中で関わっている。それを無理にひとつに強制しようとしたくない。たいへんではあるが交わった部分を大切に活動している」と答えた。



兵庫県立人と自然の博物館主催の「第16回共生の広場」にて、オペラ貞奴の事例を紹介。

■2021年7月18日の貞奴150回目の誕生日に、貞照寺境内にて、那加にある河田秀正堂が【創作和菓子「貞奴】】を発売した。貞奴フォーラムの篤志により、川上貞奴女史生誕記念大護摩供参列者にその一部が参列記念として配られた。この和菓子の開発にあたっては、オペラ貞奴も協力していた。

■2020年11月から2021年1月にかけて、市の登録講師企画講座として採択いただき、稲羽コミュニティセンターにて「貞奴の時代の名曲を歌おう」講座を開講。明治時代から昭和にかけて、その時代時代を貞奴さんのエピソードを交えながら、ソーシャルディスタンスを充分にとり実施した。童謡や唱歌、訪れた国々の歌のほか、オッペケペー節、貞奴や桃介ともゆかりのある山田耕筰、島崎広助の実弟である島崎藤村、松井須磨子と島村抱月らにも触れながら彼らの歌も学べる内容で、オペラ貞奴からエンディングの合唱曲「激しい時代を生きた」も一緒に歌った。また、クリスマスなど季節にあわせた演出で、厳しい新型コロナ禍の中でも音楽のひとつときを楽しめる貴重な時間を提供した。



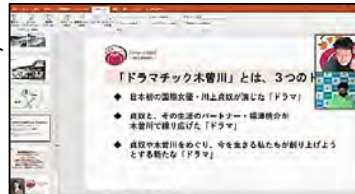
「貞奴の時代の名曲を歌おう」講座より。新型コロナ禍の中でも対策をして、楽しく実施。下の写真は、メイン講師の金光順子とピアノの縣友里恵

■2020年11月27日には、茅ヶ崎市の音貞オッペケ祭実行委員会が主催したオンラインの「音貞ゆかりの地フォーラム」に代表の金光順子が登壇し、メンバーが協力して、10分ほどの持ち時間の中で、10年間の活動とその変遷の紹介や岐阜県ゆかりの人との関わり、そして、実際にオペラの歌の披露を行った。ZOOMを活用して双方向でのフォーラムであったため、小規模ながらも各務原における公共施設の一室をサテライト会場として公開した。この「音貞ゆかりの地フォーラム」の動画は、音貞オッペケ祭のYouTubeチャンネルで見ることができる。このフォーラムには、茅ヶ崎から茅ヶ崎美術館長で音貞塾塾長の小川稔氏のほか、音二郎ゆかりの福岡から長谷川法世氏、名古屋から文化のみち二葉館の緒方綾子館長も登壇した。新型コロナウイルス感染症の蔓延により人の流れが制限される中で、オンラインという手段を通じて、「貞奴」をキーワードに茅ヶ崎市の市民団体メンバーとの交流はむしろ深まっていった。同様に名古屋の「文化のみち二葉館」(川上貞奴が木曾川の水力発電事業の拠点としてパートナーである福沢桃介とともに居住した館を移築し、名古屋市により管理、公開されている施設)の緒方綾子館長とも、しばしば連絡を取り合える関係に発展していった。



上:「音貞ゆかりの地フォーラム」ご当地4か所から
下:稲羽コミュニティセンターのサテライト会場にて記念撮影。技術は大谷泰史が担当。生の歌唱の中継に苦心。

■貞奴生誕150周年の記念の年である2021年(令和3年)に入り、まず2月に兵庫県立人と自然の博物館(ひとはく)が主催するオンライン「第16回共生の広場」にて、オペラ貞奴の事例紹介を事務局長の藤田敦子が行った。主催者からの要望もあり、「自然」「兵庫」「SDGs」に結びつけながらプレゼンテーションを行った。神戸での公演や木曾川の水力発電と関西方面への送電などを絡めて紹介した。オペラ貞奴が名づけた「ドラマチック木曾川」のキャッチフレーズ①は本初の女優としてのドラマ、②木曾川の水力による電源開発のドラマ、③貞奴さんの眠る地で自分たちが未来に向けて創り上げていくドラマの3つのドラマの意味を込めていることを話す。また、プレゼン後、「オペラの制作には数多くの多様な人が関わるがどのようにまとめるのか?」と質問され、「皆さん、それぞれ価値も目的も違う中で関わっている。それを無理にひとつに強制しようとしたくない。たいへんではあるが交わった部分を大切に活動している」と答えた。



■2021年7月18日の貞奴150回目の誕生日に、貞照寺境内にて、那加にある河田秀正堂が【創作和菓子「貞奴】」を発売した。貞奴フォーラムの篤志により、川上貞奴女史生誕記念大護摩供参列者にその一部が参列記念として配られた。この和菓子の開発にあたっては、オペラ貞奴も協力していた。

兵庫県立人と自然の博物館主催の「第16回共生の広場」にて、オペラ貞奴の事例を紹介。

Column 4

【川上貞奴生誕 150 周年記念「創作和菓子『貞奴』ができるまで】



創作和菓子「貞奴」は、貞奴生誕150年となった2021年7月8日の誕生日に発売。6個セットで1500円。記念行事や事前予約にて販売



新型コロナが猛威をふるっていた頃、実際には実現しませんでした。が貞奴さんの生誕 150 周年を記念して貞照寺でマルシェをしたらどうか、という話があり、それにあわせて何か記念になる和菓子を創らないかと当時の観光協会会長より声をかけられたのが、この記念和菓子を作り始めたきっかけです。そして、考え始めます。

まず、マルシェということで、食べ歩きができ、SNS で“ばえる”若者向けねらいの和菓子を考えました。商品の大量生産ができるもの、パッケージや印刷の発注。予算のこともあり、市の商工会にも足を運びました。今から思うと、その時は、世の中の売れている商品を思い浮かべ、その方向にしか考えがいかなかったせい、お菓子のイメージがつかめませんでした。悩んでいるうちに、ふと、自分らしさや持ち味は何だろうと思うようになりました。それは、京都で10年間の修行を経て学んだ上生菓子だと思ひ至りました。ただ、上生菓子は、日持ちがせず、食べ歩きもしにくいです。でも、自分の中で、貞奴のイメージがわきそうな予感がしました。

そして、創作オペラ「貞奴」プロジェクトの関係者に相談しながら、「貞奴と桃介」のルーツを思いながら、ひとつひとつ素材や色、形が違う個性あふれる6ケの上生菓子が生まれました。その中には、各務原産のにんじんや岐阜の枝豆を使用したものもあります。なにより、自分らしいお菓子ができただことは嬉しいです。

河田秀正堂 店主
河田 正樹

■美濃のわらび餅

貞奴が好きだったというわらび餅。あんを枝豆にして、青楓を飾りました。

■桃源郷

福沢桃介がドイツから持ち帰った三色の花が咲くハナモモをイメージしています。三色きんとん製（粒あん）

■桃の想い

桃介の桃であり、貞照寺開創当時の寺紋にも描かれている桃の実です。ういろ製（黄身あん）

■もみじの情熱

貞奴がみずからを象徴させた「もみじ」をかたどりしました。ねりきり製（こしあん）

■蘇水の鮎

木曾川（蘇水）の流れと鮎を錦玉と淡雪で、河床の岩を小倉羊羹で表現しました。

■水うちわ

岐阜の伝統工芸品である水うちわに、貞奴がしばしば使った紅葉の意匠をあしらいました。

あんには各務原特産のにんじんを使用しています。

3. 貞奴生誕150周年記念 市民オペラ「ドラマチック木曾川—Opera 貞奴—」初演

■2021年の貞奴生誕150周年は、新型コロナに明け新型コロナに暮れた1年だった。合唱が感染リスクが高いものとして標的にされる中、LINE を利用してのオンライン会議や説明会、オンライン練習なども重ねていった。

■翌2022年1月23日にプリニーの市民会館にて、3時間におよぶ市民オペラ「ドラマチック木曾川—Opera 貞奴—」を初演した。連携団体として独自で練習を重ねていた小学生中心のダンス・サークルは、内部に感染者が出たことや学校が休校となったことなどで出演が危ぶまれたが、最終的に一部メンバーがぎりぎり合流でき、精一杯のダンスを披露した。世に名高い川上音二郎の「オペケペー節」を、現代風にアレンジしたものである。この場面で力を発揮したのが、地元の打楽器奏者・松尾志穂子である。また、木曾節を地域の民踊愛好団体にも踊っていただいた。この公演は、ちょうどオミクロン株の蔓延し始めた頃で、開催自体が直前に危ぶまれたものの、会館所有者である市の許可が出て上演が可能となった。実際に来館し、鑑賞した人数は400名弱であったが、チケット購入者には「各務原市全国まちおこし映画祭実行委員会」(現・各務原映画祭実行委員会)の協力による収録動画を限定配信することで対応した。

■2022年8月15日、岐阜県教育文化財団による岐阜県文化公演動画配信等促進助成事業を活用し、ぎふ清流文化プラザで、「ドラマチック木曾川—Opera 貞奴—」の第2部を再構成し、「Opera 貞奴—蘇水の光、萬照の風—」として公演を行った。この公演は助成の目的ののっとなってYouTubeにて公開されている。



「ドラマチック木曾川」のチラシと、公演の様子



「Opera 貞奴—蘇水の光、萬照の風—」公演動画配信

Column 5 【貞奴マルシェの開催】

2022年(令和4年)に続き、2023年10月28日に2回目となる貞奴マルシェを鵜沼宝積寺にある成田山貞照寺にて開催しました。沢山の方が参加されて、1日を通して境内が賑わいました。この令和5年10月28日という日は、貞照寺が満90年という節目に相当し、開創記念日に大勢の方々と共に一緒にお祝いしたいと思い、記念大祭の一大催事として実施しました。

成田山貞照寺は、日本初の女優・川上貞奴女史が自らの意思で不動明王をお祀りし、昭和8年に創建したお寺で、現在は、成田山名古屋別院大聖寺(犬山成田山)の管理の元にあります。貞奴女史自身の霊廟も、自らここにお造りになられ、現在も眠っておられます。

このたび、貞奴マルシェ開催にあたって構想したイメージですが、今から120年前に貞奴女史が川上音二郎一座のメンバーとしてヨーロッパ諸国を周遊されたこともあり、「マルシェ」の言葉通り、フランスの青空市場をイメージしています。また、マルシェにご参加いただくことを一つの御仏縁と捉え、川上貞奴女史の清々しい生き方に共感いただきたい、御本尊様のご加護のもと、より多くの方が幸せになっていただきたいというのも開催の理由のひとつです。2023年は、1回目よりも多くの12店舗様にご出店くださいました!! 10年後の開創100周年に向けて、更に広がるよう努めて行きたいと思っております。



大本山成田山名古屋別院大聖寺
前・貞照寺担当 樽谷 照生

4. 貞奴芸術祭の立上げ

■2022年（令和4年）は、オペラ貞奴にとって激動の1年だった。7月10日に皆楽座で「清流編」を開催し第1回貞奴芸術祭を立ち上げ、地域の文化レガシーを引き継ぎ、新たな地域文化の創造へとつながる活動を開始した。身近なところで身近な方々とともに地域の芸術文化の振興活動を行うことで、舞台芸術に生きた貞奴さんを顕彰していくものである。初回の「清流編」では、名古屋で「Ma Sada Yacco 凜として咲くが如く」を創作し、再演を考えていた現代舞踏家・倉知可英氏を招いた。フランスでも研鑽を積んだダンサーで、2023年にはこの作品をリニューアルしてパリ公演を行った。芸術活動継続の困難の中であればこそ実現した招聘であった。また、貞照寺からのご縁で若手の雅楽奏者・田中佐京氏も招いた。

■11月13日に貞照寺で1回目の貞奴マルシェが開催された。このときは別の方が奉納演奏を行ったが、翌2023年の創建記念日となる10月28日の2回目には、代表の金光とピアノの縣、桃介役の岡部敬太郎が奉納演奏を行った。

■11月27日に、同じく第1回貞奴芸術祭「紅葉編」を「村国座」で開催した。「皆楽座」「村国座」は、どちらも明治時代という貞奴の生きた時代と同時代に建造された各務原市に遺る農村歌舞伎舞台で、特に「村国座」は国の重要有形民俗文化財に指定されている。「紅葉編」では、1871年生まれの貞奴、1877年建造の村国座、1875年に貞奴と縁の深いパリで初演されたエキゾチズムの香り漂うオペラ「カルメン」をつなぎ、「場の共有」の芸術体験を試みた。2階敷席に小学生らを招待し、SDGsも意識した地域の文化・教育に貢献した。公演終了後には、各務原全国おまちおこし映画祭実行委員会（現・各務原映画祭実行委員会）による新たな地域映画「貞奴、大いに笑う」用に、ダンスサークルBambiの子どもたちによるヒップホップ調オッペケペー節の撮影が行われた。また、村国座の使用にあたっては、村国座各務中組歌舞伎保存会の方々にも協力を仰ぐことができた。これらの文化財（歴史的建造物）の活用については、2016年～2020年に文部科学省生涯学習政策局（2018年度より文化庁）の委託事業として京都や兵庫で開催された「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」の一部である、日本の自然と文化の関わりを伝えるシリーズ展示「Where Culture Meets Nature～日本文化を育んだ自然～」の企画展示に触発されたものである。

■翌2023年（令和5年）も第2回貞奴芸術祭を企画・開催。歴史的建造物の活用として、8月7日に迎賓館サクラヒルズ川上別荘「萬松園」で、清須市はるひ美術館館長であるアーティスト&デザイナーの高北幸矢氏によるトークと、各務原と茅ヶ崎の交流ミニコンサートを行った。茅ヶ崎からは元・音貞オッペケ祭実行委員の現代音楽家・パフォーマーである清水友美氏が来岐し、復刻劇の劇中音楽などを披露した。迎賓館サクラヒルズ川上別荘は、商用施設であり、経営者である久田淳子氏や広報担当の西田壽氏には様々な配慮をしていただいた。

■地域活動としては、各務原市のSDGsパートナーの市担当課より紹介され、2023年12月9日に蘇原中学校1年生に、体育館で、講演と生演奏による貞奴さんの出前講座を行った。



「清流編」のチラシ



「清流編」の公演動画配信



「紅葉編」のチラシと、子どもたちのオッペケペー



「萬松園編」での高北幸矢氏の講演

Column 6 【国の重要文化財 萬松園と川上貞奴】

【萬松園とは】

萬松園は、日本初の近代女優「川上貞奴」が景勝地の木曽川河畔に昭和8年に建てた別荘です。敷地は1000坪、母屋は150坪・26部屋、貞奴滞在用の私的空間と多彩な接遇空間を併せ持ち、貞奴の自由な着想により数寄屋、中国風趣味、農家風など趣向の異なる意匠を大胆に使い分け、26室どれ1つとして同じ意匠の部屋がなく、また人生の思い出も溶け込ませた様々な伝統意匠や工芸技術を駆使して創られた和モダンな建物です。萬松園は、高い建築的・文化的価値から平成30年8月に国の重要文化財に指定されました。

【何故、貞奴は各務原に萬松園を建てたのか？】

川上貞奴は、人生を振り返ると、木曽川上流で福沢桃介のビジネスパートナーとしてダム建設（大正7年～大正15年）したことが一番の思い出でした。このため川上貞奴は、木曽川河畔に桃介との思い出にひたることのできる別荘を建てたいと思いました。ダム開発した木曽川上流には、大正8年に建設された「大洞山荘」があります。

それでは、それでは何故、土地勘のない各務原の木曽川河畔に別荘を建てたのでしょうか？

実は、各務原の土地は、国も名勝に指定した美しい木曽川の景観を借景にした大遊園地を建設するため福沢桃介が大正10年に取得していましたが、ダム開発後体調を崩したため、大遊園地計画を断念しました。川上貞奴は、福沢桃介が気に入っていた木曽川の美しい景観を眺められるこの土地を桃介から譲り受け、別荘を建てたのです。萬松園は、貞奴が東京から貞照寺に参詣に来た時、逗留するために建てた別荘との意見もありますが、萬松園の建物本体は、昭和4年に完成し、内装意匠が完成したのが昭和8年です。貞照寺は、昭和3年暮れに土地を取得し、棟上げ式を昭和6年に行い、完成は昭和8年となっています。建設年代を見ると萬松園が先にあり、次に貞照寺が建設・着手されています。東京から遠い各務原の地に年3回訪れる楽しみは、まずは、木曽川河畔の別荘に逗留し福沢桃介との思い出にひたる楽しみ、そして、幼少の頃から信仰していたお不動様が祀られている貞照寺に参拝することではなかったでしょうか。

サクラヒルズ川上別荘・萬松園広報担当 西田 壽



木曽川河畔の萬松園



萬松園の客間



庭から眺めた萬松園の外観

■地域活動として、2024（令和6年）1月26日に稲羽にあるギャラリー&カフェ 204で、オペラ貞奴プロデュースの1回目のティータイム・コンサートを開催。

■2024年（令和6年）3月、第2回貞奴芸術祭®映画編を各務原産業文化センターにて開催。

3日に行う90年前の貞照寺入仏式の記録映画と新しい地域映画「貞奴、大いに笑う」の上映（あすかホール）をメインプログラムとした。苦境の中、サンフランシスコで養女に出した音二郎の姪は、のちに日本人初のハリウッド女優となり、その夫は早川雪洲であることなどからも、映画というコンテンツに注目した。そして、関連展示を市教育委員会文や文化のみち二葉館、そしてはなも短歌会などの市民団体の協力を得て、2～4日に展開した。



「映画編」のチラシ

Column 7 【川上貞奴生誕 150 周年記念映画について】

【「貞奴、大いに笑う」(2023 年)】

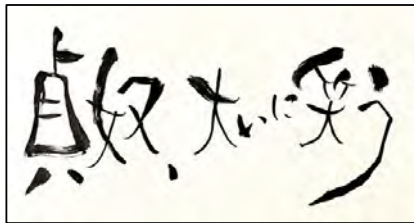
2021 年の川上貞奴生誕 150 周年を契機に、貞奴と地域の魅力を再発見する機会を提供するための映画制作を行い、2024 年 3 月 3 日に、「第 2 回貞奴芸術祭～映画編～」のメインプログラムとして各務原市産業文化センター1 階あすかホールで初公開上演しました。演出、脚本、出演、撮影、編集などの映画制作に係る一連のプロセスに加え、上映会の企画や運営までを市民が手掛け、貞奴に所縁のある場所と各務原市を舞台にした約 70 分の長編オリジナル作品です。

【各務原映画祭実行委員会「映画でつながる、地域の魅力」】

地域映画とは、地域活性化の一環として、地方公共団体や市民団体、個人などが地元を舞台に制作した映像作品を指します。各務原映画祭実行委員会と改称する前、「各務原市全国まちおこし映画祭実行委員会」として、2016 年に市民参加型映画として各務原市で地域映画「光射す」を制作しました。その後、飛騨小坂での地域映画「夢駆ける坂」、映画制作ワークショップにて短編地域映画 4 本を制作してきました。

商業映画とは異なり、監督や俳優の知名度は関係なく、「まち」そのものが一つの主人公となる地域映画はその地域の、その時の風景や人々、文化が記録された貴重な映像資産としてのアーカイブになります。しかしまちおこし映画のほとんどは地元だけで消費され、広く一般に公開する機会があまりありません。映像作品としての高い芸術性や地域活性化の新たなコンテンツとしての可能性を秘める作品がたくさんあります。鑑賞者が自分の住む町を映像作品として見ることで、地域の魅力に興味を持つことが期待されることを願い、2024 年 1 月 7 日に第 1 回の映画祭を開催しました。

各務原映画祭実行委員会 代表 大野 達也



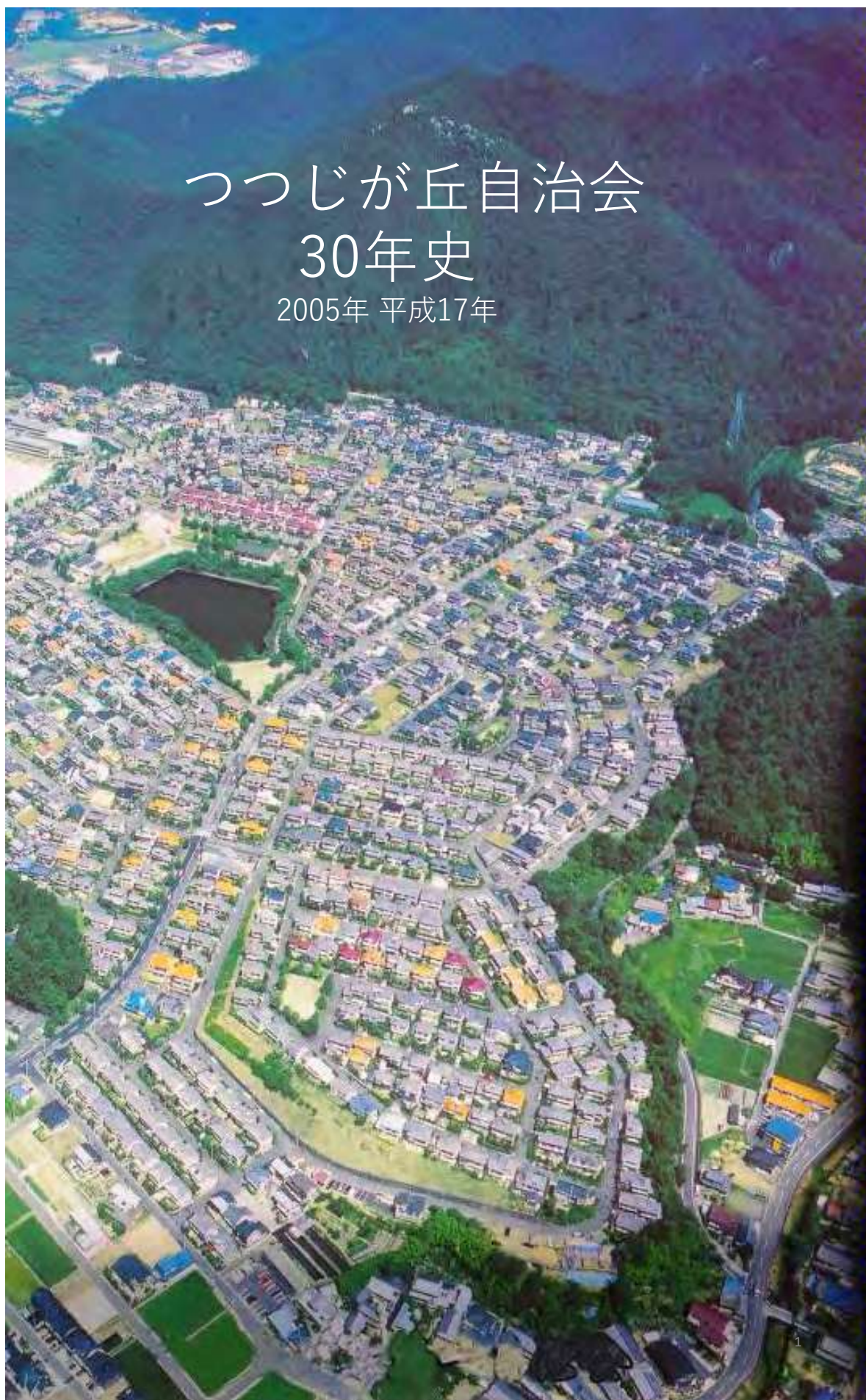
5. 国民文化祭・大井ダム 100 周年記念恵那峡もみじまつり公演、そして 2026 年の「新・オペラ貞奴」上映をめざして

今後も各務原を中心に思いのある者たちで開催されていくことを願って、2023 年に「貞奴芸術祭®」の商標登録を行った。その第 3 回は、2024 年 11 月 9-10 日に開催される恵那峡もみじまつりでの野外公演（公演は 10 日）へとつながっていく。貞奴さんとは縁の深い土地である恵那峡（大井ダム）は、貞照寺の本堂周囲にはめ込まれた木彫レリーフの題材にもなっており、また、「もみじ」は貞奴がしばしば用いた自らを表す意匠であった。

大井ダム建造 100 周年となる 2024 年に恵那峡の湖面を背景に野外コンサートを行い、各務原と恵那を結び、文化面でも観光面でも交流が生まれていききっかけとなっていけばよい、という夢を描いている。2024 年の国民文化祭を岐阜県が担当することになったが、このコンサート形式の野外ミニオペラ公演は、そのプログラムの 1 つとして採択された。大井ダム建造当時のエピソードを主題とした新たな曲の初演も盛り込んだ。恵那市観光協会とつないでくれたのは、やはり新型コロナ禍だった 2021 年に大きな助成を与えてくれた伊藤青少年育成奨学会の贈呈式であった。挨拶を交わし、2024 年は大井ダム・発電所・恵那峡が 100 年を迎えるという会話をし、いつかは一緒に話していたことからつながっていった。

そして、貞奴没後 80 周年となる 2026 年に照準を合わせ、これまでとは全く異なるコンセプトの「新・オペラ貞奴」を、継続的な支援を公益財団法人田口福寿会からいただきながら持久戦で制作している。2023 年 10 月発行の『追伸』第 16 号で「新オペラ貞奴一すべては誠をもって』として、構成台本を発表したところである。

執筆：藤田敦子（事務局長）



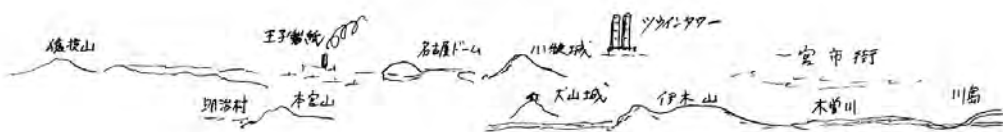


つつじが丘統一自治会 創立30周年記念誌

大きな手、小さな手
みんなでつなげば
つつじの和



つつじが丘統一自治会



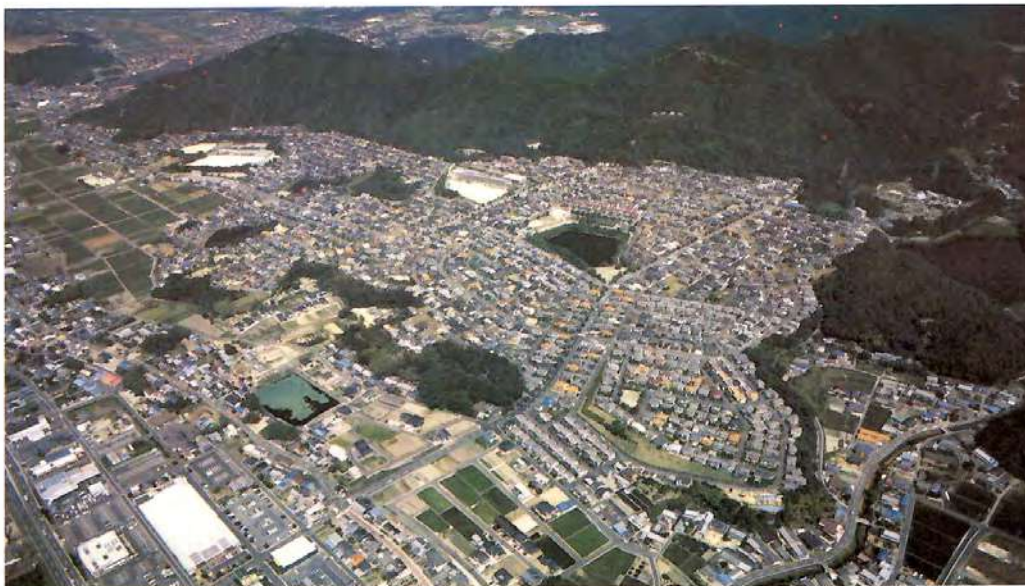
目次

1. わがまち つづじが丘	63
2. 自治会の歩み	65
3. 統一自治会年表	67
4. つづじが丘周辺地図	72
5. 公共施設	75
6. 写真で見るつづじがおかの 30 年	80
7. 自治会の発足と変遷	81
8. 少子高齢化に対応する自治会のあり方	84
9. 自治会組織図	87
10. 自治会の財政	89

緑の八木山、清流木曾川に囲まれた自然豊かな

わがまち・つつじが丘

① 八木山のふもとに広がるつつじが丘のまち



② 八木山から木曾川を望む



② つつじが丘の概要

昭和47年2月 岐阜県に開発申請(県指令建第73号1013)

- ・ 総面積 394,230m²
- ・ 団地造成 昭和47年4月(1,200区画)
- ・ 分譲開始 昭和48年
- ・ 建売住宅販売開始 昭和50年3月
- ・ 世帯数 1,060戸(平成17年9月末現在)

(1丁目世帯数123、2丁目世帯数155、3丁目世帯数124、4丁目世帯数150、
5丁目世帯数133、6丁目世帯数106、7丁目世帯数99、8丁目世帯数170)

緑の八木山、清流木曾川に囲まれた自然豊かな

わがまち・つつじが丘

・伊木山から八木山を望む



・つつじが丘公園から八木山を見る



・街角



つつじが丘自治会の歩み

時期 項目	第1段階【1期～3期】	第2段階【4期～8期】	第3段階【9期～14期】
	昭和51年4月～昭和54年3月	昭和54年4月～昭和59年3月	昭和59年4月～平成2年3月
項目	創設から基礎固めの時代	八木山校区の体制づくりの時代	組織の見直しと生活環境整備の時代
主な出来事 自治会	<p>「興人つつじが丘広報自治会」設立 (昭和51年3月28日)</p> <p>「自治会基金」興人より引継ぎ (昭和51年8月22日)</p> <p>「自治会体育祭」始まる (昭和51年10月17日)</p> <p>「団地内清掃・防火訓練」始まる (昭和51年11月21日)</p> <p>「班長会議」試行 (昭和52年5月より)</p> <p>「盆踊り大会」始まる (昭和52年8月6～7日)</p> <p>「つつじが丘防護団」発足 (昭和52年9月1日)</p> <p>「バス路線開通」 (昭和52年11月14日)</p> <p>「班長会議」正式発足 (昭和53年4月より)</p> <p>「公園の維持管理に関し市と「覚書」締結」(昭和53年7月より実施)</p> <p>「市民清掃(大安寺川)」初参加 (昭和53年11月12日)</p>	<p>集会所竣工(昭和55年3月末日)</p> <p>自治会の名称を「つつじが丘自治会」に改称(昭和55年4月より)</p> <p>自治会費300円から500円に (昭和55年4月より)</p> <p>「八木山小校区市民運動会」始まる (昭和55年10月10日)</p> <p>空き地(2種会員の敷地)清掃対策 まる(昭和55年秋より)</p> <p>「八木山連合広報会」発足 (昭和56年4月より)</p> <p>「班長会議」広報区単位の実施となる (昭和56年10月より)</p> <p>「市民(文化)展」始まる (昭和57年11月6～7日)</p>	<p>「タイムズつつじが丘」発刊 (昭和59年5月27日)</p> <p>「汚水問題調査委員会」役員会内に 設置(昭和59年4月)</p> <p>自治会の組織運営検討の為の諮問 委員会設置(昭和60年2月)</p> <p>鶯沼地区体育館竣工 (昭和60年9月21日)</p> <p>組織等諮問委員会中間答申 (昭和60年11月3日)</p> <p>「自治会長・広報会長」兼務体制始まる (昭和62年4月より)</p> <p>集会所増築工事竣工 (昭和62年4月29日)</p> <p>「汚水委員会」発足 (昭和63年4月～平成3年3月)</p> <p>「高齢化対策問題等諮問委員会」の 発足(平成元年5月28日)</p> <p>「つつじが丘地区住環境保全規約」制定 (平成2年2月25日)</p>
主な出来事 育成会ほか	<p>「つつじが丘子ども会」設立 (昭和51年5月2日)</p> <p>八木山小学校開校 (昭和52年4月1日)</p> <p>八木山小PTA発足 (昭和53年4月)</p> <p>八木山大火災 (昭和53年4月22日)</p>	<p>「校区子ども会」発足 (昭和55年4月)</p> <p>「校区青少年育成会」発足 (昭和55年9月5日)</p> <p>「クロスカントリー(新春のつどい)」 開始(昭和56年1月)</p> <p>「サマーフェスティバル(夏まつり)」 開始(昭和56年7月29日)</p>	<p>鶯沼宿踏切死亡事故 (昭和59年10月25日)</p> <p>八木山小学校開校10周年 (昭和62年4月)</p> <p>8丁目住宅火災 (昭和63年1月23日)</p>

第4段階【15期～19期】	第5段階【20期～24期】	第6段階【25期～29期】
平成2年4月～平成7年3月	平成7年4月～平成12年3月	平成12年4月～平成17年3月
汚水問題の解決と福祉対応への時代	人口増ピークを過ぎ安定化の時代	組織再見直しと福祉模索への時代
<p>自治会の名称を「つつじが丘統一自治会」に改称(平成2年4月)</p> <p>福祉センター(仮称)建設委員会の設置(平成2年12月)</p> <p>「汚水問題」役員会に委ねられる(平成3年4月)</p> <p>「高齢化問題等専門委員会」発足(平成3年4月～平成6年3月)</p> <p>「ふれあいセンター」竣工(平成4年4月11日)</p> <p>汚水処理施設の移管並びに公共下水道接続に関し、興人及び各務原市と「協定書」締結(平成5年9月11、14日)</p> <p>汚水処理施設の「自主運営」(平成6年2～3月)</p> <p>「福祉活動方針」承認される(平成6年3月)</p> <p>公共下水道接続される(平成6年4月2日)</p> <p>「福祉委員会」が専門委員会として発足(平成6年4月より)</p> <p>ふれあいセンター管理運営委員会発足(平成6年4月より)</p> <p>集会所改修工事が行われる(平成6年5月)</p>	<p>20周年記念行事実施(平成7年6月～11月)</p> <p>20周年記念誌発行(平成7年11月)</p> <p>タイムズつつじが丘再発行(平成8年8月)</p> <p>つつじが丘ふれあい文庫(平成8年12月)</p> <p>ボランティアグループ緑の会活動開始(平成9年3月)</p> <p>つつじが丘公園整備事業着手(平成9年4月)</p> <p>町名碑改修(平成10年11月)</p> <p>婦人会名称変更→女性会(平成11年4月)</p> <p>市のボランティア構想第一号に名乗り(平成11年4月)</p> <p>市より第一回自治会振興交付金の支給を受ける(平成11年4月)</p> <p>つつじが丘公園整備事業完工(平成12年3月)</p>	<p>団地内メイン道路バリアフリー化(平成12年4月)</p> <p>つつじが丘いこのつつじ発足(平成12年10月)</p> <p>組織等諮問委員会答申(平成13年10月)</p> <p>組織の変更・諸行事の見直しに着手(平成14年4月)</p> <p>つつじが丘統一自治会規約大幅改正(平成14年4月)</p> <p>近隣ケアグループを自治会の認可団体に登録(平成14年4月)</p> <p>市民運動会を中止 市民ウォーキングに切り替え(平成14年10月)</p> <p>少子化対策の一環としてキッズタイムの創設(平成14年4月)</p> <p>自治会基金の一般財源化(平成15年4月)</p> <p>防護団組織の見直しと防護団用品の備蓄(平成15年4月)</p> <p>防災用品備蓄の諮問委員会設置(平成15年4月)</p> <p>創立30周年記念事業実行委員会発足(平成15年6月)</p> <p>集会所の増改築(平成16年2月)</p>
<p>5丁目住宅火災(平成4年8月)</p> <p>「校区育成会」を「八木山まちづくり協議会」に改称(平成6年4月より)</p> <p>中部電力太線化工事開始(平成6年8月より)</p>	<p>八木山小学校20周年記念(平成8年11月)</p> <p>小杉昌一氏ホタルの保護で功労者表彰(平成8年11月)</p> <p>カーサレスバート開設(平成8年8月)</p> <p>大安寺創立60周年祭(平成9年4月)</p> <p>森市長誕生(平成9年4月)</p> <p>八木山少年団県大会優勝(平成9年11月)</p> <p>角氏地元市会議員初当選(平成9年2月)</p> <p>第22回各務原市総合防災訓練(平成11年8月)</p>	<p>介護保険制度実施(平成12年4月)</p> <p>坂祝バイパス北インターチェンジ工事説明(平成14年11月)</p> <p>八木山治山計画説明会(平成14年12月)</p> <p>八木山自然の会発足(平成15年4月)</p> <p>鵜沼北インターチェンジ問題協議会設立(平成16年4月)</p> <p>ハッピー東側道路拡幅工事着工(平成16年5月)</p> <p>八木山治山工事清水谷付近完成(平成16年7月)</p> <p>鵜沼北インターチェンジ問題協議会第1回会合(平成16年8月)</p>

統一自治会年表（1 / 4）

[参考] 各年度は、当年4月1日～翌年3月31日

年 度 項 目	1995=H7 (第20期)	1996=H8 (第21期)
・基準所帯数	・1003所帯	・1020所帯
・会計規模	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 13,646,882 円 ・支出 9,826,225 円 ・基金 23,785,713 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 13,266,093 円 ・支出 9,966,399 円 ・基金 24,135,713 円
・自治広報（役員会）に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・20周年記念行事実施 式典（11/2）、記念誌発行 カプセル埋蔵（20年後出す） トータムポール、スポーツ大会 囲碁・将棋大会、薄墨桜植樹 「つつじが丘」文字植樹 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムズつつじが丘 一時、停刊も再発行 位置付けを明確化
・環境対策に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃（5/28,7/23,11/12） ・空地草刈依頼（要請文発送） ・ペット糞害対策（町内巡回、他） ・中電に送電線電波障害対策要望 （中電は処置実施） ・路上駐車現状調査、結果周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃（5/26,7/28,11/10） ・空地草刈の依頼（文書発送） ・ペット糞害「心得10か条」配布
・防災対策に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練（5/28,11/12） ・消火ホース格納箱、更新・修理 ・街路灯1基新設、82基修理 ・中央公園地下防火水槽、市設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練（5/28,11/10） ・交通安全識票29個更新 ・救急救命講習会 51名合格 ・放火ホース格納箱1基更新 ・街路灯2基新設
・文化体育に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・第19回盆おどり（7/23） ・第14回市民文化展（11/4,5） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第20回盆踊り（7/27,28） ・第15回市民文化展（11/3,4）
・福祉に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の方を把握(276名) ・福祉映画と昼食会(9/3) ・福祉講演会（11/19） ・介護講習会（2/3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そば道場」開催（11/24） ・介護講習会（2/16）
・その他（育成会等）活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市民清掃（5/28,11/12） ・第15回夏まつり(8/19,20) ・第17回市民運動会（10/8） ・第16回新春のつどい（1/14） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民清掃（5/26,11/10） ・第16回夏まつり（8/17,18） ・第18回市民運動会（10/10） ・新春のつどい（1/12） 約1500名参加

統一自治会年表 (2/4)

1997=H9 (第22期)	1998=H10 (第23期)	1999=H11 (第24期)
・1030所帯	・1037所帯	・1040所帯
<ul style="list-style-type: none"> ・収入 12,992,388 円 ・支出 9,774,467 円 ・基金 24,135,713 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 12,665,800 円 ・支出 10,447,208 円 ・基金 24,000,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 12,581,435 円 ・支出 11,115,284 円 ・基金 24,000,000 円
<ul style="list-style-type: none"> ・「つつじが丘公園整備事業」始まる(散歩道等) ・盆踊り協賛金、廃止決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つつじが丘」町名碑の改修(11/1) ・集会所にデプロ印刷機導入 ・三世代ふれあい広場の開催しめなわ作り教室(12/19) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つつじが丘公園整備事業」完成総称を“つつじが丘公園”とし、中央公園 → “東広場”、上池公園 → “西広場”になる ・ボランティアハウス導入名乗り
<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃 (5/25,8/3,11/9) ・空地草刈依頼 (文書発送) ・ペットの糞害「心得10か条」全戸に配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃 (5/24,7/6,11/8) ・空地草刈依頼 (文書発送) ・飼い犬しつけ方教室 (11/28) ・ペット糞害「心得10か条」回覧 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃 (5/23,7/25,11/14) ・空地草刈依頼 (文書発送) ・飼い犬しつけ方教室 (11/11) ・ペット糞害「心得10か条」回覧 ・草刈機1台購入
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 (5/25,11/9) ・消火ホース格納箱1個更新 ・街路灯1基増設 ・パンク魔要注意回覧 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 (5/24,11/8) ・普通救命講習会 (2/21) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 (5/23,11/14) ・消火ホース格納箱、2基更新 ・違反駐車に「マナーアップシール」貼る
<ul style="list-style-type: none"> ・第21回盆おどり (8/5.6) ・第16回市民文化展 (11/2,3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第22回盆おどり (7/25.26) ・第17回市民文化展 10/31,11/1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第23回盆踊り (7/24,25) ・第18回市民文化展 (11/2,3)
<ul style="list-style-type: none"> ・稲田園交流会 (7/18) ・そば道場 (10/19) ・介護講習会 (3/1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲田園交流会 (7/15) ・そば道場 (10/18) 	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上対象ケアマップ作成 ・稲田園交流会 (7/14) ・そば道場 (10/17) ・市内の福祉施設見学 (11/25)
<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り (8/23.24) ・第19回市民運動会 (10/10) ・新春のつどい (1/11) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り [8/22.23] ・第20回市民運動会 (10/10) ・新春のつどい (1/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り (8/20.21) ・第22回市総合防災訓練 (8/29) 八木山小校庭にて ・第21回市民運動会 (10/11) ・新春のつどい (1/16) ・主婦と市長と語る会 (2/6)

統一自治会年表 (3 / 4)

年度 項目	2000=H12 (第25期)	2001=H13 (第26期)
・基準所帯数	・1043所帯	・1052所帯
・会計規模	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 12,775,326 円 ・支出 10,681,425 円 ・基金 24,000,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 10,423,569 円 ・支出 12,468,799 円 ・基金 24,000,000 円
・自治広報(役員会)に関する活動	・団地内メイン道路バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・組織等諮問委員会 6ヶ月かけて、自治会に関する 答申報告を行う ・ふれあいセンタの充実 ピアノ設置、すべり止め等
・環境対策に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃 (5/21,7/2,11/5) ・空地草刈依頼 (文書発送) ・飼い犬のしつけ方教室 (11/11) 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃 (5/28,7/1.11/4) ・空地草刈依頼 (文書発送) ・犬糞処理の要請チラシ回覧
・防災対策に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・八木山公園(一丁目)に、 防火用水槽設置 ・防災訓練 (5/21, 11/5) ・普通救命訓練 (2/4) ・消火ホース格納箱2基更改 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 (5/20 7/1.11/4) ・8丁目交差点に標識・ミラー 設置を市へ要望し、実施済 ・路上駐車防止チラシ回覧 ・普通救命講習会 (2/24)
・文化体育に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・第24回盆おどり (7/22,23) ・第19回市民文化展(11/2,3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第25回盆踊り (7/28) ・第20回市民文化展 (11/3.4)
・福祉に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・稲田園交流会(7/12) ・ボランティアハウス発足 (10/6) 名称「いこいのつつじ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲田園交流会 (9/5) ・「いこいのつつじ」充実策検討 今後 NPO 化の検討
・その他(育成会等)活動	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつり (8/22,23) ・第22回市民運動会 (10/8) ・新春のつどい (1/14) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつり (8/25.26) ・第23回市民運動会最終回 (10/14) ・新春のつどい (1/13) ・女性会「音楽とワインの夕べ」 (12/8)

統一自治会年表 (4 / 4)

2002=H14 (第27期)	2003=H15 (第28期)	2004=H16 (第29期)
・1058所帯	・1058所帯	・1058所帯
<ul style="list-style-type: none"> ・収入 12,432,808 円 ・支出 9,657,415 円 ・基金 24,100,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 13,291,812 円 ・支出 9,151,579 円 ・基金 24,100,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 14,964,409 円 ・支出 9,183,069 円 ・基金 2,310,000 円
<ul style="list-style-type: none"> ・組織の改革実施開始 福祉委員会を除き、各専門委を 事務局内の専門部会に吸収、 ・会長・班長の役務マニュアル作成 ・集会所改築立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会所の増改築完成(2月) ・事務局専門部制の確立 ・防護団組織の改変 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会規約運用の理解、定着化 ・30周年記念事業 企画実行委員会立上げ ・防災備蓄諮問委員会が提言 ・ふれあいセンタ身障者トイレ修理
<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃(7/7,11/3) ・ゴミのポイ捨て禁止看板立てる ・空地草刈依頼(文書発送) ・飼い犬に対する注意回覧 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃(7/6,11/2) ・空地草刈依頼(文書発送) ・草刈機・チェーンソー刃取替え ・愛犬家の皆さんへ(回覧) 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内清掃(7/4,11/7)) ・空地草刈依頼(文書発送) ・ゴミステーションにおける クレゾール使用を中止
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練(7/7,11/3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練(7/6,11/2) ・北公園(3丁目)防火水槽設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練(7/4,11/7) ・違法・迷惑駐車モラル啓発回覧 ・空巢被害・車両盗難多発[9月]
<ul style="list-style-type: none"> ・第26回盆おどり(7/27) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第27回盆おどり(7/26) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第28回盆おどり(7/24)
<ul style="list-style-type: none"> ・「いこいのつつじ」活動の充実 (周知、内容、車椅子等) ・稲田園交流会(9/3) ・キッズ(幼児)タイムの創設 名称は“ちびっこクラブ” 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いこいのつつじ」 八木山小子供たちと交流(10/24) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いこいのつつじ」 参加者、減少化
<ul style="list-style-type: none"> ・第22回夏まつり(8/24,25) ・八木山健康ウォーク2002 第1回500名参加(10/6) ・新春のつどい(1/12) ・八木山治山工事説明会(11月) ・うぬま北I/C工事説明会 (11/16,2/16) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第23回夏まつり(8/23,24) ・八木山健康ウォーク2003 400名参加(10/5) ・新春のつどい(1/11) ・女性会ふれあいコンサート(11/9) ・団地内窃盗犯 増加の傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ・第24回夏まつり(8/21,22) ・八木山健康ウォーク2004 (10/3) ・新春のつどい(1/16) ・うぬま北I/C協議会開催(8/29) 市から説明を受け、質疑等 ・女性会ふれあい講演会(12/4)

〈株〉 興人による つつじが丘年次別分譲住宅図

～ つつじが丘の建売住宅は延べ28次に亘って販売された ～



つつじが丘住宅入居(竣功)のあゆみ

次	分譲年月	戸数	累計	概要
1	50/3	28	28	竣工
2	53/1	15	43	竣工
3	54/1	32	75	竣工
4	5	18	93	竣工
5	10	31	124	竣工
6	55/7	30	154	竣工
7	56/2	20	174	竣工
8	11	25	199	竣工
9	58/1	17	216	竣工
10	5	15	231	竣工
11	11	24	255	竣工
12	59/1	16	271	竣工
13	9	22	293	竣工
14	50/1	24	317	竣工
15	7	25	342	竣工
16	51/1	29	371	竣工
17	7	11	382	竣工
18	52/1	22	404	竣工
19	7	15	419	竣工
20	53/1	11	430	竣工
21	8	10	440	竣工
22	54/1	9	449	竣工
23	5/1	11	460	竣工
24	7/7	8	468	竣工
25	5/5	8	476	竣工
26	5/5	7	483	竣工

* 白地は土地の分譲



※ 竣工後のつづじが丘は、緑豊かな環境が特徴です。また、近隣の商業施設や学校も充実しています。

* 不動産のご売却、ご購入。建物の新築・増築・修繕、リホーム等のご相談は興人不動産販売へ！

※ 営業時間
 休日の営業
 無休の営業

興人不動産販売株式会社
 鶴沼ハウジングセンター
 TEL (0683) 85-0655 (FAX兼用)

つつじが丘と周辺の地図

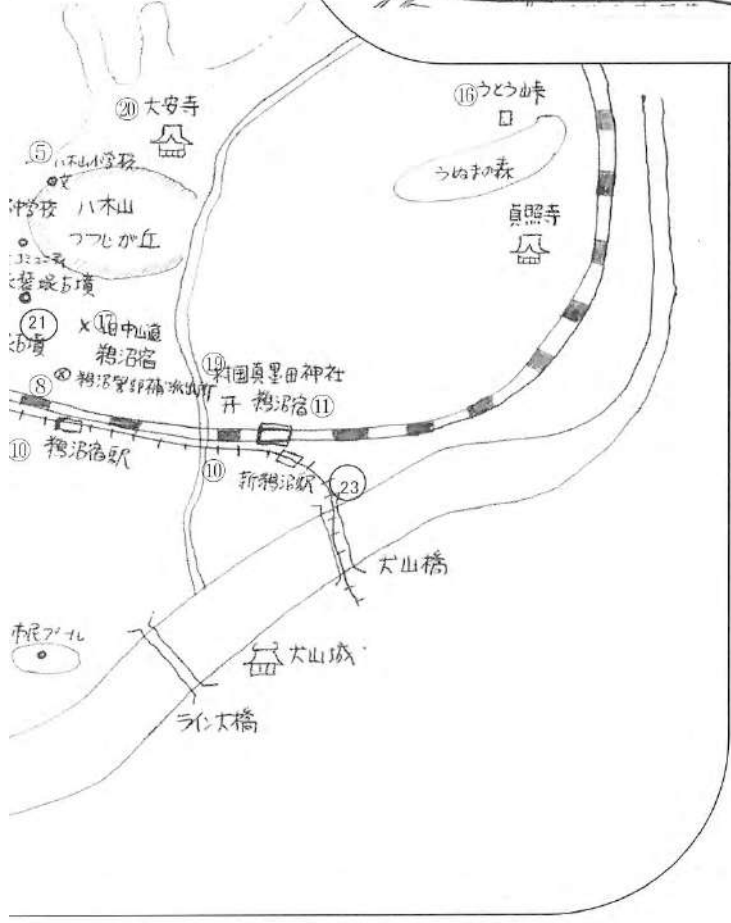
つつじが丘のまちを中心に、周辺も含めた
関連施設の地図を掲載しました。

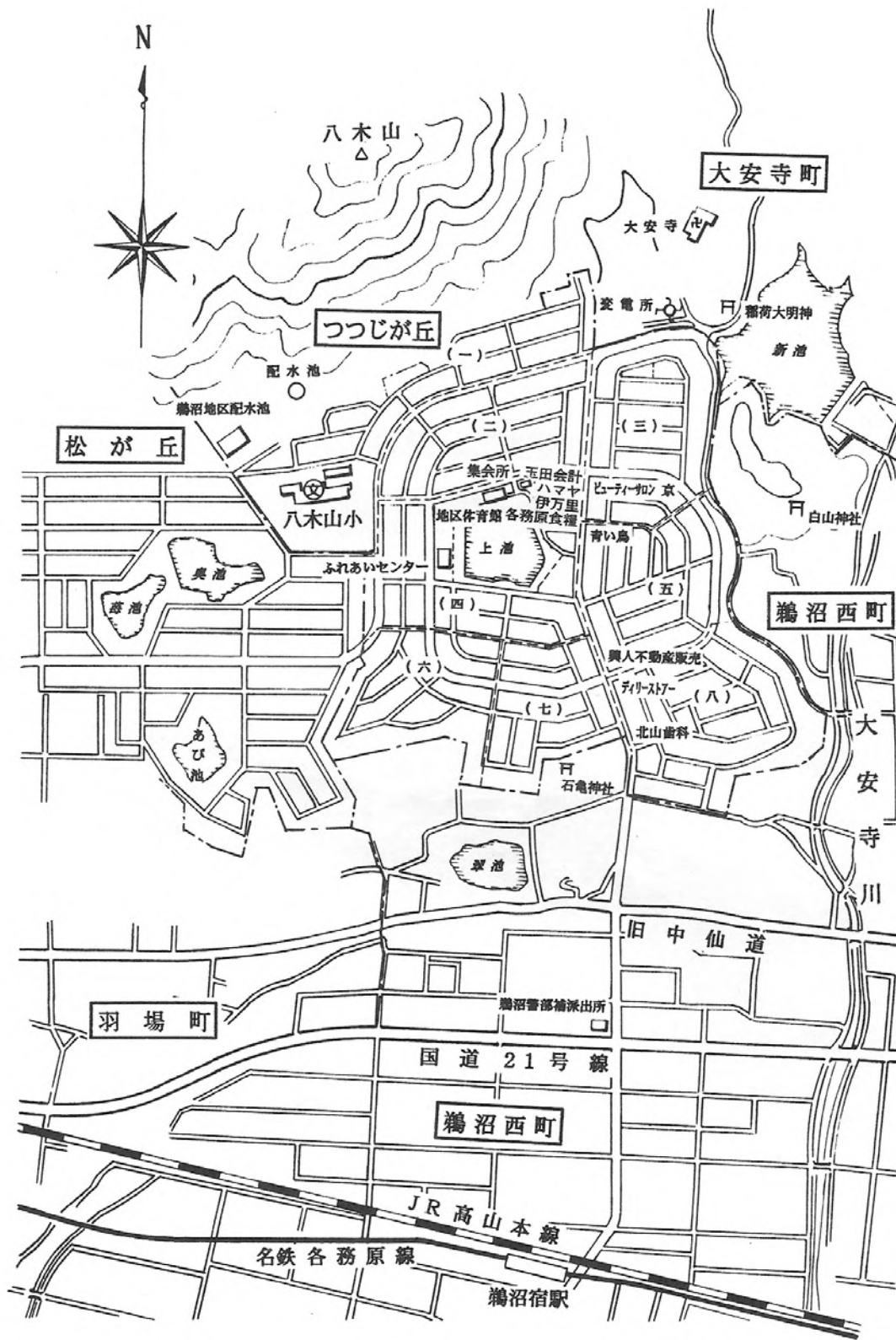
- ① つつじが丘集会所
- ② ふれあいセンター
- ③ 鶯沼地区体育館
- ④ 松が丘コミュニティーセンター
- ⑤ 八木山小学校
- ⑥ 鶯沼中学校
- ⑦ 市役所鶯沼出張所(鶯沼市民サービスセンター)
- ⑧ 鶯沼警部補派出所(交番)
- ⑨ 東消防署
- ⑩ 名鉄新鶯沼駅・鶯沼宿駅・羽場駅
- ⑪ JR鶯沼駅
- ⑫ つつじが丘岐阜バス停留所
- ⑬ 避難場所

名所旧跡

- ⑭ 衣装塚古墳
- ⑮ 坊の塚古墳
- ⑯ うとう峠
- ⑰ 旧中山道鶯沼宿
- ⑱ 村国神社
- ⑲ 村国真墨田神社
- ⑳ 大安寺
- ㉑ 芭蕉句碑
- ㉒ 伊木山城跡
- ㉓ 鶯沼城跡







公共施設

つつじが丘集会所

自治会・認可団体・同好会の会合に使用されます。
 但し、特定の政治、宗教活動及び営利を目的とする活動には
 使用できません。自治会事務局が管理運営しています。

役員会・班長会議の自治会活動や、各種団体・サークル活動に使われています。
 今回 30 周年記念事業の一環として市の補助をえて大幅に改築されました。

男子 便所	車椅子用	女子 便所	物置	会議室
入口			集会所	和室 (12.5 畳)
事務所	湯沸室			



正面玄関:車椅子やベビーカーで入館可能になりました。

倉庫側入口:盆踊り等自治活動の備品が収納してあります。



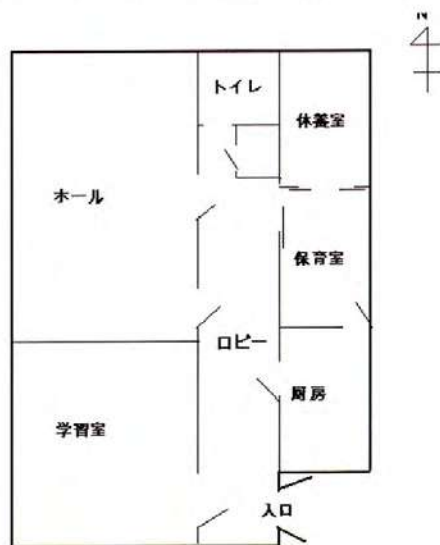
公共施設

つつじが丘 ふれあいセンター

『福祉・文化』の拠点として学習、保育、休養、集会のために使用されます。災害時緊急避難所指定。

当自治会内の管理運営委員会により運営されています。

(市と防衛庁の補助金により建設され、自治会に管理を委託)



平成16年度までの改修により全館バリアフリーになりました。

料理教室も可能な厨房施設があります。



統一自治会総会や、いこいのつつじ、各種サークルに利用されています。



利用方法 申込書と使用料を管理人に提出し申し込む。

使用時間 午前9時～午後9時

使用料

施設名	2時間	4時間	1日
集会室(ホール)	1,000円	2,000円	3,000円
学習室(机、椅子付き)	1,000円	1,500円	2,000円
休養室(12畳和室)	1,000円	1,500円	2,000円
保育室(12畳和室)	1,000円	1,500円	2,000円
全館(葬儀等)			30,000円

公共施設 公園

八木山公園(1丁目)

八木山登山口のすぐ南の位置しています。
東西に長い公園です。



決まりを守って、皆が気持ちよく使えるようにしましょう！



大小7箇所の公園があります。

公園維持管理は市都市計画部公園課との契約により『月2回以上の清掃と年2回以上の除草』を各单位自治会が行っています。(市より報奨金が支給されています。)

八木山・北・西・南・つつじが丘公園には防火水槽が埋め込まれています。

北公園(3丁目)

防火用水の石碑があります。



東公園(5丁目) 石垣の上にある少し小高い公園です。



つつじが丘公園 : 遊歩道が整備され住民の散歩コースとして利用されています。

西広場(上池公園) 反対側には広いグラウンドがあり
ゲートボール場も取れます。

東広場(中央公園) 恒例の盆踊りの会場になります。



南公園(8丁目)

広々としたグラウンドで子どもたちが集い楽しんでいます。



西公園(6丁目)

藤棚が心地よい日陰を作っています。

公共施設

鶺沼地区体育館

各務原市の施設です。

体育館管理人への申込により、各務原市内団体はもちろん市外の団体でも代表者が市民であれば、使用できます。

使用時間 9:00~21:00

休館日 12月28日~1月4日

使用料 無料



連日各種サークルでにぎわっています。



バドミントン・卓球・バレーボール・体操・剣道など、施設に負担のかからないスポーツが行えます。

更衣室奥には、会議室が有り、20人ほど入室ができます。(椅子・机・黒板あり)



防災訓練時には炊き出し実習の会場に

トイレはもちろん、ロッカー室、シャワー室が完備



災害時緊急避難場所です。

公共施設

八木山小学校

校区はつつじが丘・松が丘及び羽場町の一部です。
 つつじが丘の災害時の緊急避難所です。
 八木山夏祭り・健康ウォーク・新春の集いなど町づくり協議会の
 行事の会場になります。
 また体育館・グラウンドは、学校を窓口として各サークルも使用で
 きます。



正面玄関：季節の花で飾られています。
 また、校内には50種類以上の木々が植わっています。



卒業生の作った記念像



足元には皆の手形が押してあります。台座に名前が刻まれています。



つつじが丘統一自治会・
 松が丘連合自治会からの
 寄贈碑

碑の裏側にはめだかのいる小さな
 池があります。

体育館

校区の選挙会場として使われます。
 バスケットコートが1面取れます。



写真でみるつつじが丘の30年

昭和53年頃

造成期（昭和49年頃）団地全体



現在



7丁目 石亀神社より北側を望む



つつじが丘公園付近から南側を見て

平成8年頃



自治会の発足と変遷

わが街つつじが丘の自治会が発足以来、今日まで30年を経過しましたが、その規模、会員の年齢、家族の構成、時代背景等の変化に伴い如何なる歩みをしてきたのか、大きな節目毎に過去を振り返ってみたいと思います。

(1) 自治会の発足

わが街は昭和47年度より造成が始まり、昭和50年に入居が開始されました。興人鶴沼住宅に50世帯足らずの入居者があり、その人達が興人との売買契約第12条（分譲地内の付属施設等の管理は買主が本分譲地の他の購入者と協同して自治会を結成し自治会の責任と負担においてこれを行う。）に基づき、昭和51年3月28日西町公民館において「興人つつじが丘広報自治会」を発足させたのが始まりです。当時は街路灯もなく仮設の集会所もないところで初期の自治会活動が始まり、運動会、団地内清掃、防火訓練等をスタートさせ、続いて盆踊り大会、班代表者会議発足などにより、連帯意識の高揚が行事のみならず組織面からも序々に促進されることになりました。

(2) 広報会から自治会へ

当時の自治会は広報会と称しておりましたが、広報会は市の広報行政の補完に資することを目的に、住民の推薦により市長が委嘱した広報会長により構成された行政の末端組織という位置づけでした。各地区の広報会は原則として小学校の校区別に分けられており、当地区はまだ八木山小学校が開校されておらず、松が丘とともに鶴沼第一小学校区に組み入れられました。（八木山小学校区連合広報会となったのは昭和56年4月からです。）広報会はその基本的性格が行政の末端組織であるところから、ともすると住民不在となりかねないことを憂慮し、4年目より「広報」の二字を削除「つつじが丘自治会」と名称を変更しました。“住民主体の自治組織”たる性格を鮮明に打ち出したものです。即ち、「自分達のために、自分達の手で、自分達の街をつくる」との基本理念に基づいており、このことは自治会30年の歴史の中で多少の変遷はあっても、一貫して守られてきています。

(3) 世帯数の増加と組織の見直し

昭和55年頃から、世帯数が346～424へと増加し広報会の数も4広報会、5広報会と膨張するにつれ、今まですべての行事が自治会全体として行われ、自治会活動を底辺で支えている班長会議も全体会議の形をとっていましたが、「この形態では自治会運営が上意下達方式に傾き過ぎる、もっと各広報会にも自主性を」との声が出始めました。この頃から、広報会毎に班長会を開き、各行事も広報会単位で行われるようになりました。一方、松が丘を含めた八木山校区全体としての組織づくりも始まり、校区市民運動会、校区こども会、校区青少年育成会、八木山連合広報自治会等の発足を見ることになりました。更に、世帯数が480を超えた昭和57年度からは広報区独自の活動に重点が置かれるようになりました。昭和59年、60年になると会員数も700を超え、街の規模も急速に膨れ上がり自治会活動に対する住民の意識にも格差が出始め、組織の運営方法等につき再検討の機運が盛り上がりました。そこで、過去10年間を総括するために、住民に対するアンケートの実施、さらには「組織等諮問委員会」の設置を見ました。本委員会の答申は入居者の急増による自治会に対する住民意識の希薄化に憂慮し、班長会議形骸化の防止策の一つとしてガイドブックの作成、役員選出のあり方、事務局機能の強化、自治会長広報会長兼務体制が提案され、住民主体の自治組織であることの確認を求めるなど組織見直しの時代が続きました。

まちづくりの活動拠点の変遷

昭和55年3月 広報会集会施設完成
地域住民の融和と自治の振興を目的
まだ、周辺に住宅が建設されてい
ないことがわかります。



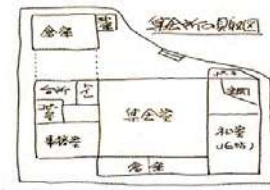
集会所の完成



昭和61年8月増築検討委員会の答申

昭和62年4月

つつじが丘の文化活動の殿堂、
コミュニティーセンターとして
また、開かれた自治会の象徴として
住民の期待をいっぱい受け竣工
当時は和室に人気が集まる



平成16年2月

高齢者、障害者、幼児等に優しい施設
台所を吹き出しが出来るように改修



安全性、利便性によりバリアフリーと
なった玄関

(4) 高齢化問題への対応

昭和62年の12月総会において「高齢化対策をぬきにしてふるさとづくりは完成しない」との住民の声があり平成元年には高齢化対策問題等諮問委員会が発足いたしました。その答申としては、自治会の中に専門委員会を設置し、長期的視野に立って福祉の街づくりを進めることが提案されています。平成3年専門委員会が立ち上げられ、3年間の検討の結果、平成6年福祉活動基本方針が提案され承認されました。それによると高齢化が急速に進む中、自治会でできること（互助）、行政に依頼していくこと（公助）、高齢者本人が努力してもらうこと（自助）を区別しつつ、住民全員が、高齢化問題を自分のこととして捉えることの必要性を説いております。また自治会の対応については、当面自治会主導型で推進し（総論的な立場で高齢化のため街づくり、いわば土壌づくりを主体とする。）、具体的な福祉問題は関係福祉団体（近隣ケアグループ、民生児童委員、社会福祉協議会）を推進母体として進めることを提案しました。併せて自治会組織の中に福祉委員会を常設することで長期的な視野に立った福祉活動を展開する際の要とすることになりました。この頃、大きな出来事としては、平成4年4月福祉の拠点ふれあいセンターが竣工、平成6年4月には公共下水道接続問題が無事解決、更に自治会の成人式とも言うべき、創立20周年を迎え、自治会をあげて、盛大な行事が行われたことがあげられます。この20年間、戸数も1000戸を超え、新しい街づくり、ふるさとづくりの努力が実り、市内有数の自治会組織に育ったことを感謝するとともに高齢化の時代にむけて、思いやりの街づくり、明るく住みよいふるさとづくりを目標に更なる前進を誓って諸行事が行われました。

(5) 少子高齢化に対応する組織の更なる見直し

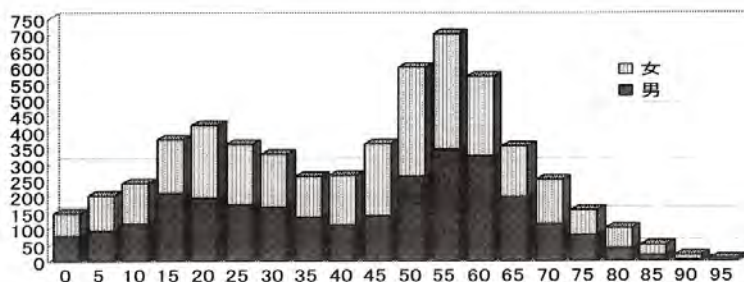
20周年を迎えてから4～5年は人口増も一段落し、横這いが続くこととなり、自治会としても一応の形が整い比較的平穏な時代が経過しましたが、自治会の組織、行事の両面で硬直化肥大化が目立ち始めるとともに高齢化が序々に進んでまいりました。この間、つつじが丘公園整備事業が進められ、ボランティアハウス構想の進展、自治会財源として行政からの振興交付金の支給が始められました。平成13年3月つつじが丘の高齢化率は10.6%になり、5年後の平成18年には16%に達することが予測されています。その一方で少子化も急速に進み平成13年285名の児童数が平成17年には20%減の227名になることが予測されるなど、急速に進行する少子高齢化社会に適應できる自治会の体質改善が急務の課題となってまいりました。時の役員会は平成13年3月組織等諮問委員会を発足させ、少子高齢化に対応可能な自治会のあり方、組織の肥大化硬直化に対し少数役員体制での効率的な運営形態、主催行事の見直し、これらの改革に見合う規約改正につき答申を求めました。即ち、町の建設時代の住民自治と成熟した町のそれとは自ずとそこに質の変化が求められるとは云いながら、住民間の相互扶助、町の安全対策、生活環境の保全等の基本的な自治会活動のあり方は充分再確認した上で、改革すべきは改革するという見地から、半年間にわたり慎重な検討がなされ、答申がなされました。この答申に基づき、行事の一部廃止、組織の簡素化（単位自治会役員の減員、専門委員会の縮小、本部組織の効率化）及びこれに伴う規約の大幅改正を行い、高齢化に対処する体制が整いました。現在、自治会は新しい路線を進みつつあります。30周年を記念して福祉と環境をメインテーマにこれまでの歴史を振り返りつつ、共に喜び 共に感謝するとともに、地域への愛着をより深めるための各種行事が展開されようとしております。

少子高齢化に対応する自治会のあり方

まちの人口構成の変化

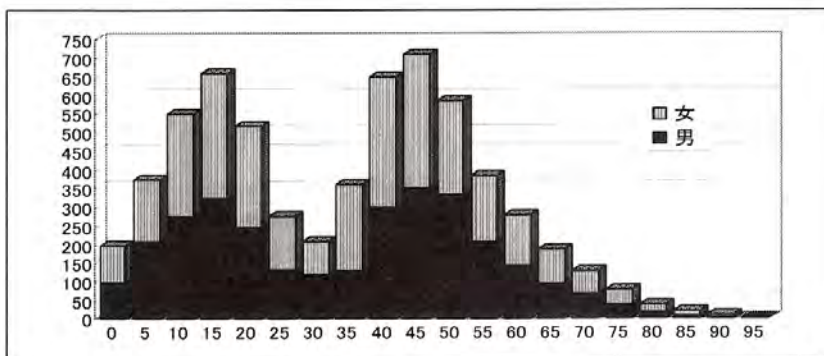
市人口統計 八木山校下年齢別人口分布より

現 在 1,892世帯 5,789人 平成16年4月



15歳以下	585人 (全体比 10.11%)	男 2,795	女 2,994	合計 5,789人
65歳以上	933人 (全体比 16.12%) 高齢者人口	一世帯当たりの人数	3.10人	

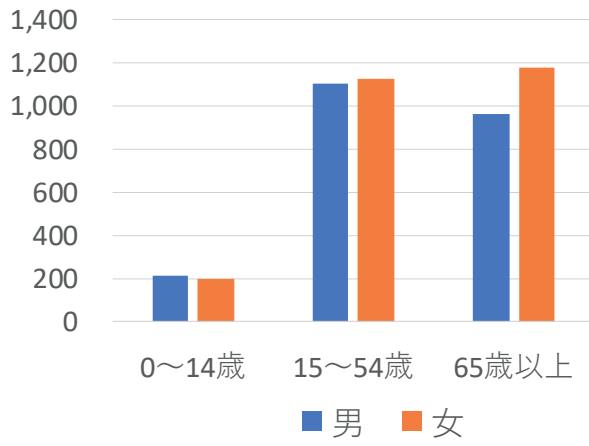
10年前 1,741世帯 6,169人 平成6年4月



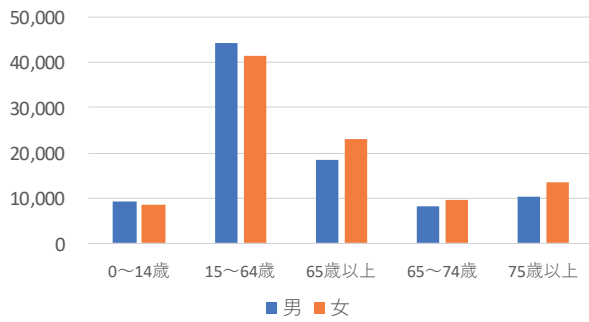
15歳以下	1,115人 (全体比 18.07%)	男 3,020	女 3,149	合計 6,169人
65歳以上	400人 (全体比 6.48%) 高齢者人口	一世帯あたりの人数	3.54人	

十年前に比べ、一世帯当たり平均で0.4人少なく、義務教育を受けている15才以下の子ども的人数は約8%も減少し、総人口でも380人減少している。また、逆に65才以上の高齢者人口は533人増加している。子どもと若手の働きざかりの人口が少なくなっており、少子高齢化をはっきり示している。今後もこの傾向が著しく進展する。

八木山校区人口構成 令和5年10月1日現在



各務原市人口構成 令和5年10月1日現在



組織等諮問委員会の答申

わたしたちのまちが急速に進行している少子高齢化に対応するため、自治会の組織や活動を見直すことが指摘され、平成13年4月の第26回定期総会で組織等諮問委員会の設置が承認された。第1回組織等諮問委員会が4月22日に開催され、統一自治会長から以下の内容について諮問された。

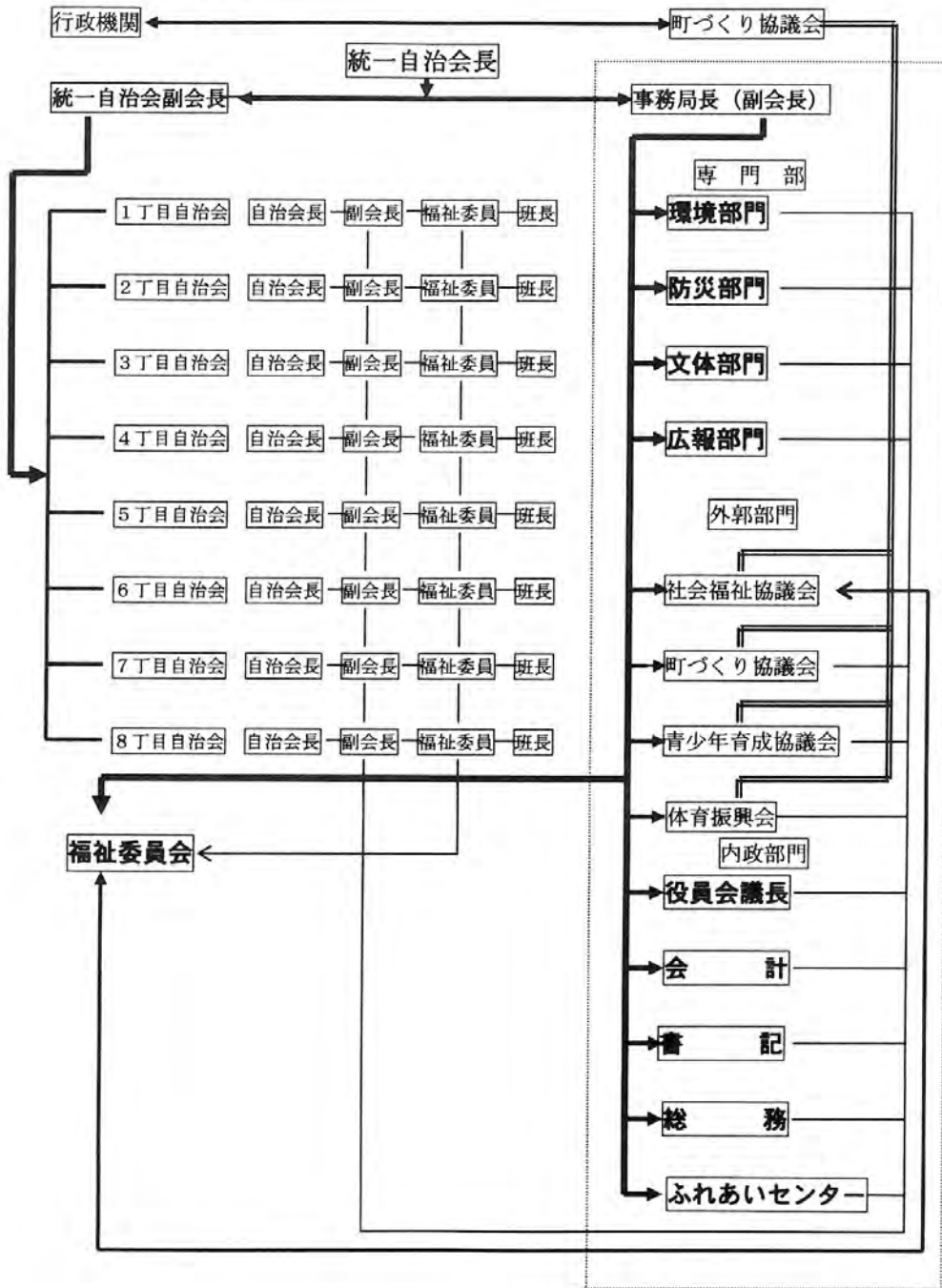
- 入居戸数の増加、会員の年齢構成、家族構成等の変化に対応できる自治会活動全般の根本的な見直し。
- 現行規約、行事、組織等にとらわれることなく、少子高齢化社会に対応可能な自治会のあり方。
- 各単位自治会の自主性を生かす“連邦組織”の可能性。
- 少人数役員体制での効率的な組織形態。
- 主催行事（まちづくり協議会主催を含む）の見直し。
- 地域諸団体と自治会の関連性を明確にする組織。
- 以上の諸事項を規約等に反映させるための規約改正。

これを受け、前段では「今日までの総括」、後段では「少子高齢化に対応できる自治会のあり方」について、延べ10回の審議を重ね、その内容は16ページにわたる答申書にまとめられた。「できるだけスリムな組織、効率的な運営、行事の簡素化を念頭にまとめたので、現役員会で適切な判断をお願いしたい。」と、平成13年10月20日に座長の森塚京志氏より太田勝洋会長に答申書が渡された。

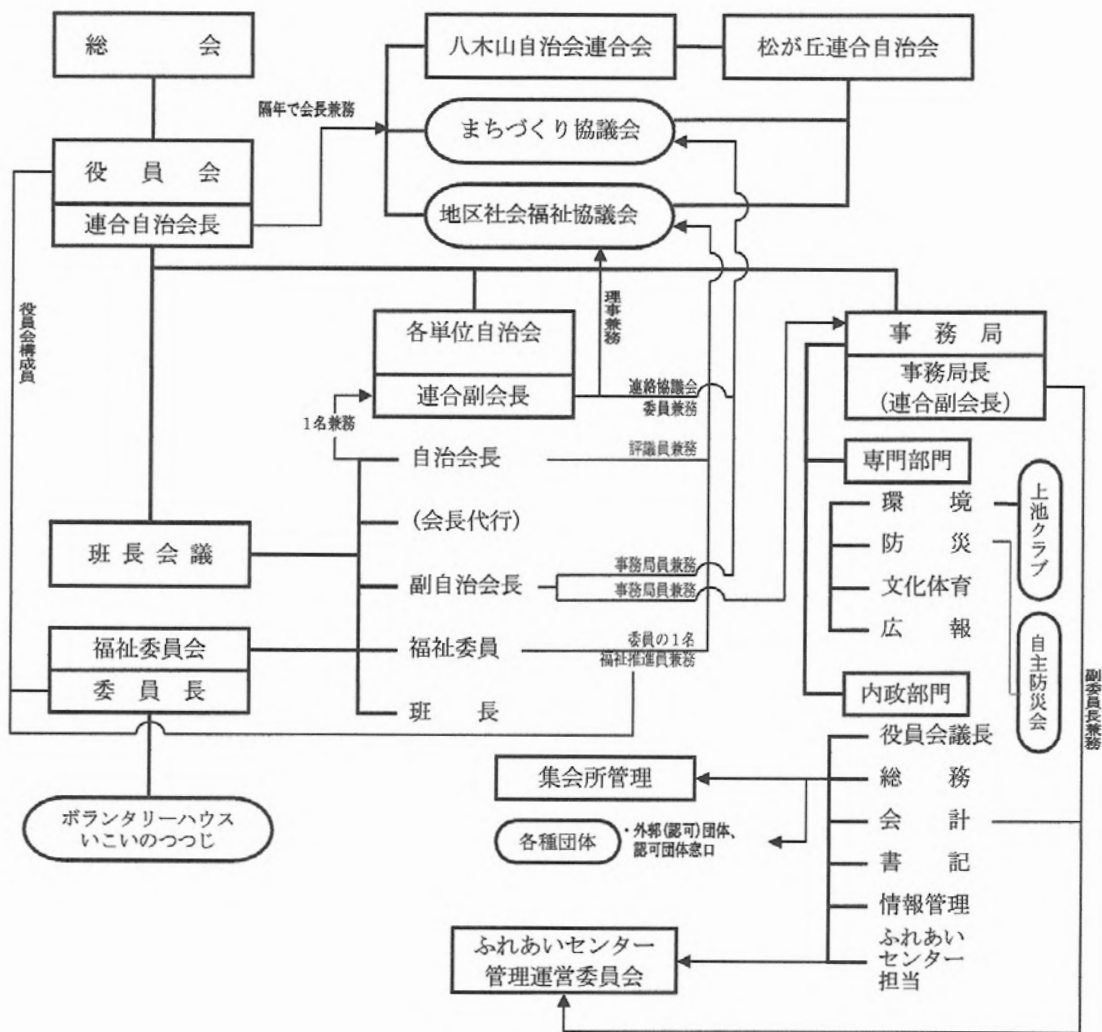
「答申書まとめ・ダイジェスト」より抜粋

- 1 自治会行事の扱いについて
清掃、防災訓練、盆踊りは存続する。まちづくり協議会主催の新春の集い・市民清掃は存続する。夏祭りは条件付き存続、市民運動会は、現行スタイルでは廃止する。
- 2 専門委員会について
4委員会のうち「福祉委員会」のみ残し、他の3専門委員会は廃止する。
- 3 単位自治会の役員・委員体制
会長1名、副会長2名（うち1名は事務局員兼務）、福祉委員1名。統一自治会長を出す単位自治会は、会長代行を1名加える。
- 4 行政関連組織の役職の扱い
社協支部長、体育振興会長は統一自治会長が兼務する。社協、体振、青少年育成の各推進委員は単位自治会副会長が兼務する。
- 5 単位自治会への助成金は、目的意識を明確にするため運営費と改める。自治会基金は、ペイオフの関係で2分割する。緊急災害準備金は、使用目的を住宅火災見舞金に絞る。
- 6 ふれあいセンターの福祉関連への無料開放は慎重にしたい。

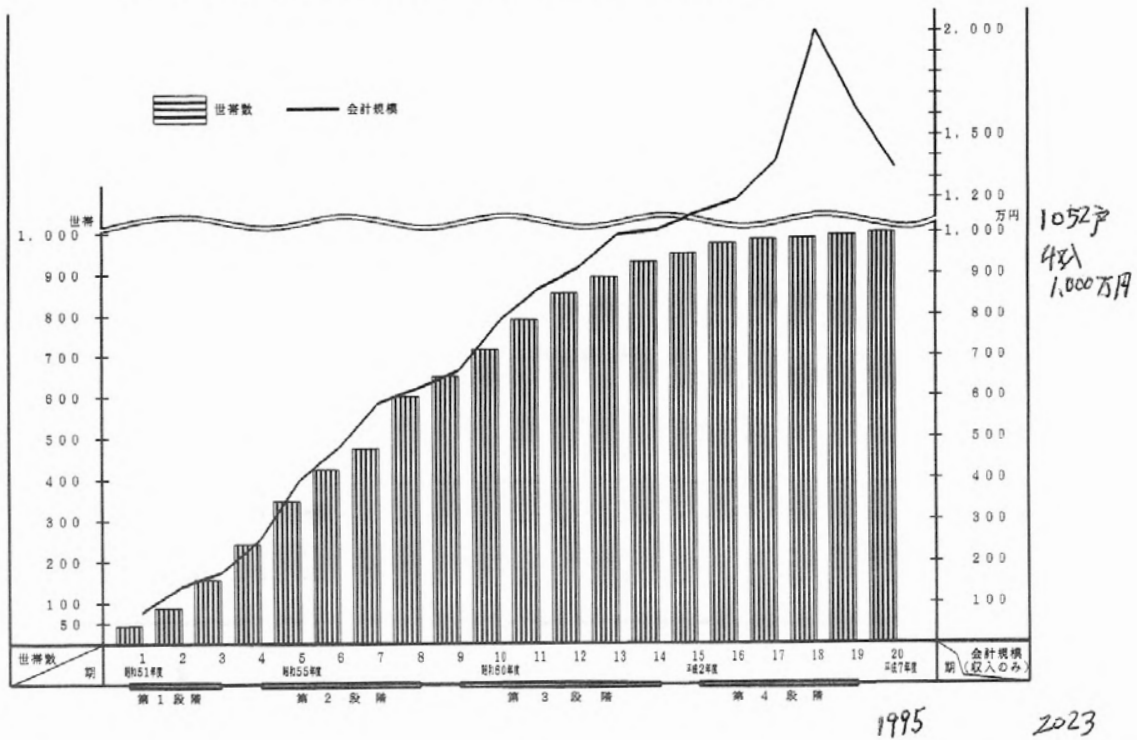
自治会組織図



つつじが丘連合自治会・組織関連図 (令和元年4月現在)



世帯数と会計規模（収入のみ）の変遷



わずか50世帯に満たないつつじが丘でしたが、
20年たった今日では、1,000世帯を超えるまちになりました。

自治会創立50周年を 迎えるにあたって

2023年12月27日

八木山自治会連合会
会長 杉山 忠男



目次

1	地域における自治組織の活動・取組について	3
2	自治会離れ対策1	4
3	自治会離れ対策2	5
4	高齢者見守り体制 見守り対策の再確認	6
5	空き家・空き地対策	7
6	防災対策	8
7	持続可能な自治会運営を目指して	14

1 地域における自治組織の活動・取組について

わが町「八木山校区」は昭和50年代、各務原市東部丘陵地帯に造成された新興住宅で、近くには江戸時代に栄えた、中山道鶉沼宿があり、木曾川を挟んで国宝犬山城が見える場所にあります。



約50年経過した今、住民の高齢化対策が課題となって久しい現在、空き家増加、自治会役員のなり手不足、役員負担軽減対策など、課題山積となっています。

自治会を含め、地域の関連団体（まちづくり協議会・子ども会・民生委員・近隣ケア・地区社協など）がこの課題に如何に取組むか、走りながら取組んでいるのが現状です。

主な課題

自治会離れ対策1

「自治会行政協力員報償金」の取扱い見直し

（単位自治会が全額受給する方向で調整中）

（注）令和2年法律（制度）改正「自治委員報酬」（非常勤公務員）から

「自治会行政協力員報償金」に名称変更。

報奨金支払は市から自治会長個人口座へ振込まれるので、自治会要望通り、従来方式を見直して、各単位自治会が全額受領し自治会運営の自主性を尊重する（元気を出して頂く）ことで、

自治会離れ防止を期待しています。（R5年度開始）

主な課題

2 自治会離れ対策 2

「広報紙等配布手数料」の取扱い見直し
(単位自治会が全額受給する方向で調整中)

＊班長が配布しているのに、連合が取り上げるのおかしい！（10月苦情）
従来、手数料は連合自治会口座に振り込まれているが、
実質的配布者である班長の所属する単位自治会が
全額、受け取れるよう、要望があり（10月）前向きに調整中。

＊実現した場合、連合自治会財政逼迫！

共用設備（ふれあいセンター・集会所）使用料「福祉無料制度の見直し」
検討に入る。

5

主な課題

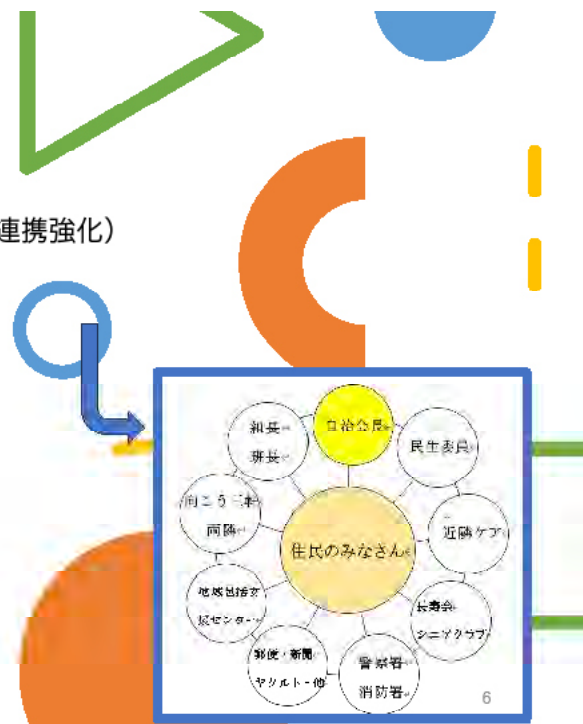
4 高齢者見守り体制：見守り対策の再確認

(自治会福祉委員会・民生委員・近隣ケアグループの連携強化)

2023年9月連合自治会役員会で再確認しました。

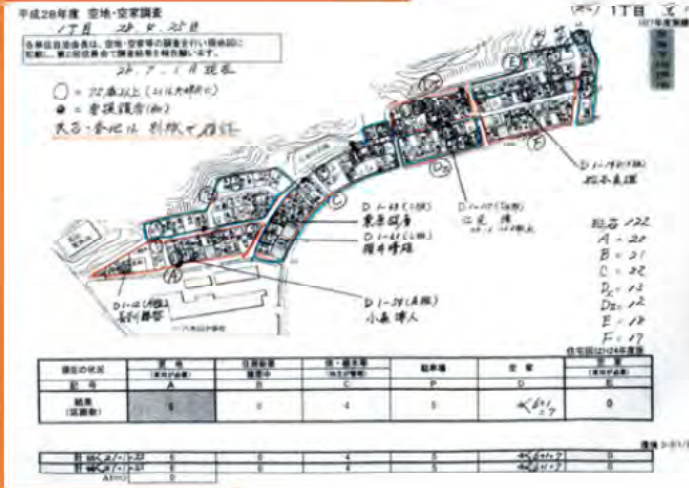
【対策】

- ①各務原市高齢福祉課配布
緊急連絡先カード制度活用
- ②地域関連団体連携体制で
緊急措置体制を維持・継続
する事を10月役員会で再確認。



主な課題

- 5 空き家・空き地対策：自治会としての実態把握と、
行政との連携による空き地（除草）適正管理
(各単位自治会管理)



- *空き家の適正管理は
行政に依頼します。
(特定空家代執行)

7

主な課題

6 防災対策

八木山校区 (つつじが丘・松が丘 各2,000世帯以上5,000人弱)

山裾・高台にあり想定災害は

- ①「火災」②「地震」③「土砂災害」④「台風」⑤「大雨」⑥「ミサイル」

想定災害対策 → 「避難所開設手順訓練」の実施 10/8(日)

自治会と自主防災会 (H30設立自治会認可団体) で
出来ることから、対策に取り組中です。

- ①「火災」：自前消防団を団地発足当初から持てないので (サラリーマン団地)
隣町消防団と提携。火災時お世話になっています。

*毎年、賛助金を納付

8

主な課題

6 防災対策

② 「地震」

旧建築基準法適用家屋が多いと想定され、耐震診断等、対策が求められている。（1981年S56旧耐震基準該当1,000戸以上と推定）



各務原市木造住宅耐震診断事業

募集戸数（令和5年度）

50棟（申込順）

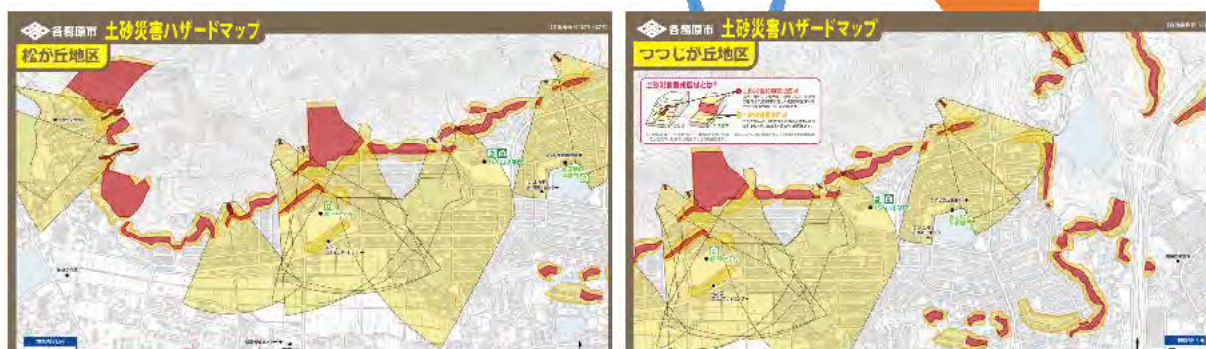
9

主な課題

6 防災対策

③ 「土砂災害」

ハザードマップ「危険区域」「警戒区域」の真っただ中。
防災展示会・防災訓練を行い防災意識向上に取り組中。



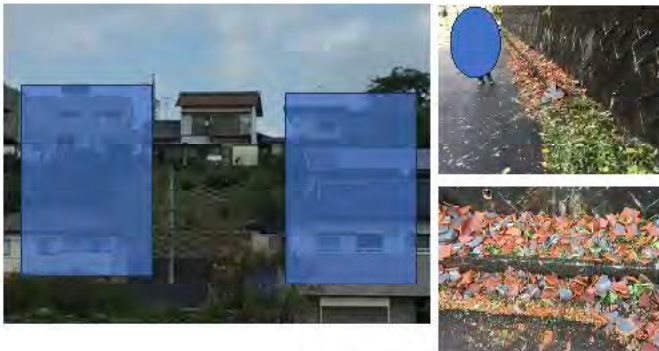
10

主な課題

6 防災対策

④「台風」 ⑤「大雨」：逃げるが勝ち！

日頃から、何処へ逃げるか考えておきます！



2018年 9月台風21号被害

撮影：2018年 9月5日（水）朝
台風21号被害 屋根瓦飛散

夜半には隣家の壁迄、瓦が
当たったとのこと。

11

主な課題

6 防災対策 ⑥「ミサイル」

各務原市防災講演会 7/19

主催：各務原市防災対策課 講師：自衛隊OB



弾道ミサイル接近時の行動について

弾道ミサイルが発射されたら

メッセージが流れたら、ただちに以下の行動をとってください

緊急一時避難施設



内閣官房 国民保護ポータルサイト

Cabinet Secretariat Civil Protection Portal Site

項	名称	市町村名
304	各務原市立蘇原第一小学校	各務原市
305	蘇原地下道	各務原市
306	蘇原地区体育館	各務原市
307	各務原市立八木山小学校	各務原市
308	鷺沼地区体育館	各務原市
309	国道71号 大野地下横断歩道	各務原市
310	那加地区体育館	各務原市
311	国道71号 大東地下横断歩道	各務原市
312	総合体育館	各務原市

主な課題



6 防災対策 ⑦「避難所対策」

2021年8月避難所開設を初体験 8/14 18時15分
大雨による警報レベル3発令、八木山小学校
開設避難所：各務原市内 7校区

各務原市まちづくり助成事業（1年目）

「住民が取り組む避難所開設模擬訓練」に取組みました。
(災害発生直後の、初動期対応訓練) 2023/10/8(日)

【参加者21名】各務原市防災推進員 3名 避難者 2名
八木山自主防災会員 12名
各務原市防災対策課 3名 講師1名

【訓練からの気づき】

避難所生活の過ごし方、災害種別による避難者想定など
現在、集約中の段階です。



13

4 持続可能な自治会運営を目指して

令和5年度：少子高齢化の今、課題である「自治会役員負担軽減策」に取組みました。

優先順位	提案事項	提案理由	結果
1	盆踊り行事の役員負担軽減策について	夜店設営役務軽減対策が必要。 ①極力簡素化を図る。 ②各丁内夜店出店廃止。 ③キッチンカー・ポップコーン・綿菓子 輪投げ(景品付)等、夜店代替手段必要!	☆各務原市担い手マッチング団体 レクリエーション協会から支援を受けた。 (各種ゲーム借用・ミナモちゃん出演) ☆「行事コーディネーター制度」を「自治会長の手引き」に掲載を、市に依頼中。
2	地区社協会長充て職制度の辞退	法に基づく社協の長に、地域福祉活動の情報・経験が豊富と言いつつも、連合会長が毎年、入れ替わり就任することは、馴染まない。	☆11/5地区社協理事会で正式申し入れ。 地区社協理事会承認取得済。
3	タイムカプセル(つっぴが丘統一自治会20周年記念事業で埋設)発掘について	「50周年記念行事」でカプセルを発掘し、過去を振り返り新たな自治会のスタートに。	R7年度開催を目指し、準備委員会委員会立上げ。第1回会合を11/8開催。
4	土砂災害説明会開催(岐阜県土木事務所主催)	令和4年2月開催予定説明会が新型コロナウイルス感染症「第6波」で延期になったため。	R5年11月18日(土)10/00-11/00 場所：ふれあいセンター 開催 説明者：岐阜県土木事務所
5	広報紙配布手数料 単位自治会に配分して欲しい。 (現在は連合自治会に繰り入れ) 班長が配布しているのに、連合収入制度には異論有り。	「班長が広報誌等を配布しているのに連合自治会収入になる事はおかしい!」との提言あり。 広報紙配布手数料が連合自治会収入として見込めないと、共用施設運営費の福祉無料制度を見直す必要がある。地域サークル活動一律無料制度の見直しが必要。	地域人口構成を考えると、福祉施設利用に関わる一律無料化は、昭和・平成時代の社会情勢の下での制度であり、令和の時代にそぐわないと考えた。 「単位自治会全額受給開始時期」は、令和6年度収支決算を見極め判断する。

14

4 持続可能な自治会運営を目指して

令和5年度：少子高齢化の今、課題である「自治会役員負担軽減策」に取り組みました。

優先順位	提案事項	提案理由	結果
1	<p>盆踊り行事の役員負担軽減策</p> 	<p>各町内別（1～8丁目）夜店出店業務が役員の高齢化で、重荷に。軽減対策が必要。</p> <p>①極力簡素化を図る。 ②各町内夜店廃止。 ③キッチンカー・ポップコーン・綿菓子 輪投げ（景品付）等、夜店代替手段必要！</p> 	<p>☆各務原市担い手マッチング団体の内「レクリエーション協会」から支援を受けた。（各種ゲーム借用・ミナモちゃん出演）岐阜県マスコットキャラクター“ミナモちゃん”出演や“岐阜県レクリエーション協会”の各種遊具を設営し、子どもたちに楽しんで頂きました。</p> <p>また、若い子育て世代の役員が中心となり、自発的な夜店ブース出店会場は大盛況で新しいイベント運営の成功体験を見ました。</p> <p>盆踊りの音楽も現代の音楽“恋するフォーチュンクッキー”が流れ、若い世代にも喜ばれました。安全対策も住民の皆様様の協力体制が凄いです！とお褒め頂いた盆踊りでした。</p> <p>☆「各務原市行事コーディネーター制度」を「自治会長の手引き」に掲載を、市に依頼中です。実現できれば、毎年交代する自治会役員にとって、心強いサポートが期待できます。</p>

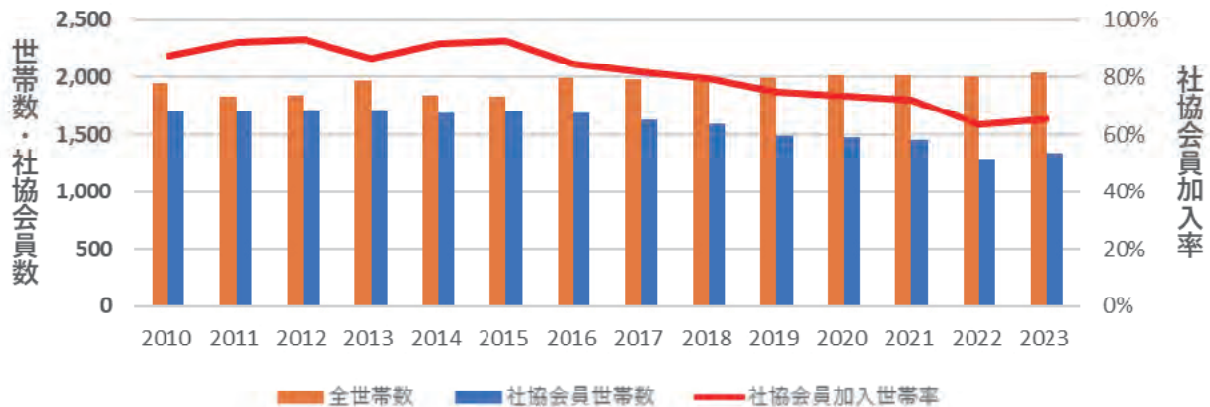
15

4 持続可能な自治会運営を目指して

令和5年度：少子高齢化の今、課題である「自治会役員負担軽減策」に取り組みました。

優先順位	提案事項	提案理由	結果
2	<p>地区社協会長 充て職制度の辞退</p>	<p>法に基づく地区社協の長に、地域福祉活動の情報・経験が豊富と言いつつ、連合会長が毎年、入れ替わり就任することは、馴染まないと考え辞退の申し入れを行う。</p> <p>八木山地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」と呼ぶ）の会長および副会長職については、慣例に従い松が丘連合自治会長とつづしが丘連合自治会長が、隔年で充て職により選任されてきました。</p> <p>しかしながら、地区社協が名実ともに地域福祉の中核団体として活動している今、両連合自治会としては、その会長および副会長職に“充て職人事”はふさわしくなく、下記の技量をもった「専任会長」を置くべきと考えます。</p> <p>（1）福祉活動に伴う組織運営に精通し、経験と知見に裏打ちされた方。 （2）自治会、公的団体及び行政、市社協と密接に連携・協働できる方。</p> <p>このため両連合自治会は、令和6年度以降、充て職による会長および副会長への就任を辞退すべく申し入れる。なお、理事、評議員としての地区社協への参加、地区社協の各活動への助成金の提供等、充て職による会長および副会長職以外の活動については、これまで通りご協力する。</p>	<p>☆11/5地区社協理事会で正式申し入れ予定。</p> <p>松が丘・つづしが丘の双方役員会承認取得済。 開催日時（場所）：2023年11月5日（日） 13：30～14：40（つづしが丘集会所）</p> <p>結果：地区社協会長・副会長職への連合自治会長充て職制度の見直しの内容・・・承認されました。</p>

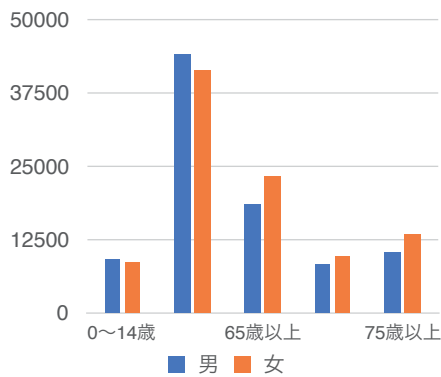
16



- ・八木山地区の世帯数は増加している中で、社協会員加入世帯数は65%まで激減している。
- ・その中で今年度（R5）は昨年度（R4）に対して1ポイントアップであり加入率下落に歯止めがかかった？と見れるのは早計かもしれないが幸いである・・・。
- ・社協会員加入世帯数の高揚のためには 今後とも ささえあい活動をはじめ諸活動を地道に続けることで地域住民の共感、つながり意識を培っていくことが肝要。

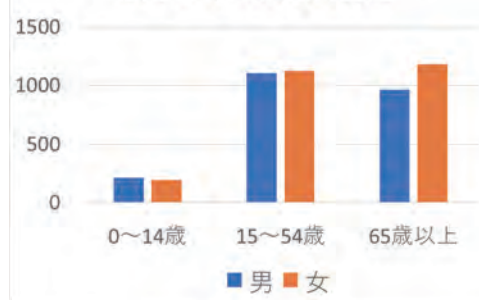
出典：八木山地区社協ダイジェスト版 17

各務原市人口構成
令和5年10月1日現在



	男	女	合計	総計
0~14歳	9,140	8,675	17,815	145,059
15~64歳	44,146	41,444	85,590	
65歳以上	18,425	23,229	41,654	
65~74歳	8,180	9,724	17,904	
75歳以上	10,245	13,505	23,750	
				41,654
				高齢化率 29%

八木山校区人口構成
令和5年10月1日現在



	男	女	合計
0~14歳	211	193	404
15~54歳	1,105	1,122	2,227
65歳以上	960	1,179	2,139
合計	2,276	2,494	4,770

45% 八木山校区高齢化率




4 持続可能な自治会運営を目指して

令和5年度：少子高齢化の今、課題である「自治会役員負担軽減策」に取り組みました。

優先順位	提案事項	提案理由	結果
3	<p>つつじが丘連合自治会 創立50周年記念式典 開催行事の企画 タイムカプセル発掘事業等 「つつじが丘統一自治会20周年記念 事業」で埋設された「タイムカプセル の発掘」を行うなど、地域の核となる 自治会の新たなスタートを祈念して、 つつじが丘自治会50周年記念式典を 開催する。</p> 	<p>「50周年記念行事」でカプセルを発掘し、過去 を振り返り新たな自治会のスタートに。 2025年度開催予定！</p>  	<p>R7年度開催を目指し、準備委員会委員を 募集済。第1回会合を11/8開催。</p> <p>つつじが丘連合自治会「50周年記念行事準備委 員会」第2回会議開催</p> <p>開催日時 令和5年12月9日(土) 場所 つつじが丘集会所 ホール</p> <p>【式典構想案を確認】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ティーパーティ開催 2 現住民の今の思い寄せ書き募集事業 3 ドローンによる50th人文字空撮事業 4 10年誌・20年誌・30年誌・50年誌・ つつじが丘自治会規約第1号の電子デー タ保存事業 5 つつじが丘誕生から今日までの「写真 展」事業(八木小体育館) 6 50周年記念式典アイデア募集活動 7 タイムカプセル発掘(30年前にカプセル 埋めた人集まれ・発掘品公開)事業 8 50周年記念パンフ発行事業 など、今後実現に向けて取り組む。19

4 持続可能な自治会運営を目指して

令和5年度：少子高齢化の今、課題である「自治会役員負担軽減策」に取り組みました。

優先順位	提案事項	提案理由	結果
4	<p>土砂災害説明会開催 (岐阜県土木事務所主催)</p>   	<p>令和4年2月開催予定説明会が新型コロナウイルス感染症「第6波」で延期になったままのため。</p>	<p>R5年11月18日(土)10/00-11/00 場所：ふれあいセンター 岐阜県土木事務所からの説明会開催 住民参加者：約50名 事務局：つつじが丘連合自治会</p> <p>【参加者からの主な質問等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 危険を感じたら早めの避難を推奨される が、土砂が崩壊しないよう、強化策を施 工して欲しい。 2 山際の自宅の裏の擁壁が心配です。 <p>事務局としての感想</p> <p>土木事務所から「土砂災害警戒区域」や 「土砂災害特別警戒区域」の説明を聞いた 住民感情は、「危険要素を取り除いて欲し い。」のが本音と感じた。</p> <p style="text-align: right;">20</p>

4 持続可能な自治会運営を目指して

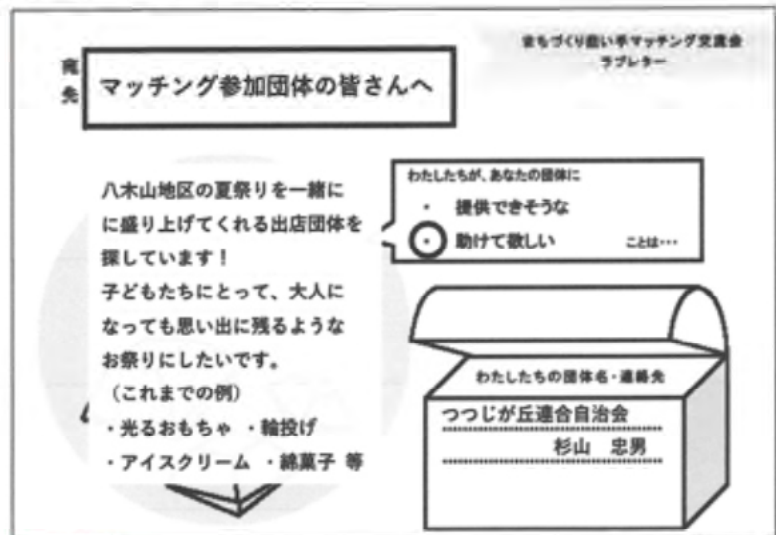
令和5年度：少子高齢化の今、課題である「自治会役員負担軽減策」に取り組みました。

優先順位	提案事項	提案理由	結果
5	<p>広報紙配布手数料は単位自治会に配分して欲しい</p> <p>* 市から手数料が年間 ¥120万円程度支給</p>	<p>令和5年10月 つつじが丘連合自治会役員会において</p> <p>「班長が広報誌等を配布しているのに連合自治会収入になる事はおかしい!」との提言あり。</p> <p>自治会は少子高齢化情勢下において、継続的な自治会運営を目指すため、将来を担う子育て家族支援に資源を注力すべきである。次世代を担う人材の意見に耳を傾けなければ、持続可能な自治会運営を継続することは困難である。</p>	<p>令和5年度「連合自治会収支検討WG」立上げ、検討を開始。</p> <p>「単位自治会全額受給方式」を実現するため、連合自治会収支上、年間運営費が最大の「ふれあいセンター運営費」の実態を精査した。結果、「ふれあいセンター管理運営規則(第11条2項)を見直し、福祉活動有料化」に見直すことが避けて通れない現実であることがわかった。</p> <p>現在の地域人口構成を考えると、施設利用に関わる福祉活動の一律無料化は、昭和・平成時代の社会情勢の下の制度であり、令和の時代にそぐわないと考えた。「単位自治会全額受給開始時期」は、令和6年度収支決算を見極め判断する。</p>

4-6 盆踊り行事の役員負担軽減策について

各務原市つつじが丘連合自治会から
マッチング参加団体様へのラブレター

市内団体さんから、皆さんへのラブレターです。 /



- 4団体 ①ノルディック ②レクリエーション協会
③うたとお話の会 ④子ども劇場から返事あり
結果 □印 団体から支援を受けられました。

ラブレターの内容について、詳細は、団体へ直接お問い合わせください。

22

縦書きにならなかったなので、横にさせていただきました

END

•ご清聴

•ありがとうございました。



7. 大野町の歴史と大野町自治会の取り組み

鈴木智晴（輝く大野町まちづくり委員会 事務局長）

はじめに

本稿では大野町の歴史と大野町自治会の取り組みを紹介する。

その中でも、大野町が地縁団体として認可を受けるために調査した歴史的史料や自治会で実施している自主防災組織の取り組み、岐阜各務原インターチェンジ（IC）周辺の市街化編入に向けた取り組みなどを紹介することで、同じような課題を抱える自治会や地域のまちづくり団体の参考になることを願う。

<目次>

1. 大野町について
2. 大野町の歴史的史料について
3. 大野町の自治会組織について
4. 大野町の自治会の事業について
 - 4-1. 令和3年度事業
 - 4-2. 令和4年度事業
 - 4-3. 令和5年度事業
5. 認可地縁団体について
6. 各務原市IC周辺のまちづくりについて

1. 大野町について

(1) 大野町について

各務原市大野町は各務原市の西の玄関口に位置する。



<出所>大野町のホームページ <https://www.onocho.org>

南北には東海北陸道、東西には国道21号線が通り、交通の要所となっている。

そのため、佐川急便岐阜営業所等の物流拠点としての機能を持つことと併せて、イオンモール各務原インターなどの商業都市としての機能も果たしている。

世帯数は370程度で人口は約1,000人である。最近は、交通の便が良く、イオンモールなどの生活環境が整っていることから新規住宅の建築が増えている。

(2) 大野町の歴史について

「大野邑原記」によれば、慶長6年(16017年)は美濃国各務郡大野村と呼ばれていた。当時の領主は坪内家であり、坪内家は本拠地を新加納陣屋に構え大身旗本¹(注1)として大いに繁栄していたと思われる。

2. 大野町の歴史的史料について

文書資料目録²(注2)によれば、教育委員会や個人所有が多い中で、大野町として所有し公民館に158点以上の史料が保管されている。共有地の履歴を調べるために、公民館にある資料を探したことで以下の史料が見つかった。ここではその一部を紹介させていただく。

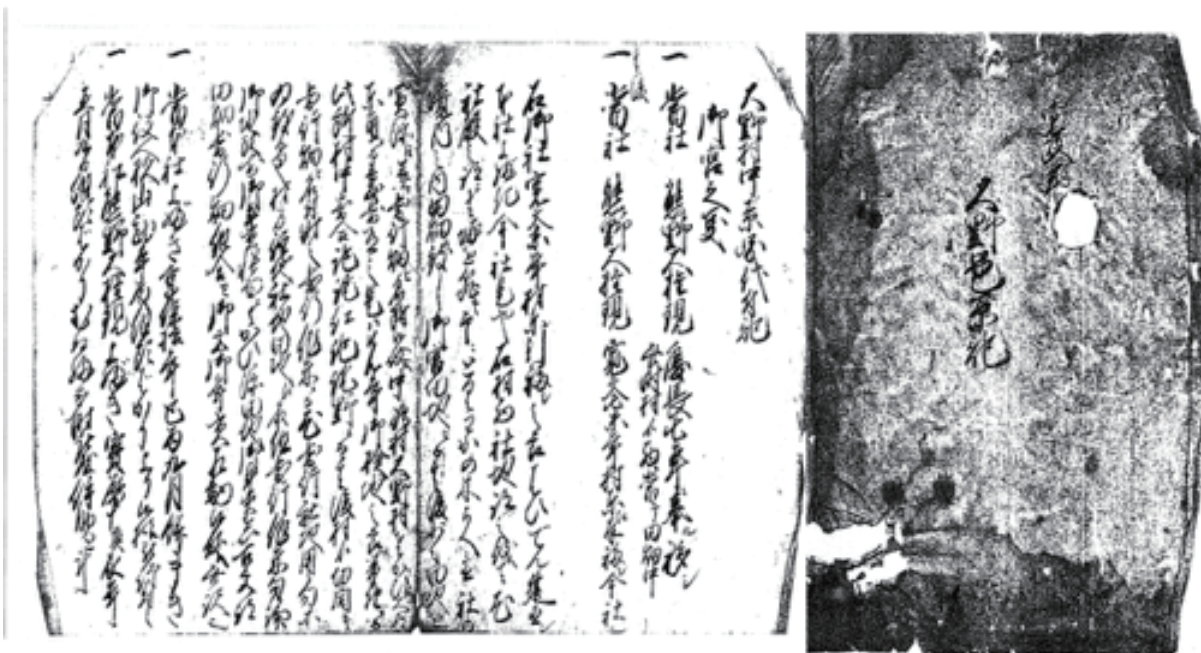
(1) 大野邑原記(江戸時代)

大野邑原記³(注3)はコピーが保存されていた。

残念ながら、原本は探し出すことができなかった。

大野邑原記には、1602(慶長7年)年の熊野神社の遷都や当時の領主である坪内家の系図、慶安2年に行われた検地を行った役人の名前や案内者の記載がある。

また、村人個人の出生や婚姻歴などの個人情報に記載されている。このことから戸籍や年貢の徴収のための台帳としての役割を持っていたのではないかと推定される。



大野邑原記(注3)

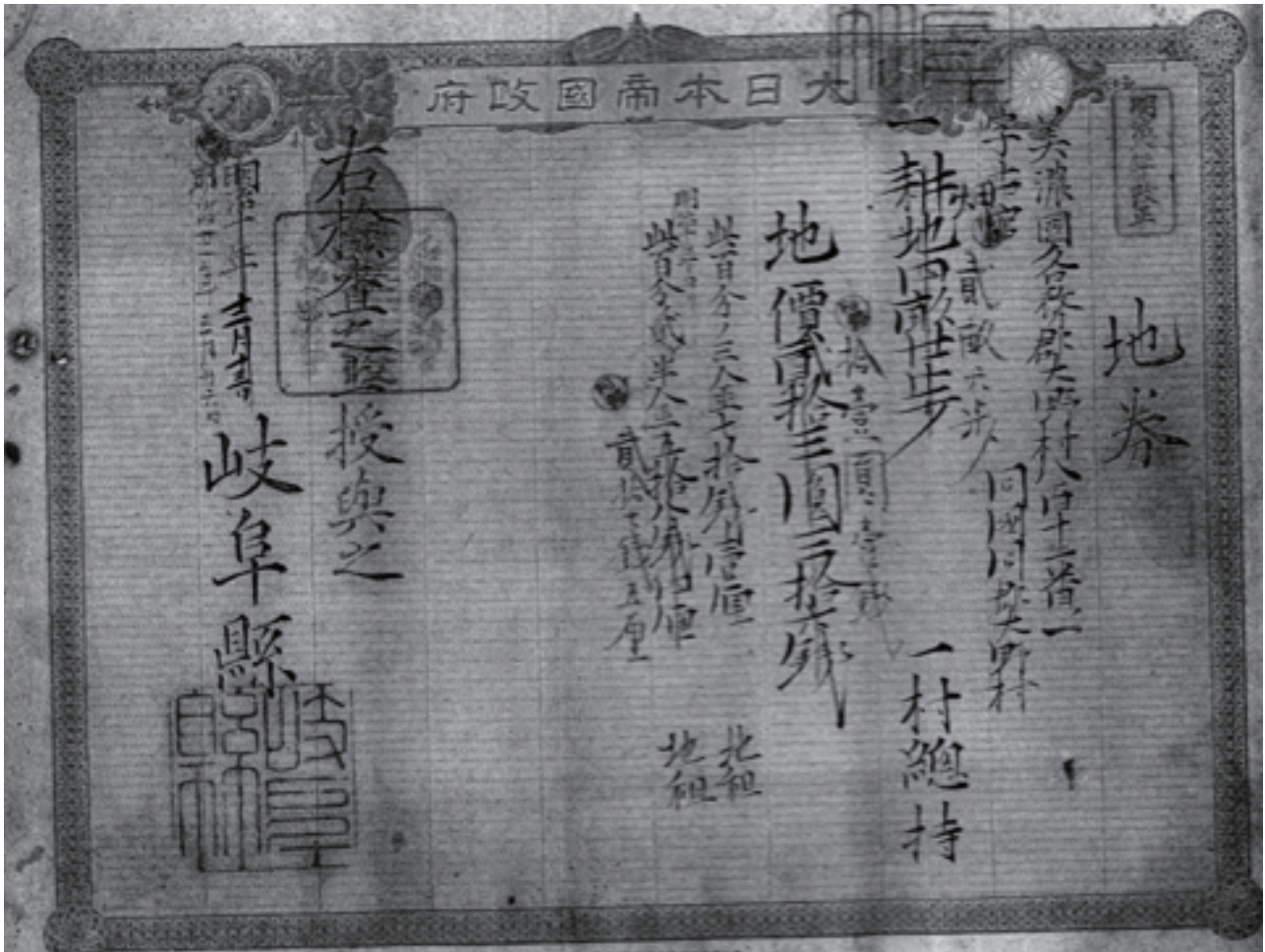
1 注1 「大身旗本」江戸時代になると、3000石以上の寄合(旗本寄合席)、または2000石以上の旗本で守名乗り(かみのり)ができた者を大身旗本(たいしんはたもと)と呼んだ。

2 注2 「各務原市文書資料目録二」昭和58年3月 各務原市資料調査報告書第二号各務原市教育委員会作成

3 「大野邑原記」作者不明 作成日不明 表記より寛政時代に作成された。

(2) 地券 (明治時代) (注4)

1873 (明治6年) 年に行われた地租改正の地券の原本がある。この地券には、大野町の共有資産を表す「一村總持」の記載がある。



地券⁴ (注4)

(3) 明治31年式戸籍⁵ (注5)

「明治31年式戸籍」は、明治31年の戸籍法の改定により、大野区で調査して更木村に提出したものの控えが保管されていた。これには当時の階層や出生、離婚歴等の個人情報が含まれており、主に租税の徴収に利用されたと考えられる。

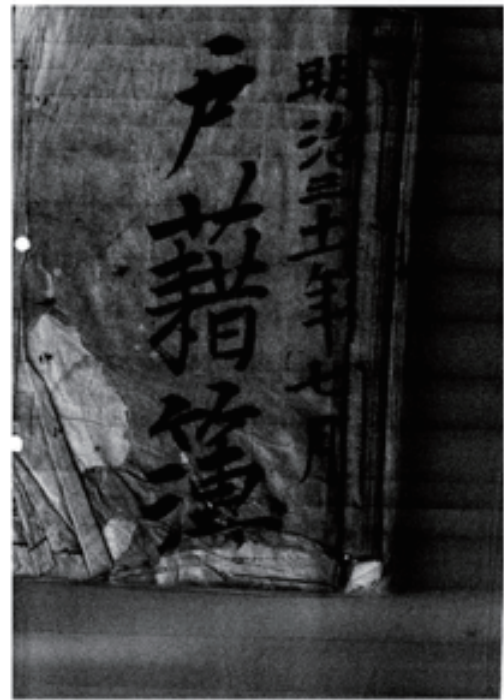
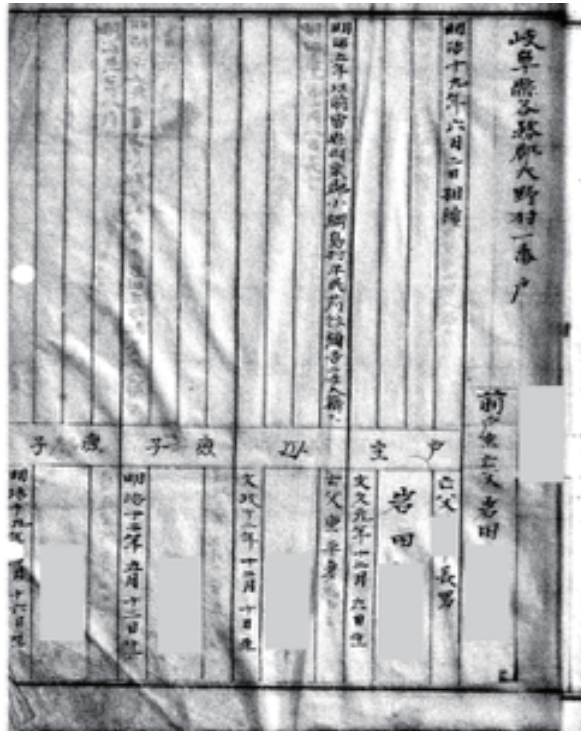
面白いことに、村で芝居興行をする際のルールも記載されており、興行にあたり村では「勸進元」という運営委員会が作られ、その委員会の出席者が書き並べてある。

<芝居興行のルール>

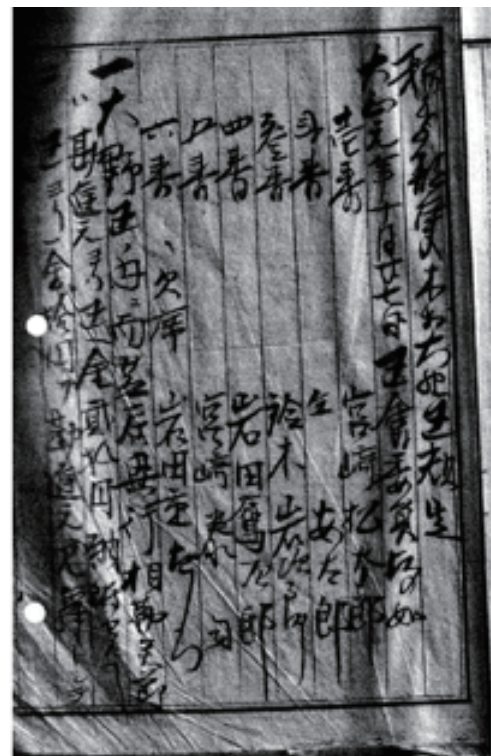
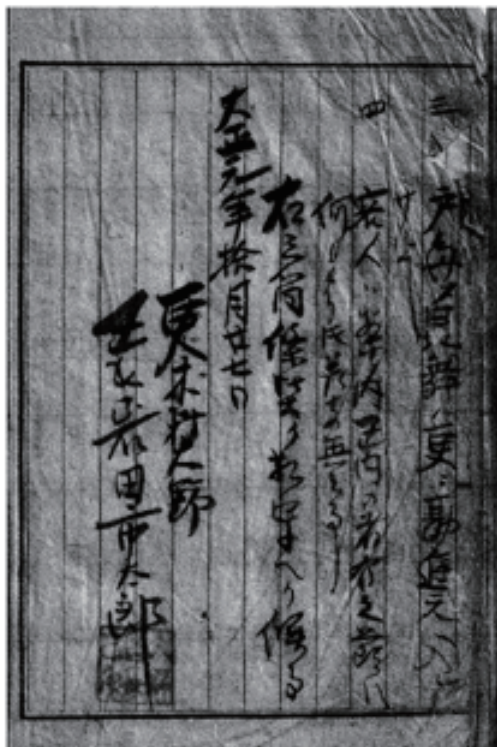
- ①芝居をするときは区に20円収めること
- ②陣中見舞いに区から10円支払うこと
- ③戸ごとに見舞い金を勸進元に支払う必要はないこと

4 「地券」 大野町が所有する共有地はすべて地券が残されていた。

5 「明治31年式戸籍」 作成日不明



明治31年式戸籍（注5）



3. 大野町の自治会組織

(1) そもそも自治会とは（各務原市のホームページより抜粋）

自治会とは、各務原市には住民自治組織の「自治会」があります。

自治会は、「親睦、自主防災、防犯、防火、交通安全、環境美化、教育、文化・スポーツ」など、地域住民の方がコミュニケーション意識の高揚、地域環境の向上を目指して自主的に地域的な連携をとりながら運営している組織です。

現在、市内には384(令和5年4月1日現在)の自治会があります。

地域または、となり近所のおつきあいなどが希薄になりつつある今日、自治会を通じてコミュニケーションをはかり、その地域で生ずるさまざまな問題に対処し、地域の管理に当たる住民自治組織の役割は、非常に重要なものです。各務原市も、全市民の方が自治会へ加入していただけるよう、応援しています。

(2) 自治会の組織（各務原市のホームページより抜粋）

単位自治会の地域連携のため、概ね各小学校区を区域として17の地域自治会連合会があり、その上部組織として各地区（那加、稲羽川島、鵜沼、蘇原）自治会連合会があります。

さらに、その全市的な組織として「各務原市自治会連合会」が組織され、役員には地域の自治会連合会長があたり、地域および市政との連携を図っています。

(3) 自治会行政協力員について（各務原市のホームページより抜粋）

市は、自治会長を自治会行政協力員に委嘱しています。自治会と市は、まちづくりを進めるパートナーであり、自治会長は、地域と市の連絡の調整役として、市からの住民への連絡事項の文書伝達（文書回覧など）や地域の生活基盤等の問題点を取りまとめて市に要望をすることや、市からの調査や委員の推薦など各種業務の依頼を受けることがあります。

(4) 自治会行政協力員とは（各務原市のホームページより抜粋）

市からの依頼による事務を区域内住民に伝達していただくとともに、防災防犯、地域福祉、環境美化などにかかる自治会活動と行政の連携のため、自治会長を「自治会行政協力員」に委嘱し、報償金を支払います。

(5) 自治会の役割

以上のことから、大野町自治会とは大野町に住所を有する者の地縁に基づいて形成された組織である。また、その長は各務原市からの委嘱による自治会行政協力員という立場であることから、行政と対等な立場で連携・協業して地域課題の解決をする団体であると定義できる。

(6) 大野町自治会の組織

大野町の自治会は、大野町自治会と以下13の団体で構成される。

- ・稲羽中学校PTA
- ・大野町こども育成会
- ・各務原市消防団大野班
- ・耀く大野町まちづくり委員会
- ・大野町東西シニアクラブ
- ・大野町遺族会
- ・大野町熊野神社信徒総代
- ・近隣ケアグループ
- ・民生委員・児童委員
- ・小学校区体育振興会
- ・大野町水防団
- ・通学道路見まもり隊
- ・青少年育成市民会議

(7) 大野町自治会の課題

大野町自治会も他の自治会と同様に以下の課題を抱えている。

- ・自治会加入率の低下
- ・会員の高齢化による役員等の担い手不足
- ・住民の連帯感の希薄化
- ・従来の事業や伝統的文化行事（餅まき等）の継承困難
- ・防災時のコミュニティーの役割が増加しているが、住民の防災認識が高まらない
- ・自治会長・役員が2年で交代するために継続的な事業を行えない
- ・共有地の利活用の課題
- ・少子高齢化による農業の担い手不足
- ・市街化調整区域にあることから派生するスプロール化の拡大

4. 自治会の事業について

耀(かがや)く大野町まちづくり委員会の設立

大野町が抱える長期間かかる課題の解決のため、メンバーを固定して長期的視点から解決に取り組む組織として「耀く大野町まちづくり委員会」を令和2年に設立した。以下は5つの取り組み事業である。

- ①防災活動を支援
- ②大野町共有地の利活用の支援
- ③情報誌やホームページの運用
- ④地域・世代間交流ができる仕組み作り支援
- ⑤住民参加型共助の仕組み支援

4-1. 令和3年度事業

(1) 住民意向アンケート調査事業

大野町の課題を洗い出すために、全住民951名に大野町の将来のあるべき姿について令和3年9月にアンケート調査を行った。



アンケートの回収率は49%でアパートを除くほぼ全世帯から回答をいただいた。

家族構成では若者は親子2世代で暮らしている傾向があり、60代以上は夫婦のみで暮らしている傾向があった。

10年後の居住形態では10%が空き家になると回答しており、20年後は誰が住むか分からないとの回答も含めると20年後には約20%が空き家になる可能性がある。

10年後の生きがいについての質問には、趣味や家族友人との交流を生きがいと考える人が多く、地域コミュニティの重要性が感じられる。

(2) 自主防災活動（ひやりMAP作成）

住民、自治体（各務原市）、地元企業が参加し、住民自身が「ひやり」とする場所を実際に歩いて岐阜県統合型GISシステムにスマートフォンのWebからリアルタイムで登録して危険箇所をGIS上に表示した。令和3年8月に岐阜県建設研究センターの支援を受けて住民約80名の参加を得て実施した。このひやりMAPの効果は現在の危険箇所を住民自らが調べたこと、市に対してひやり個所の改善を求めたことがあげられる。



(3) 自主防災活動（ぶらりMAP作成）

ひやりMAPの裏面に「ぶらりMAP」を作成した。

ぶらりMAPは大野町の歴史を探りながら、クイズ形式で大野町を散策するMAPである。

具体的には大野町にあるお地蔵さんを探し出すクイズやグルメ店を掲載した。

ひやりMAPと合わせて大野町を知ってもらうために有効なツールである。



(4) G空間セミナー

令和4年10月に「G空間セミナー2022 In GIFU」と題した行政向け空間情報のセミナーに登壇させていただきました。

内容は大野町のひやりMAPの事業の事例発表で、地域の防災意識を高めるきっかけ作りとして岐阜県統合型GISモバイルシステムを使い、まちのひやり個所を点検するイベントを紹介した。



(4) ホームページの運用

コンテンツは、総会資料や各種団体の案内など、住民にとって必要な情報を公開している。NEWSとして大野町のイベントを随時で投稿している。特にアクセスが多かったのは、ドローンを使った大野町の空撮である。

今後は大野町の情報の公開のみならず、役員や自治会員が利用できるポータルサイトとしてコンテンツを拡張していきたい。



4-2. 令和4年度事業

(1) 防災アイデアコンテスト

10月8日に防災イベントの開催と合わせてプレイベントを実施した。

いざという時にあわてずに行動するため、防災について家族やとなり近所と話し合い、そのアイデアを写真やイラストで応募してもらった。

防災アイデアコンテストの応募数は72点あり、イベント当日には市長から表彰状授与を行った。

工夫をこらした各賞は、最優秀賞、スペシャル家族賞、優秀賞、団体賞、特別賞（サバイバル大賞）、特別賞（大野町歴史大賞）、特別賞（家族で話し合ったで賞）、特別賞（工夫大賞）、特別賞（IT賞）、家族賞などである。このコンテストを通じて家族で防災について考える大切さを感じてもらえたと思う。



(2) 防災イベント

(2-1) 出前講座

各務原市の防災対策課の出前講座で「風水害に備える」を実施した。

このエリアは洪水ハザードMAP（想定最大規模）では10m以下の浸水域となるため、住民の関心が非常に高く約80名の参加があった。

出前講座では動画や防災ハンドブックなどを使い丁寧に説明がなされ、住民は熱心に受講した。



(2.2) キッチンカーとバルーンパフォーマンス

出前講座の後は、キッチンカー5台とバルーンパフォーマンスを楽しむイベントを実施した。

キッチンカーの金券を各戸に事前配布して防災イベントへの参加を促し、また、バルーンパフォーマンスを楽しみながら幅広い世代の交流の場を提供することを目的とした。

上；キッチンカー

下；バルーンパフォーマンス



(2-3) 防災アンケートから

出前講座後のアンケート内容から以下のことが読み取れる。

- 大規模・洪水ハザードMAPについての質問で「詳しく見たことがある」は少なかった。
- 想定最大規模で大野町内で水没しないのは高速道路の料金所だけなので、動画等があると理解が進むかもしれない。
- 「防災について再認識した」や「自分のこととして考えるようになった」との意見があり、効果的なセミナーであったと感じた。
- ビデオを見て「命の大切さを感じた」との意見があった。
- 8/25に発生した大野裏排水路の越水の問題について提案があり、消防団、水防団、自治会で安心なまちづくりに取り組んでほしいとの要望があった。

4.3. 令和5年度事業



防災イベント報告書

(1) 事業概要

大規模災害や緊急避難を要する災害時には「公助」だけでは、高齢者、乳幼児、障がい者などの要配慮者までしっかり守ることはできない。そこで「共助」としての自主防災組織を活性化するため令和3年度より、より実践的にステップアップするように事業を組み立てた。

- ①令和3年度 「ひやりMAP作成事業」
- ②令和4年度 「自主防災イベント（風水害に備える）」
- ③令和5年度 「自主防災イベント（地震に備える）」

(2) 消防車によるフォトセッション

各務原市の消防本部から消防自動車に出勤してもらい、運転席に乗ったり、消防車をバックに消防服を着てのフォトセッションや、市長を招いて集合写真を撮った。

(3) 出前講座

各務原市の防災対策課の出前講座で「地震に備える」を実施した。

参加者は約 110 名で、講座後に実施したアンケートでは、以下のような声があった。

「幅広い世代が参加できて楽しくてわかりやすい講座だった。」

「クイズ形式でとても楽しいレクチャーでした。」

「家族みんなが防災について知る機会となってよかった。」

「大野町自治会での誘導体制などの組織的な整備が必要だと考えます。」

(4) 消火訓練&要配慮の避難支援

自治会の班長による消火栓を使った放水訓練を実施した。毎年班長が交代するため 10 年後には全住民が放水訓練を体験できることを願っている。

要配慮者避難支援は、班長が要配慮者リストに記載されている方を訪問し安否確認を行い、副会長→自治会長→民生委員という流れで報告をする訓練を行った。

(5) 大ビンゴ大会

参加者約 170 名。地元の企業の提供のローリングストックに使える食品や町内のレストランの食事券など魅力的な景品のためか賑わいのあるビンゴ大会だった。

5. 認可地縁団体について

(1) 現状

大野町自治会の共有地は全部で 6 筆で 3228.0㎡で約 1,000 坪ある。

公民館などで有効利用がされている土地を除き農地のままで税金のみを支払い、草刈りなど自治会の管理負担が大きい。

(2) 契機

現在、共有地の名義人もすでに死亡しているケースが多く、相続手続きが実施されておらず通常の不動産取引ルールで所有権移転をすることは極めて困難な状況となっている。

全国に同様の問題が多数あり、平成 26 年に地方自治法が改正された。

そのため、一定の要件を満たした認可地縁団体が所有する不動産については、市町村長の証明により認可地縁団体名義で不動産の登記ができることになった。

大野町では、認可地縁団体が所有する不動産に係る不動産登記法の特例を利用し、令和 2 年度の総会で認可地縁団体化することが承認されたことが契機となった。

(3) 共有地の歴史

・明治 6 年 (1873 年) に明治政府が行った地租改正により、日本で初めて土地に対する所有権が確立し、土地の権利者を政府が証する「地券」が発行された。

・大野町に保管されている地券には、当該不動産は美濃国各務郡大野村所有を証する「一村總持」と記載されている。

・明治 22 年 (1889 年) に制定された土地台帳規則により地券が廃止され、地租の基本台帳となった「土地臺帳」にも「一村總持」と記載されている。

(4) 大野町所有にする目的

大野町自治会で毎年複数回の草刈り等を実施し、維持管理に努めている。合わせて、租税他を支払うなどの継続的な管理が行われている。

しかしながら、当該土地が複数の共有名義で、大野町自治会名義ではないため、町民が利用できる施設等を作るなどの有効利用ができない。

以前より土地名義変更の要望は多くあったが、登記までに相当の年数・調査と費用が必要なため、未解決のままであった。

(5) 不動産登記と今後のスケジュール

- ・令和4年5月に大野町自治会として地縁団体が認可された。
- ・令和5年5月に共有地の名義変更を行った。
- ・令和6年以降は、総会や説明会を開催し、多様な利活用方法を提案して町民の意見を聞き幅広い世代に受け入れられる利活用を行う。

6. 各務原市 IC 周辺のまちづくりについて

(1) 目的

人口減少や少子高齢化の進行により農業離れが進み、耕作放棄地の増加や、駐車場・資材置場などへの無秩序な転用が増加している。

また、近年、頻発する大雨や洪水などの自然災害を受けて防災・減災に対処した安心・安全なまちづくりをすることが急務となった。

(2) 経緯

令和元年11月に大野町と隣接する成清町自治会より土地利用検討の以下の内容の要望書を各務原市に提出した。

<要望事項>

- 東海北陸自動車道岐阜各務原 IC 周辺の農地は、土地改良された優良な農地が広がる市街化調整区域である。
- 農業従事者の高齢化や農業離れにより、耕作放棄地や駐車場等への転用によるスプロール化が進み、農業以外の土地利用ができる市街化区域への編入を希望する。
- 東海北陸自動車道と国道21号が交わるポテンシャルの高いエリアであり、各務原市の都市計画マスタープランでは工業・商業が交流する新産業地域と位置付けられていることから土地区画整理事業の支援を要望する。

この要望を受けて、令和2年には、各務原市による「土地利用に関する意向調査」が実施された。

令和3年6月には、地元・地権者による「各務原 IC 周辺まちづくり協議会」設立された。

令和4年4月には「各務原市 IC 周辺土地区画整理準備委員会」が設立され、区画整理によるまちづくりの方向性が出た。

しかし、区画整理事業の完了までに時間がかかることから、まず、後述の西エリアから開発行為によるまちづくりを行うために令和5年10月に「各務原市 IC 周辺土地開発計画地権者会」を設立させた。

(3) この事業の進め方

大野町と隣接する成清町を合わせて実線で囲まれた土地は約19haあるため、エリアを3分割して事業を進めることとした。

●西エリア

佐川急便岐阜営業所などがあり、実質的に市街化されているが、佐川急便を含む北のエリアは市街化調整区域のため駐車場、資材置場、耕作放棄地などがあり全体としてはスプロール化が進んでいる。

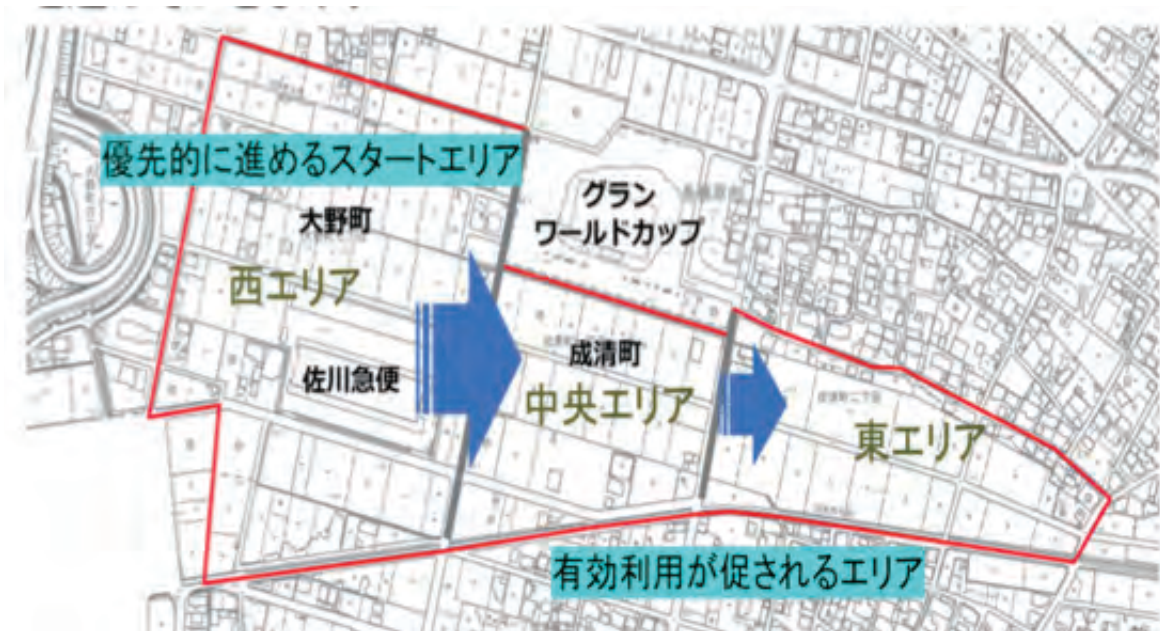
そのため、デベロッパーの開発行為により物流倉庫や複数の企業を誘致したい。

●中央エリア

西エリアと同様に市街化調整区域のため駐車場、資材置場、耕作放棄地などがあるが全体としてスプロール化が進んでいる。一度に大きな面積の対処ができないことから、西エリアの開発行為が一段落したあとに着手することを計画している。

●東エリア

市街化調整区域でほぼ農地が広がり、市街化調整区域として農業の効率化などを含めて有効利用を検討する必要がある。



大野町・成清町まちづくり（イメージ図）

（４）この事業の特殊性

開発事業は開発事業者やデベロッパーが主導して開発行為を進めることが通例であるが、住民が主導し、開発事業者やデベロッパーを誘致するスキームは全国的に例がないと思われる。

8. トーク・インかわしま

日時令和5年12月15日(金)19時～21時
会場川島ライフデザインセンター第1学習室

司会・稲川和宏：みなさん、こんばんは。時間となりました。水野さんはまだお越しになっていませんが、遅れるかもしれないと連絡いただいておりますので、定刻で始めたいと思います。

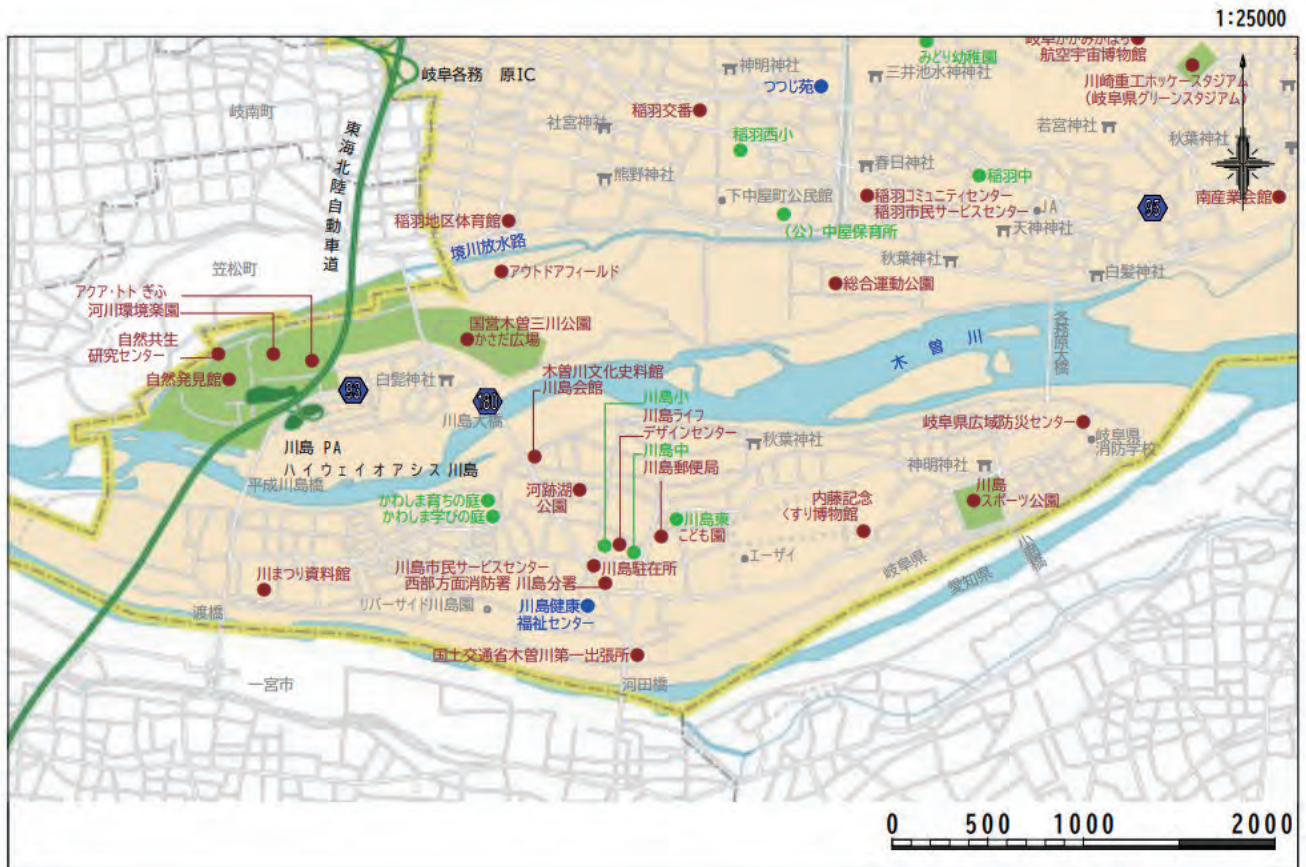
本日はお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。私、本日の司会進行を務めます。市歴史民俗資料館の稲川と申します。よろしくお願ひします。座ってお話させていただきます。手元に簡単なレジメをお渡ししました。まずは「1. はじめに」というところで、今日の会合の趣旨を説明させていただきます。

本日ファシリテーターをお願いしております、岐阜大学名誉教授の富樫先生が今年度、岐阜県地方自治研究センターの研究で、各務原市のまちづくりと市民活動を取り上げていらっしゃいます。その中で平成16年に合併した川島町が、近年、市内の他の地域ではどんどん人口が減っているのに、川島増えている、しかも、外から来た方々がいろいろな活動をされているということで注目をされました。それで歴史民俗資料館の私のところに相



談があったのですが、じゃあ、そういった人を集めて話を聞いてはどうかということで、今回、企画をさせていただきました。これまでの川島を振り返りながら、この地域の将来像などについていろいろご意見をいただき、調査研究の資料とさせていただきます。

本日の進め方ですが、富樫先生をファシリテーターに、皆さんから川島とのかかわりとか、気に入っている点、逆にここはこうしたらいいんじゃないかという点、いろいろあるかと思いますが、そういったことを自由に発言していただきます。



また、既に皆さんの間でお知り合いの方もいらっしゃるかもしれませんが、これを機会に新たな関係性の構築というか、何か一緒になってやれることができたらなというふうにも思っております。

今日は傍聴ということで何人かおみえになってます。市役所の企画政策課から2人、小林課長と安藤さん。川井さんは今、各務原市の歴史をまとめる市史編さん事業を進めています、その中で川島の部分を書く執筆委員をお願いしています。もうひとり岐阜大学の木村さん。今、卒論で各務原市のことを取り上げているということで傍聴をしています。よろしくお願ひします。

あとお手元の和菓子。これは何かというと川島小さい町ですが、昔は和菓子屋が結構あったんですよ。松栄軒とか、ちょうど名鉄バスの川島口に「松栄軒」という看板だけ残っています。あと、そのちょっと西へ行ったところに鎌倉屋というのもありました。そういうお店でまんじゅうとか買っていたんですが、残念ながら、もうずいぶん前に無くなってしまって、最近、川島の人はこちらで買っているというんですね。河田橋を渡った一宮市浅井町の「きくや」。ここの草もちがおいしいというので、うちの母も、草もちはここしか食べません。ですから時々買いに行くのですが、今日はぜひ皆さんにもということで買ってきました。ぜひご賞味ください。あとお茶もどうぞご自由に。

では、ここからは富樫先生に進行役をお願いしたいと思います。

《自己紹介》

ファシリテーター・富樫幸一：去年まで岐阜大学に勤めてたんですが、定年で大学は辞めました。各務原市の仕事が最近多くて、企画と一緒に総合計画とか、地方創生もやってますし、それから稲川さんが関わる市史編さんも。僕は東北の山形県酒田市で生まれ育ち、大学で金沢、その後東京に行って、たまたま岐阜大学で教員の募集があって、その時、初めて岐阜に来ました。

はじめは何も知らなかったのです。それから37年たって、岐阜のいろいろなまちづくりに関わってます。例えば柳ヶ瀬で今月いっぱい絶賛開催中の「柳ヶ瀬日常二ナール」イベント。まちづくりとかから学生との調査とか、そういう活動にかかわっていたからかどうかは知りませんが、NHKのプラタモリの岐阜版にも登場させてもらってます。まち歩きが専門みたいになってます。

川島のことも全然知らなかったんです。車の免許を持ってないので、岐阜から自転車で走ってきて、川島を東西に横断してみたんです。昔は繊維産業が盛んだったと聞いてました。今ほとんどないみたいなんですけども。後でお話しますが、各務原市全体は人口が今減り気味なのに、なぜ川島は増えるのか、川島って合併前からユニークな町だなあとずっと思っていました。その辺を今日は皆さんにお話しいただければいいのかなと思います。まずは自己紹介からお願いします。

荻谷伊：こんばんは。生まれも育ちも川島です。大学は東京へ行ってたんですが、2年くらいでやめちゃいました。生まれは昭和44年、1969年、それから川島に根付いて、川島の小網町という東の端に住んでいます。デザインラボという看板製作・取り付け・デザイン、あとはカーラッピング、ECサイトネットショップとかの会社の代表をやらせていただいています。今日はいろいろな意見が聞けるので楽しみにしてきました。

津川祐輔：津川祐輔といいます。生まれは各務原の那加。大学のときは一時、愛知県瀬戸市に行っていたんですけど、卒業して戻ってきてからは那加にいました。仕事は設計事務所です。独立すると同時に市内で起業し、その後、妻が妊娠。当初は実家で家族と同居していましたが、自分たちの新しい住まいを考えようということで、いろいろ探していたときに、河跡湖公園を見つけました。近くに古い倉庫があって、そこをリノベーションして住まい兼事務所として引っ越してきたのが5、6年前でした。

ただ、ちょっと事情があって、昨年からは住まいは岐阜市に変えて、事務所として川島に関わっているという形になります。設計事務所を一人でやっているんですけども、あとは、「かかみがはら暮らし委員会」という団体の事務運営とかに関わっていたり、最近では数人のメンバーで始めた古材とか古小道具とか、そういうものを回収してきて、それを新しい何かプロダクトとかりノベーションに使うような活動を始めていたりしています。

一度、岐阜の方に引っ越してしまったんですけども、これからも川島には関わっていきたいなと思っているので、川島のことをいろいろ知っていただけたらなと思っています。

富樫：岐阜はどちらに。

津川：月丘町です。

大野祐希：川島渡町に今は住んでます。その土地はもともと祖父母が住んでたところなんです。私の父親はそこで生まれ育ち、結婚して関市に家を建てました。私が生まれたのは川島町の母子センターです。それから関市で育て、そのあと社会人になりました。結婚して、じゃ家をどこに建てようってなったときに、兄と関の実家を取るか、祖父母が

亡くなり空き家になっていた川島を取るのかで、私は絶対、川島がいいって川島に家を建てました。小さいころに遊んでいた思い出とか、おじいちゃんとおばあちゃんが堤防で夕涼みをしていた雰囲気すごくて、私もそんなふうに着たいなって思って、旦那を説得しました。

その時は岐阜県総合医療センターで助産師として働いていたんですけど、いつか地域で助産院をしたいとずっと思っていて、話は長くなってしまいますが、開業までにいろいろあって、今年の2月に川島で「にこ助産院」を開業しました。

犬が1匹いるんですけど、子供と旦那と散歩しているコースにお隣のリトンさんの建物があって、こんなところに何かあるなと気になってました。看板もおしゃれでかわいいんだけど、何て書いてあるんだろうと思いながら検索したことがあります。助産院の家具とかを決めるのに、かわいくていいなあ、川島で建てるなら川島の人をお願いするのも一つかなと思ったんですが、お値段が厳しいなと思った記憶があります。

大西鉄平：川島北山町で家具工房リトンをやっております大西といいます。私は出身が隣の愛知県一宮市で、家具屋としては15年前から独立してやっています。最初は岐阜市で3年ほど、その後、一宮市で父は鉄工を、私は木工をやっていたんですけど、合体しようというので物件を探していた時に、知人から紹介してもらったのが北山町の空き工場です。そこでもう13年目になります。

最初は川島のLawson近くにある高層マンションの最上階に住んでました。すみません、上から見下ろしてたんですけど、そこは賃貸なんですけど、そのときは特に川島で家を持つとかは決めてなくて、一宮から通える距離だったでしょうかと考えてました。川島に3年間くらい住んで、自然も多いですし、子育てには合うかなと思って、家を構えることにしました。今は松倉に、工房とは別に家を建てました。

アレサンドロ・セニガリエズィ：皆さん、こんばんは。+デザインスタジオのアレサンドロです。お願いします。

イタリアのミラノ生まれです。ミラノはデザインの街だから、私、13歳からデザインを学び、設計の専門学校に入って、そこからデザインとかグラフィックを学んで、それでこれまで生きてきた。

27歳のときにデザイン事務所の仕事を辞めてちょっと旅をしたいと思った。今やらないと、未来にはチャンスがないと思ったから。オーストラリアとニュージーランドに住んでいて、そこでビジネス英語を勉強して、一宮出身の奥さんに出会って、ニュージーランドに少しいた。日本の文化とデザインに、結構、興味があったから、日本に移ろ

うかなと思った。

一宮の浅井町に7年に住んでみて、そこからもうちょっと自然と近くに行きたいと思った。アウトドアが好きだから。近いところにある川島、すごくいいところと思った。緑とか公園とか、家族を育てやすいと思った。だから川島に移りました。

一宮にいたときから、古い工場に自分のスタイルを作りたいと思ってたから、のこぎり屋根工場をリサーチしたら、いろんなところに結構いい場所いっぱいあった。だけど、住んでいる人も、結構いた。だからリサーチに時間がかかったけど、いい場所を見つけずぐ移ってきました。

今は、デザインの教育、いろんなデザインコースやワークショップやっています。そして、とてもまちづくりに興味がある。

コミュニティの話は、何かで口から出やすい。だけど、コミュニティのコアはちょっと難しいと思う。今、友達と一緒に畑にやってるし、いろんなところでちょこちょこやっています。

水野香織：遅刻しましてすみません。小網で夫と二人でデザイン事務所をやっています。経歴なんですけれど、私は、岐阜市の芋島で育っています。川島も木曾川の流れの中の島なんですけど、芋島も昔は木曾川が流れていて、そんな島の一つだったということで、川島とは馴染みのある場所です。地元の小学校、中学校、そして各務原高校を卒業してデザインの専門学校に通いました。卒業後、岐阜市にある印刷会社のデザイン企画室で7年ほどデザインの版下を作っていました。ちょうどマッキントッシュが入ってきたところで、写植もやりました。

DTP、いわゆるパソコンを使ったデザインの過渡期を過ごし、7年経って会社を辞めました。結婚して子どもができて、産む直前まで仕事をして、出産後も会社で仕事をしたいって言ったんですけど、辞めてくれてって言われて辞めました。

辞めたあとも、私のデザインがいいというお客さんから、引き続き仕事の依頼が来て、オンラインで細々と仕事を続けてました。夫とは同じ専門学校で知り合い、その時は友達だったんですけど、いろいろ縁があって結婚しました。夫が川島小網町出身だったので引っ越してきました。

長くて申し訳ないです。えーっと、そんなこんなで夫が名古屋の引越会社の方で勤めてたんですけど、辞めて東京文京区の折り紙ハウスっていう折り紙工房というか、作家さんのところへ転職しました。夫は折り紙の下図を描いたりして、一緒に行った私はデザインの仕事ではなくて発送業務とかやりながら、東京で1年半ほど過ごしてました。条件がとても良かったので、すごくありがたかったですけ

どで、また川島に戻ってきてしまいました。なぜかという
と、都会の水に合わなかった夫が、体調不良で仕事が続け
られる状態でなくなってしまったから、戻って来ざるを得
なくなったという感じです。

そんな状況だったので、戻ってからも会社勤めは難しく、
私が細々とやってきたデザインの仕事を頑張ってやってみ
ようということになりました。そこで「アナバスプランニ
ング」という屋号を考えました。アナバスというのは東南
アジアに住んでいる珍しいお魚の名前で、「木登り魚」
という別名が付いています。渾水状態のときにも、水が無く
なっても生きていくというすごくしぶとい魚で、よし、し
ぶとく生き残ってやろうという意味を込めて付けました。
一からのスタートなのでお客さんが全くいない状態でし
た。在宅でちょっと仕事をもらう程度、月に数万円稼げれ
ばいいかなという状態だったので、大変というより、これ
からどうするんだろうねという感じでした。PTAの役員
になったとき、学校の広報紙印刷、もうちょっと安くで
きますよって営業をして、厳しいPTAの予算の中で半分
ボランティアみたいな仕事をもらって今に至っています。
ボランティアについてですが、夫も私も消防団に入ってい
ます。団でご縁をもらってお仕事をいただいたりとか、他
にもいろんなボランティア関係のところに顔を出すと、何
かしらやらせてもらってます。

東京からこちらに帰ってきて半年後に東日本大震災が起
きました。そのとき、たまたま夫が、東京の折り紙ハウス
に行っていて被災しました。大変な状態で、いろいろ連絡
を取り合ったりして無事に帰ってはこれたんですけど、向
こうにいる時にお世話になった方が大変な目に遭っている
と聞きました。そこで震災が起きたとき、自分がやれるこ
とは何だろうかとか考え、やれることからやってみようと思
い、消防団を含めていろいろなボランティアをやっています。

富樫：事務局や傍聴の皆さんも、ぜひ自己紹介をしてくだ
さい。

オブザーバー・稲川和宏：川島生まれ、川島育ちです。大
学で4年間だけ東京に行っていました。仕事は公務員です。
川島町役場に入り、合併で各務原市役所へ、そのまま60
歳でいったん退職しました。今は歴史民俗資料館においま
すが、来年3月、65歳ということで完全にリタイアしま
す。それ以降何をしようかと今、考えてます。

若いころは60歳過ぎると何やって生きてるんだろうっ
て思ってたんですよ。で60歳になったとき、後ろに現職
の市の職員がいますが、毎日仕事、大変ですよ。でも
60歳過ぎればこんな楽しいことができるんだよって、そ
ういう生活を見せてあげたいです。本読んだり、映画を観

たり、コンサート行ったりと。そんな老後を楽しんでいる
高齢者です。

オブザーバー・高井千晴：私はこの川島ライフデザイン
センターに勤務している市の職員の端くれです。名古屋で
大学生活を送った後、そのまま名古屋で就職しまして、そ
の後数年は向こうに行っていたんですけど、やっぱり子育て
をきっかけに川島へ帰って来ちゃいました。周りにいる中
学の友達も、女の子が旦那を連れて川島へ帰ってくるとい
うパターンがすごく多いです。

子どものころから習字が好きだったので、ずっと習字の
先生をやっています。もう20年以上も続けてます。

今の職場は、昼間にいろんな人に出会えるので、とても
楽しく仕事をさせてもらってます。今日も小さくご縁をい
ただいている方から、お久しぶりの方までこの場にいら
れてとても幸せだなと思っています。よろしくお願ひします。

傍聴・川井純一：川井です。私は岡山生まれ、高知育ち、
勤めたところは一宮市、住んだところが岐阜県川島町とい
う、教育渡世人です。

教員として一宮市内の小学校中学校に行きまして、最後
は校長をやらせていただいて、その後教育委員会の嘱託で、
生徒指導訪問アドバイザーという仕事をやらせていただき
ました。生徒指導で困っている学校へ派遣される、そうい
う役職でした。

それから、児童養護施設ができ、その施設長になって
ほしいということで、新設の児童養護学校の施設長を務め
てましたが、病気になって辞めました。

しばらく静養してたら、今は元気になりました。愛知県
の仕事をボランティアでたくさんやっていたんですけど
も、今は岐阜県に住んでいますので、岐阜県の方で皆さん
に何かできないかなと思っていました。そしたらまず、カ
ラオケ同好会の会長にやれと言われて、現在それをやって
おり、それから歴史の教員でしたので、講演会やってほし
いという要望がいろいろなところからあったりもします。
各務原市史の執筆委員にも選任されました。以上です。

傍聴・小林広和：各務原市企画政策課の小林と申します。
いつもお世話になっている富樫先生から、川島でこうい
うことをやられるというので伺いました。

人口減少とか高齢化というのは各務原市も他人事ではな
くてどんどん人口は減っています。では、そうした中で川
島地区は結構人口が増えている状況です。今日は皆さんの
お話を聞いて、何かヒントになることを一つでも得られた
らいいなと思っています。よろしくお願ひします。

傍聴・安藤晃弘：企画政策課、安藤と言います。企画政策
課では今、次期の総合計画ということで、今後10年間の
市の方向性を決める計画を策定しております。その中で、

市民の方々に意見を聞くワークショップを12月にも計画しております。そういう場に出させていただきますと、いろんなご意見をいただきます。そういったことを計画に盛り込んでいけたらなと思っております。本日もこういう場をいただきましたので、参考にさせていただきます。よろしくお願ひします。

富樫：岐阜市でも地域別のワークショップとかよくやるんですよ。どういうまちにしていこうとかね。自治会をどうしようとか、よく話してるんです。地域によってそれぞれ事情が違うようなんです。

今、自治研センターの報告書で各務原市をまとめてまして、東から鶉沼宿、それから、高齢が進んでいる団地、今度、那加の街中を歩くんですけども、こっちの方は新加納の中山道。僕は岐阜の加納のまちづくりにも関わっているんで、新加納から、向こうの加納まで中山道を歩いたこともあります。

イオンの南の大野町、あそこも結構、若い人がいるんですよ。まちづくりのアンケートをしたいというので手伝いに行ったりしてます。今日は川島の話をいろいろしてもらおうと思ってます。

手元の紙の資料（以下、1章を参照）を見てもらっていいですか。左上から、鶉沼の団地も高齢化してるし、那加も減りぎみ、稲羽はそうでもないですが、でもちょっと減ってるかな。地区によって違うんですけど。なのに川島はだんだん増えてるんですよ。川島へ来る人もいる。岐阜市でも増えてるところ、減ってる場所さまざまなんです。今日は、もう皆さん、だいぶ話されたと思いますが、川島の魅力は何かを語ってほしいなと思います。

右下は、国勢調査の統計です。自治会ごとの2010年から2020年までの人口の増減で、上位に川島が3つ入ってます。名鉄の駅の近くは増えてます。高齢化が進んでいる団地は激減しています。

左下は年齢別の構成で、皆さんもこの中のどこかに入ってます。鶉沼のように団塊の世代70代がかたまっているとグラフが飛び出るわけです。薄茶色の川島は40代の団塊ジュニアが多いのが分かります。その下の子どもさんたちもいるし、そんなに高齢化も進んでなくて、川島だけ違うんです。なぜ川島はこうなってるんだということを、皆さんと話してみたいんです。

デザイン系、アート系の人が多くいるんですね。川島の良さ、魅力で、キーワードは何がでてきましたか？

大野：子育てがしやすいですね。

富樫：暮らしやすい。

《川島の小学校と中学校》

大西：川島単体で見ても子どもは増えてますか？いま、小学校に関わられている方ってどれかいますか？

水野：小学校の広報紙の作成とかで関わってます。あと私、児童委員もやってます。

富樫：1学年で何人くらいです？

水野：今年の入学者数は130人か140人です。

大西：5年くらい前にPTAの会長をやりました。その時にピークだと言われた年なんですけど、6年生が3クラス卒業して1年生は4クラスが入ってきた年でした。学校の教室が足りない騒ぎになりまして、図書館潰したり、外に建てたりしてた時期だったんです。

大野：その中学生も増えてる。

水野：今年の入学者数が148人。

大西：たぶん私が会長だったときの子たちが中学校に上がるんでしょうね。当時全校児童が780人くらいだった。そこがピークで落ちていくという話を聞いていました。

水野：今年の入学者が104か、105人で聞いてます。

苅谷：ぼくがちょうど団塊ジュニアです。川島小学校の時、4クラスだったんです。126人だったかな。そのときと同じくらいに、今、なってきたんですね。

高井：私の年は162人です。4クラスで1クラス45人でした。昭和49年生まれで苅谷さんの3つ年下です。

苅谷：ぼくらは1クラス36から38人だった覚えがある。

富樫：鶉沼だと70代に団塊の世代がいるんだけど、次の世代は外に行っちゃうんだね。子どもさんたちがいないから年寄りばかりになっていく。

苅谷：本音で言っていていいですか。何で増えているのか、結論は簡単、土地が安いこと。各務原市内や一宮、江南と比べるとはるかに安い。昔は川の氾濫があったりしたけど、今は無い。不動産、建築関係の同級生が川島にいっぱいいるので、皆、そう言います。それから開発が遅れたことも、最近、急増している一因。

我々から上の世代は、引っ越してくる人を白い目で見ていると思うんです。地元の人には名字が6つくらいだったかな、苅谷、小島、田中、脇田、渡町は川瀬、あとは尾関、6つか7つの名字しかない。それ以外の名字だと、外人を見るような感じでした。それが急に開発が進んで変わってきた。

皆さん、緑が豊かだと話をしていますが、ぼくたちから見たら全然、緑が減ってる、全然自然じゃなくなっている。昔は、朝起きて森に行ったら、カブトムシやクワガタが獲れた、蚊がぶんぶん飛んでいたような自然

があったんです。

マンション・アパート、建売などが、若い子でも手の出やすい価格設定なんじゃないかと、同級生の不動産屋は言います。

稲川：ちょっと学校のことに話に戻しますと、川島って特殊な事情があって、それは小学校と中学校が1校ずつしかないんです。つまり小学校の同級生は基本的に中学でも同級生。これはいい悪い両面あります。

逆に中学へ入学すると人数が減るんです。滝中学などの私立に行くので。

大西：私は一宮市の小中学校でした。富士小学校が中学校では北部、南部で分かれるんです。2割が北部中学校に行き、あと8割が南部中学校行くんです。ぼくは2割の北部中学校へ行ったので、入学と同時に友達と別れるんです。川島の環境とは全く逆で、なんか不思議な感覚です。ほぼ全員が同じ中学に入学して、メンバーが変わらないというのは。

富樫：今は、小中一貫教育ってありますよね。人口が1万人くらいでコンパクトだからできたんでしょうね。

苅谷：高校へ行くと、小中学校が一緒に9年間、それに高校も一緒だと12年間、同じ名字が多いので、みんな下の名前前で呼び合ってるから、おまえら付き合ってるのか、なんて言われたりしました。

《川島の地域の様子》

大西：最初に川島へ来たとき、表札がフルネームで書いてあるじゃないですか。北山の工房の近くは川瀬さんがすごく多いんです。川瀬〇〇さんという表札なんです。

苅谷：昔からの人は川瀬さんとは呼ばず、下の名前前で呼ぶんだよね。例えば淳吉さんの家とか。

稲川：苅谷さんが住んでいる小網は苅谷が多くて8割くらいだったかな。

苅谷：いや9割だった。

稲川：同級生で苅谷と言えれば100パーセント小網だった。

苅谷：小網は昔、愛知県にわたる橋が1本だけあって「思いやり橋」と呼ばれていたんです。車1台しか通れなくて、真ん中ですれ違うという橋、AC（注：公共広告機構）のCMにもなりました。ものすごくインフラが悪かったんです。今は、思いやり橋も架け替わり、新しい各務原大橋も架かりました。今は市役所へ行くのに10分ですが、それまでは30分、40分、掛かってたんです。そんな状況だったので新しい家が建たなかった。交通の便が良くなってから家が建ち始めました。

富樫：1980年だから、40年前、合併の前なんだけど、



自宅で仕事をしている人が多かったんです。昔はねん糸もあったしね。外へ出ているのは岐阜市、一宮市が多いです。生活圏から見ると、ほんとに岐阜県なんかと思ってしまう。

ぼくは車に乗らないので、岐阜から川島へ来るときにどうやってこようかなと調べたんですよ。笠松からはバスがあるんだけど、各務原のコミュニティバスも本数少ないし、と思ったら、一宮からもバスが来てるんだ。生活圏は川の向こうなんだね。

苅谷：昔から買い物は一宮。あとは江南のユニーとか。岐阜市なんか買い物行ったことないですもん。かろうじて、パルコや映画を観に行っただけです。

大西：地元で育った人の生活圏は感覚的に一宮なんですか。

苅谷：はい、一宮です。生まれたころ、愛知県側には3本橋が架かってました。でも岐阜方面は、今架け替えている川島大橋、1本だけ。インフラが愛知県寄りでした。

大西：電話の市外局番もそうですね。

苅谷：昔は4けたで電話が掛けられたので、内線の町と言われました。市内局番が無くて、市外局番が6けた、「058689」で。

稲川：川島の生活圏、文化圏が一宮だというのは皆さん、もうお分かりだと思います。例えば、渡に住んでいる人は朝、モーニングを食べに一宮の喫茶店へ行きます。新聞を読みます。すると地方版が愛知県版、尾張版です。ですから皆さん、そっちのことは詳しくて、一宮市長の名前や顔は知っていても、各務原市長のことは知らなかったりします。

《住宅の環境》

富樫：話を戻しましょう。ひとつ学校や教育のこと、もうひとつは土地が安いこと、家が建ちやすいこと。

苅谷：もうひとつ、いいでしょうか。10数年前なんですけど、どんどん新しい家が建って、あるいは注文住宅で



木曾川に架かる川島大橋の仮橋から見た夕焼け

引っ越してこられるかたの中で、例えば5千万円で川島だったら4倍の土地が手に入るというので、富裕層の人も来たんです。今、地元の人ではなくて大きな土地に住んでいる人は、10年か20年前に引っ越して来ています。水がきれいだと言って来ている人も知っています。霊媒師から、水のきれいなところに行きなさいと言われ、川島に来て井戸を掘っている人もいます。

水野：小網に水源地があるんです。建物が地味なので分かりづらいんですが、松倉と小網の間にあります。

富樫：土地が安いんですね。結構立派な家が建っているという印象ありますよね。

苅谷：大きさにもよりますが、今は坪8.10万円くらいです。

大西：実家は一宮の競輪場近くですが、その半額以下です。最初、川島へ来たときに、土地付きの家が30坪、35坪で1500万円とかで売り出されているんですよ。アパートに住むより安いのでびっくりしました。

《自然の環境》

富樫：先ほど、水害の話が出ましたが、そっちは心配しなかったですか。今は大丈夫だと思うんですけどね。

アレサンドロ：その話は・・・神様にお願いしたほうがいい。

大西：土地が安いという問題もありますが、先ほど、緑が減ったという話、一宮で育った僕らから見ると、むしろ緑があるんですよ。

アレサンドロ：もうしわけない、私、一宮に住んでたとき、河跡湖公園でよく遊んだ。公園の周り、車多いのは嫌で、河跡湖公園は安心、安全だし、最近、マルシェも増えてきたし、みんなゆっくりできるところだから最高ですね。私もこっちに来て、もう7年になる。山ではな

いけど緑が多いと思った。うちの裏も竹藪だったし、キツネ、タヌキ、キジがいたし。

大西：アレサンドロの家、ぼくの家我真ん前なんですよ。キツネとか普通にいるね。

アレサンドロ：昨日の夜もキツネの声、聞こえました。でも最近、ランドスケープ、だいぶ変わったね。それ、市役所の人にぜひ話したい。キャパオーバーになると、ライフスタイルもクオリティ下がる。コミュニティ育たないと、それ危ないことになる。泥棒が増えてくるし、子どもも危ないことになるし、人の量もマネジメントしないと、私たちは市にお願いしている。それ、大事なことです。

《産業の変化》

アレサンドロ：緑もだいぶなくなっちゃった。オーバーポピュレーションですね、キャパオーバー。メガ工場も入ったし、安く買った川島のオーナーさんじゃない人たちはお金だけで動く。メガ工場はやばい。なぜならコミュニティを壊すから。

あとトラック、トラックのスピード。娘の友達、向こうの方に住んでる。歩いていきたいけど、トラックが多いので心配。信号も少ない。人増えると、町もアップデート、アップグレードしないと危ない。

苅谷：メガ工場というのはメガソーラのことでしょうか。

アレサンドロ：トラックの倉庫のこと。ストレージ。

高井：エーザイが売った土地ですね。

苅谷：今、2024年問題というのがあって、倉庫をあれだけ建てないと、輸送のインフラが回らなくなってる。絶対に積み替えが必要なんですよ、800キロとか長距離を走るドライバーは。今でもまだ少ないと言われてるので。川島にトラックがいっぱいあるというのは、排



河跡湖公園の自然を生かして定期的で開催されているマルシェ

ガスの問題のときに、愛知県では登録できないトラックが岐阜県では出来たんですよ。ですから車庫飛ばしで、運送会社が川島に土地を借りて、そこを登記して、愛知県では持てないトラックを置いた。それが一時、増えたんです。

あと運送業者が川島、多いんですよ。なぜかという、土地が安くトラックの置き場が確保できるからというので。

昔は繊維産業ばかりでしたが、廃業してからも、もともとの土地があるのでいろいろなことができる。お金も借りやすい。

富樫：岐阜市で話を聞いていても川島出身で仕事を興したりする人いましたからね。そういう土地柄なんですね。

苅谷：1950年代60年代って、川島の一人当たりの所得が岐阜県で2番だったことがあるんです。繊維のガチャマン時代で、岐阜市に次いで川島が2位。毎晩、柳ヶ瀬へ飲みに行くんだよね。接待に連れていったりとか。朝はコーヒー飲んで。会社員の月給が1万円のころに30万円くらいかな。女工さんを雇って。

大西：うちの工場がまさしくそう。敷地内に女工さんを雇ってたころの宿舎がまだ残ってるんです。

苅谷：ガチャマン時代の名残ですね。

富樫：その後、繊維はどこでもそうだけ落ち込んでくるんだけど、代わりの産業が出てくるといいのですが、そうでないと落ち込んでいくばかりで。

苅谷：土地があると、売ってしまう人もいれば、何か違うことをやろうという人とか、いろいろなことがやりやすかった。その点は岐阜市とは違うかもしれないですね。ただ、お客さんと呼ぶような事業はなかなかできなかったですね。

《川島から見る景色》

富樫：総合計画のワークショップをやっている、市民の皆さん、木曾川をあまり意識していない。でも川島は違うなと思って聞いてました。岐阜市だと長良川は見えるけど、木曾川は見えませんよね。川に対する意識も違ってきます。

水野：堤防が高いせいでしょうか。

大西：小網はハザードマップ見ても沈まないですよ。

苅谷：沈まない。

大西：すごいうらやましいです。

大野：うちは目の前が堤防で、一宮タワーが見えるんですよ。助産院の玄関を開けたら最高の景色で、夜はライトアップしてくれるし。

苅谷：ぼく仕事で年間1カ月半から2カ月、海外のいろ



渡町の堤防から見た対岸一宮市の138タワー

んなところに行くんです。いろんな場所で散歩したりしながら夕日、朝日を見ますが、川島の堤防から見る四季折々の朝日、夕焼けはすごくきれいです。景色がいい。小網の堤防から見る朝日、各務原大橋から見る夕日、鈴鹿山脈、伊吹山、金華山、向こうに北アルプス、御嶽山。

《子どもの環境》

大野：私は川島愛が強いので、引っ越してきてさらに川島が好きになりました。土地が安いから人がどんどん入ってきて、川島がいい方向に向かうならいいんですけど、緑が減るとか、子どもにとって危険じゃないかとか。助産院を始めて思うことは、お母さんたちが子育てしやすく、子どもがいきいき育つ、そんな環境をつくりたいなど。

水野：その話で、緑町の公園がボールで遊んじゃいけないことになってしまったんです。じゃあどこで遊べいいのか。道路ではもちろんダメです。

富樫：どうしてダメなのでしょう。

水野：公園の周りに介護施設があって、よくボールが飛んでいったらいいんです。ボール飛んでくるから、危ないから止めましょうという短絡的な考え方がとても残念です。

東京にいたときに、公園でボール遊びができる公園があったんですけど、そこは全部、金網が張ってあって、それくらい管理しないとボール遊びできなくなるのかなと。

アレサンドロ：子ども何かトラブルあったとき、知っている人だったら、いいよ、いいよと言うけど、知らない人だったら、すぐにピリピリになる。それストレスになる。人が増えてくると、遊びつづかないと、安心・安全が脅かされる。

大野：渡町の今住んでいるところは、地元の人がすごく

優しいんです。うちの小1と小4の子がすごくやんちゃでご迷惑をお掛けしているけど、近所のおばあちゃんたちが優しくしてくれるし、散歩してると野菜持って帰ってくるんですよ。

アパートに住んでいたときは、お隣の顔が見えなかったりして、コミュニティとしては安心ではなかったんですが、渡町に住んで、みんなの顔が見える関係はすごくすてきだなと思っています。

《環境とコミュニティの変化》

アレサンドロ:もうひとつ、自然の話です。隣の畑、知っている人だと、草引きとかでもコミュニケーションが取れるけど、知らない人だと、畑に除草剤を使う。これはうちの土地だから自分の管理になるからと。今、日本で除草剤の問題って大きい。みんな、毒食べちゃってる。世界的にもラウンドアップはだめです。でも結構、アパートの周りに除草剤使ってる

私、蜂、育ててます。除草剤で死んじゃう。蜂、死んじゃう、人間死んじゃう。隣の人が除草剤使うと、コミュニティも死んじゃう。うちの玄関に落ちてくる。分かりやすい。自分の庭だけきれいにする。お隣さんは関係ない。**富樫:**家が建って、新しい人が来るじゃないですか。そういうときに自治会に入ってもらおうとかね、コミュニティの作り方があると思うんです。

水野:自治会に入らない方が増えているって話をすごくよく聞きます。結局、自分さえよければというところになってくるので。自治会費が高いとか、役員やりたくないとか。PTAも似たところがあるんですけど、余分な役割はやりたくない。それを何とかしたいなとは思っています。子どもたちにボランティアっていいよっていう話をしています。

富樫:各町内で工夫されていることってありますか。放っておくと自治会入ってくれないし、入ってる人も高齢者ばかりになってしまっ。どうすればいいのか。

大西:苺谷さんが言われた、年配の人たちが外から来た人を白い目で見るといのは、今でもちょっと感じるどころがあります。10何年前に越してきて、すぐに自治会の班長やってといわれたんですよ。結果、それで近所の事が分かるようになったし良かったんですけど。飲み会をやったんですよ。そしたら参加した人はほとんど他所から来た人でした。地元の人参加しなかったんです。

富樫:どうして？

大西:それが分からないんです。ご高齢というのもあるかもしれませんが。外から来た人のほうが、フランクなのかなという感じを受けました。



コロナ禍で中断したままになっている「かわしま川まつり」。平成19年ごろの写真

苺谷:それは逆の立場で考えてみると分かると思う。自分がずっとテリトリーとしていたところに新しい人がバーンと来ました。飲み会に誘われて、出たいかどうか。

大西:でもその飲み会は私が第1回でやりましようと言ったわけではなくて、ずっと続いてきてるものなんですよ。

苺谷:地元の人が少ないところで遠慮しちゃう。例えば自分がずっといるのに、新しい人たちが盛り上がっているところに行きやすいかどうか、と考えると、ぼくは行きづらいと思うよ。その気持ちを分かってあげるのもやさしさだと思う。

アレサンドロ:苺谷さんのイメージと、飲み会の前に、お祭り、昔こちらに舟の祭りあったでしょ？（注：「かわしま川まつり」のこと）乾杯の前にお祭りがあるとチャネルしやすいかも。知らない人と乾杯するのは私、好きじゃない。祭りの手伝いからコミュニケーションが始まる。いろいろなやり方あるね。

苺谷:60年近く前、父は養子で川島に来ました。母が三姉妹だったんです。その当時、男が養子でこの町に来ることは大変なことでした。まず消防団に入団。義理の父が、お前ここに来たのから消防団に入れと強制されます。すると団でいじめられるんです。今だったらパワハラ。たかられたりとか。

水野:今はそんなことないですからね。

苺谷:ものすごく幅を利かせてた人が必ずいた。もうひとつ言えば、自営の人が多かった。企業に勤めていなかった人が多かったんです。昼間から酒飲める人たちです。ねん糸業とかで。そういう歴史もあるね。

富樫:逆に、来た人はどうなの。

高井:私は養子娘、母もそうなので、男社会、よく分かります。いまだに肩身の狭い思いはあります。

苜谷：女性のことで言うと、あそこの嫁は愛想がいいとか、茶飲み話で出るよね。

高井：井戸端会議が、例えばゴミ出しのあとにあるんです。

苜谷：昔は、3日あれば話が川島じゅうに伝わってた。誰々さんの子どもがケガしたとか。

《お店と飲食店》

稲川：町のなかに喫茶店が10軒以上あったんですよ、昔は。朝はだいたい男性は喫茶店に行っていましたね。

大野：うちのおばあちゃんのポシェットに喫茶店のチケットが入っていました。

津川：ぼくの友達も、川島というお店がないとか、食べに行くところがないとか、マイナスのイメージを持っている人が多いんです。

大西：それは実体験というか実感しますね。食べるところがない。

津川：なんでないんだろう、あればみんな行くんじゃないのかな。実際、住んでいた時は全然外食もしなかったの、それで成り立つ地域ではあったんですが。なんでこんなにお店とかできないんだろうという疑問は残ります。

富樫：各務原市もお店はあまりなかったですよ。

アレサンドロ：やっぱりあったほうがいいよね。フルーツサンドとか。

水野：今、お休み中です。寒いので。

アレサンドロ：新しいお店はありがたい。

《母子センター、助産師さん、子育て、介護》

大野：ちょっと聞いてもいいですか。昔、川島に母子センターってあったじゃないですか。自分、そこで産まれているんですけど、今、どこにもないんですよ。母子センターって。そのころのことを知っている人はいますか。川島での子育てってどうだったのかなって。産む場所として母子センターってすごくいいと思うんです。で

すから教えていただけたらうれしいなと思います。

稲川：川島に病院が2軒しかなかったんです。どちらも産科婦人科はなかったの、多くは一宮に行っていたと思うんです。

苜谷：旧昭和病院とかね、江南の。

稲川：今、川井さんが調査をしているのですが、川島の基礎をつくったのが尾関正爾という初代の町長でした。尾関さんが町長になって最初にやったことは水道事業です。当時、川島には水道がなくて、みなさん井戸を使っていました。それは危ないだろうと、それで簡易水道を整備しました。

次に手掛けたのが母子福祉、母子衛生です。赤ちゃんを産む環境がよくないということで母子センターを建てました。昭和30年代だと思います。そこに産婆さんがいて。そんな経緯があります。それくらいしかぼくからは語れないんですが。

高井：私もそこで産まれる予定だったんですが、母の体調が悪くなって、緊急で入院して産まれました。

苜谷：その前は、家に産婆さん来てもらっていて、家で産んでたんですね。

大西：アレサンドロさんの近く、河田に助産婦さんいますよね。

稲川：岩田さんが、母子センターで一番赤ちゃんを取り上げた産婆さんです。何千人だったかな。

大野：今、子どもを産む数が減ってるじゃないですか。私はお金じゃないと思ってます。お金ももちろん必要だけど、お産して、もう産みたくないっていうお母さんも今まで会って来たので、妊娠・出産は辛いものということが広がってしまって、2人目、2人目にはならないような人がいっぱいおみえになります。

大きい病院でたくさん経験してきて、地域で妊娠期を整えると、お産でぜんぜん違うんだなということに気づかせてもらいました。

川島で開業して2人取り上げさせてもらったんですけど、すごくスムーズに産まれて、出血も少なかったし、



昭和60年まで設置されていた保健センター（旧母子センター）の助産部門と2人の産婆さん（助産師）

次の日からお母さん、めちゃくちゃ元気でした。川島って産みやすい、育てやすい地域だよねって、外から来て人口が増えるのもいいけど、もっと産む人が増えて人口が増えるといいなって思います。これからできることっていっぱいあるなって思ってます。

富樫：お子さんの数は他の地域ほど、減ってないですからね、川島は。

大野：子育て世代が移り住んできているというのもあると思うんですけど。

高井：24年前、私が子どもを産んだころは、3人産まない川島のお母さんじゃないと言われました。

大西：川島は子どもが多いイメージあります。3人子どもいる家庭、比較的多いですよ。

苅谷：女女とくると、もう一人産め、男男とくるともう一人産めとなるんだよね。

大野：たくさん産むにはサポートが必要です。川島って、両親が住んでいるところに戻ってくるパターンがすごく多いなって感じます。他の地域はよく分からないんですが。渡で、3人目がおなかにいる子がいるんだけど、大変だね3人目はと言うと、いやー、実家がそこにあるんでって言うんです。やはりサポートがあると子育てしやすいなって思います。

富樫：おじいちゃん、おばあちゃんが同居してなくていいから近くにいるというのはいいですね。次に介護があるので、親からすると次の世代に、近くに来てほしいと思うんだろうけど。

苅谷：先生言われるように、昔から川島に住んでいて、高齢になって一人だけの家、結構あるんですよ。そうすると車が運転できなくなると、病院行くのも、買い物行くのも大変になってきます。ゴミ出しだけでも大変です。そういう人たちで、お世話になった人には手押し車を買ってあげるんです。

《買い物の便》

富樫：買物はほんとかわいそうです。

大野：移動販売車が来るようになりましたね。

苅谷：やっと最近来てくれるようになった。

水野：岐阜市の業者さんを、がんばって誘致しました。週1回だけなんですけど、歩いてきて、自分の目で見て買えるのがいいみたいです。ネットだと、ぼちっとするだけで買えますけど、キャベツでも大きいの、小さいのいろいろあるので、自分の目で見て買いたいといいます。それですごく喜んでもらってます。

大野：うちの隣に来るんです。消防団のところ。時間になると、おばあちゃんたちが集まってくるんです。



富樫：皆さん、買い物はどっちに出ることが多いんですか。

大野：私は一宮です。

苅谷：一宮だよ。木曾川イオン、そして各務原イオン。

大西：昔はヨシノヤ、無くなりましたが。

苅谷：さっきの話で、一人暮らしの老人は、都市部だったらいろいろな交通手段があるんですけど、岐阜市、各務原市、一宮市、江南市に囲まれている地域が、田舎のへき地のような状態、デッドスポットになってるように見受けられます。先ほどのように店もないですし。

高井：岐阜も大きなショッピングセンターと言うと、各務原イオンに来るっていいです。北の方の人はマーサだけど。

苅谷：各務原のイオンは集客人数では全国第2位。出来た当時は3番目だった。売り上げは3本の指に入らないそうです。来るだけの人が多い。

富樫：だから、岐阜各務原インターと同じように「岐阜」を付けてほしいと思ってます。岐阜市の人が土日にどこ

へ行っているかという各務原なんだよね。

稲川:イオンモールの名称が、12月から変更になったって知ってますか。「イオンモール各務原店」だったのが「イオンモール各務原インター店」になったんです。各務原市って広いじゃないですか、東西に。インターの近くだよって主張したいんだと思います。鶴沼とは方角が全然違いますからね。

《防災》

アレサンドロ:川のセーフティの問題があります。3年くらい前、1週間、台風と大雨で川の水が堤防ぎりぎりまでいきました。消防の人たちは知ってる。アラームが鳴って、おじいちゃんたち、小学校体育館に行ってくださいという話になったけど、みんな一気に逃げたいと思う。命が一番大事ですね。家族のため、友達のため。すぐ気になる。何かレスキューのプランが無いと、舟に乗ってるみたい。

水野:増水したときは水が北の方、かさだ広場に流れるようになっています。

アレサンドロ:若い人、たくさん町にくるとうれしい。で赤いゾーンのなかに家が建つ、それやばいよ。何かあったら、その人たち死ぬ。

苅谷:歴史を見てもらうと分かるんだけど、昔から川島に住んでいる人たちは、ごんぼ積みになっています。昔の歴史を知らない人は、平地に家を建ててしまいます。知らない人は、申し訳ないけど気の毒だなと思います。

あと、川島の堤防は完成しているので、ほとんど切れないといわれています。小学校の時にオーバーフローしかけたときが1回あったけど、そのときは渡の方から水が浸水してきたんだよね。

大野:おじいちゃんもそう言ってました。

稲川:堤防がまだ完成してないんです、川島は。遊水地になってるんですよ。ですから、北山のあたりは何十年か前に、下流から逆流して道路が浸かりました。今でも北山の住宅は高いところに建てて、石垣が2メートル以上あります。そういう意味で、堤防が切れる可能性は低いと思います。切れる前に、浸水してきます。

《まつりと伝統》

アレサンドロ:もうひとつの話。何かあったらどこに行くかみんなて話をした。やっぱり小学校。でも小学校のカギを持って人、どこに住んでるか聞いたら、岐阜だって。私たちが窓を壊さないと入れない。

リアルな話から伝統の話になって、昔の人たちは神さまにお願いした。外国人が話す嘘みたいだけど、ハイ

テクの話もマイナス、伝統の話もマイナス、昔、祭りあったけど、それは祭りの前に何か守ってくださいということ。それも無くなっちゃった。コロナで止めちゃった。それからリスタートしない。神さまが怒る話ではないかもしれないけど。

苅谷:川まつりって、今は止まっていますか。

稲川:4年間、中断しています。

富樫:国土交通省に言わせると、今、八百津町で新丸山ダムを建設中で、これで洪水は一切なくなると宣言しているんです。

《これからのまちづくり、子どもたちの将来》

さて、最後になります。これからどういうまちにしていけばいいのか、聞いてみたいと思います。

大西:前にコミュニティスクールってあったじゃないですか。あれって今も継続していますか。

水野:ずっと継続しています。でも形骸化しているところもあります。今は中学校で「教える学校」という授業を、人権教育の一環でやっているんですが、子どもたちは自分の教えたいことを友達に教えるという、自分の趣味でもいいし、ゲームの事でもいいし、家族の事でも、何でもいいんです。自分が調べたことをまとめて友達に教えるというのをやっています。友達の意外な面を知るというのもあったりします。

大西:コミュニティスクールは形骸化してしまってるんですね。

水野:いや、継続しています。コロナで中断してましたけど。

大西:5年前の立ち上げの時にPTA会長として出ました。でも会長は1年間だけなので1回しかやってないです。

富樫:学校で、川島の歴史のことはどう教えてますか、子どもたちに対して。

稲川:小学校4年のときに社会で地域の歴史を学びます。川島小学校の児童は川島会館4階の木曾川史料館に必ず見学に行きます。それ以外にも、小学校4年生全員を対象に、地域の歴史を学ぶ講演会をやっています。私は今、川まつりの副会長なので、呼ばれて話をすることもあります。というように一般的には小学4年生が地域の歴史を学ぶ学年です。

富樫:岐阜の高校生、進学は名古屋が6割で、あとは東京、関西。就職して出てっちゃいますよね。

水野:どうしたら戻ってくるのか、あそこ良かったなっていう思い出じゃないでしょうか。原点はふるさと。東京に行って思ったのは、土がないということ。人はいい人ばかりで良かったんですけど、土がないということで閉

塞感がすごくあったんです。川島は空が広くて、川があって、見通しがとてもいいところなんですよ。

あとは、地域のコミュニティが良くて、子どものときに幸せな経験をしたり、いい思い出があると、戻ってくると思うんです。お祭りがあったりとか。そういうことが今、ちょっと途切れている部分がありますので、子どもたちに郷土愛を持たせるようなこととか、ボランティア、無償でいろいろなことをやって、自分自身が幸せな気持ちになれるというのを育てるのが一番いいのかなと思って活動しています。

富樫:あるアンケートによると、各務原市はいいまちだ、暮らしやすいまちだと答えますが、ずっとここにいたいという答えは返ってこないんです。ですから皆さんのように帰って来た人の話を子どもたちが聞けるといいなと思いますね。いろいろな経験をされた話を、それこそコミュニティスクールで。

大西:コミュニティスクールって、役所とか大人の人が来て話をするじゃないですか。そこから広がってないんですよ。

水野:学校に関わる人しか来ない、来れない。

大野:そこでは何をしゃべるんですか。

大西最初は、地域の子どもたちを育てようとしてスタートしました。地域の人たちがもっと子どもたちに目を向けて、安全性も高まるし、という話から始まった。いまもその活動は変わらずに、ですか。

水野:基本は学校です。先生がやると言われなければやれないんです。いろいろなアイデアがあって提案しても、学校に丸投げではだめなんです。学校にお願いするのはなく、こういうアイデアがある、じゃあこういうことをやりますので協力してください、ならいいのですが、そうではなくて、学校に対して依頼するというのはだめです。

富樫:これまで進路指導というのは、どこどこの大学へ行きなさいよとかばかりでした。それは若い世代を東京なんかに出しちゃうことになるから、もっと地域に目を向けようよということになってきた。県教委もそんな方針です。いいところはたくさんあるんでね。

アレサンドロ:みんなどこに住みたいのか。川のアイデンティティ、川の人たち、みたいに、今、川を見るけど汚くなっている。例えば大人でも子どもさんたちと一緒にボランティアのグループつくって、今日はゴミの日、掃除の日、終わった後にのんびりおにぎり食べて、時間あれば、夜、乾杯でもいいし。川を掃除して、生き物の名前をちゃんと覚えて、ここ私の場所、私この場所守るというプロセス、つくりたい。

来年から私も、アウトドアとコミュニティのアカデミーのプロジェクトがあって、先生たちのリクルートが始まりました。半日さっとやって、半日自然を勉強して。**富樫:**川島らしらが学校や教育に入るといいなと思います。淡水魚博物館もあるのだし。

《ゴミ、捨て犬、公園の問題》

アレサンドロ:保育園のモデルケース、すごく良かった。大西さんも知ってるね、裏の川の掃除。何年か掛けて私たちがきれいになりました。昔はガラス、プラスチックいっぱいあった。昔、ホタルいっぱいいたけど、いなくなっちゃった。おじさんたち、草刈りをまじめにやってたけど、卵を産むときに刈ってたから、ホタルぜんぶ死んじゃった。自然のサイクルが分かったら、1カ月ちょっと置いておいてくださいって頼んだら、ホタル戻って、それでテレビの取材も来だし、人気にもなった。

河跡湖公園も、ゴミ増えてきた。なのにゴミ箱がない。ペットボトルやお菓子の袋を捨てていく。人が増えてくるとゴミも増えてくる。川島がゴミ屋敷になると寂しいなと思う。

水野:堤防にもゴミを捨てていく業者がいるので。今日も盛大に捨ててあった。

アレサンドロ:ゴミ袋をトラックから、ぽーんとして。

大西:タンクと冷蔵庫なんかをまとめて置いてあります。

苅谷:これでも昔よりは減ったんだよ。草が刈ってなかったから、捨てても分からなかった。今、水野さんが言われたのは草が刈ってあるところかな。

あと、捨て犬が少なくなった。昔は野良犬がものすごく多かった。子どもを追い掛け回すから、わなを仕掛けて捕まえていた。

大西:それは他所から来たんですか。

苅谷:分からない。ひどいときは猟犬だった。

高井:捨て犬が多くて小網に行くことが怖かった時期がありました。

苅谷:河跡湖公園の話で、子育ても大切だけど、一番は高齢者の雇用・生きがい問題だと思う。これ、市役所の皆さん、市長にも、小島議員にも言っているから。

河跡湖公園にバーベキュー場をつくって、名古屋からでも来て、自然と触れ合える場所を、ちゃんとお金を取ってやる。そこで地元川島のシニアを雇う。お小遣いとかを稼いでもらう。ボランティアでやるから人が集まらなくなるんです。これによって、そこでアレサンドロさんも言ったような、コミュニティも生まれてくる。

河跡湖公園、整備される前は雑草だらけだったんです

よ。それをきれいに整備したので、もっと活用してもらえようになるといいですね。本当は堤防につくるといいけど無理だろうね。国の土地だから。川島じゃないけど、伊木の森もそうやって開発すると思う。

大西：前に、かさだ広場でそんな話あったけど。

水野：かわまちづくり会のことですね。

大西：1回だけ参加してるんです。

水野：そのあとも活動はしています。

大西：最初、地域の方が集まって、次に僕らが集まったじゃないですか。そのときに、地元の年配の人たちをかさだ広場という話があったじゃないですか。

水野：かさだ広場は国の公園なので、あそこに建物を建てるのは難しいというお話をいただきました。河川敷なのでだめなんです。

大西：実現していれば、さっき荻谷さんが話していた地域の方たちを取り込んでバーベキュー場をというのできてたんですが。

富樫：長良川でも暫定的なものならOKと国交省は言って来てるんだね。洪水の時は撤去するという条件で。

水野：今、川島大橋を架け替えているので、どさくさにまぎれてつくっちゃえばいいんじゃないかなと思います。

《ふたたび、まとめに》

富樫：そろそろ時間です。またこういう会ができればいいのかなと思います。最後に一言ずつ、これは言っておきたいということがあれば。

荻谷：川島にずっと住んでいる人たちよりも、越してこられた方のほうが、アレサンドロさんのように川島の歴史をよく知っていらっちゃって、今日、びっくりしました。みんな真剣に考えてるんだなと感心しました。われわれは、ここに住んでいることが日常なんですよね。だ

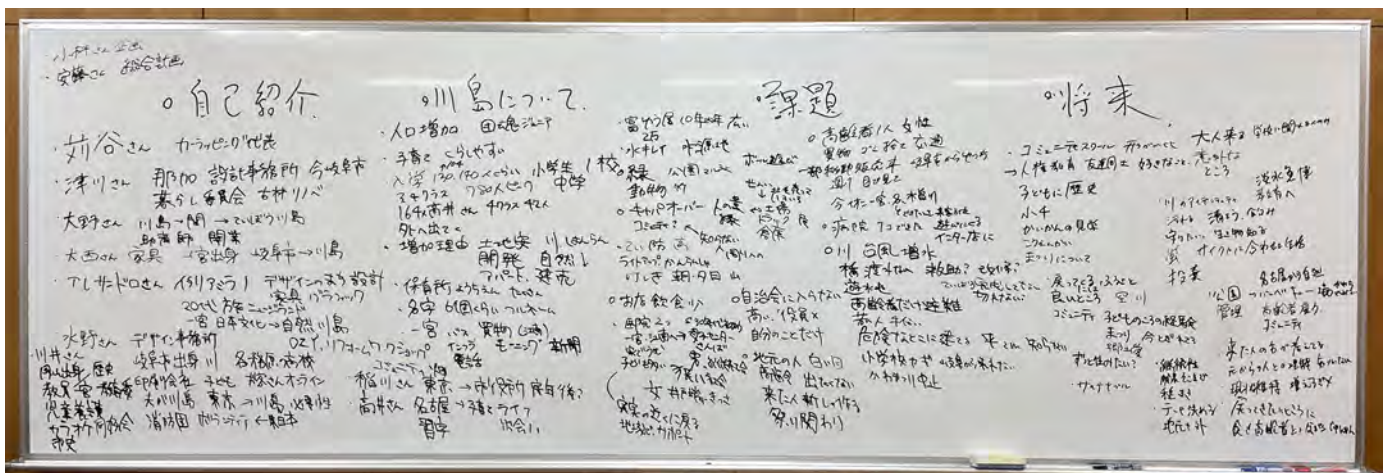


から土着の人たちのことも悪く言わないでほしいのよね。ずっとここにいるから新しいものが見えてこないというのもあるし。そういうところをお互いにちゃんと理解し合うところから始まるのかな、それがコミュニティかなと思います。

津川：ぼくが引っ越してきた5年前に比べても自然は減ってます。このままだと、アレサンドロさんが言われるように、だんだん荒廃していくような雰囲気を感じたので、そこは行政の方で緑化の条件を付けるといったことができないのかなと思っています。

水野：人口が減るのも増えるのも問題なので、人が循環できるような、現状維持でうまくやれるのが一番いいのかなと思います。子どもたちが大学や就職で名古屋、東京へ行っても戻ってくれるように、川島が魅力あるところになるよう頑張ってると思っています。

大野：私が今できることは、子育て世代へのアプローチかなと思っています。助産院という場所って、ママたちの食事から正してもらって、妊娠中、昔ながらの食事



ることで、血液がきれいになって、赤ちゃんに行く血液も変わって、お母さんの体も変わるよってことをお伝えしてるんです。

その食事って、例えば味噌であったり、梅干しであったり、昔ながらのおばあちゃんの知恵袋みたいなのところもあって、私も今、勉強しているところです。地域の活性化のためには、子育て世代だけじゃなく、おじいちゃんとかおばあちゃんのやりがい育てることも大切です。梅干しとかお味噌とか、すごく上手に作ってるおじいちゃん、おばあちゃんがいっぱいいるので、そういう方たちと繋がれたら、もっと何か、それこそ、循環ができるんじゃないかなって思ってます。

大西：今日、いろんな人が言われたこと、若い人と年配の人、外から来た人とともにいる人の問題なんですよ。これまでもいろいろな活動に参加させてもらって、結局のところ継続なのかな。うん。これやりましたって形はできて、そこから戻すばみするパターンはすごく多いなって。いきなり大きな成果を上げなくてもいいと思うんで、何か一つを継続して定期的に細かくでもやっていくことの方が大事かなと、今日はそう感じました。すぐに成果は出ないと思います。ちょっとずつなのかな。

アレサンドロ：種まき。

富樫：その地域に合わせたテーマを決めればいいのかと思うね。

大西：そのテーマで、より深くとなると、ずっと住んでいる人たちでないと意見は出てこないかなと思います。そこに私たち、外から来た人間の意見が加わるとベストかなという気はします。

アレサンドロ：ありがとう皆さん、本当にありがとう。心ワクワクした。で、今日いっぱい話した。だからあんまりアウトプットしたくないけど、最後、帰る前に何かサステナブル、今、みんなサステナブルの言葉を口にすけど、本当の意味は何ですか。これから次の300年までを考えるといいなと思った。環境の話、心の話、私もできることはお手伝いしたいと思いました。

富樫：ありがとうございました。最後に、宣伝というか営業なんですけど、市民活動推進課に市民活動の助成金事業ってあるんですよ。川島では防災クラブが申請してきました。ほかにもぜひ皆さんから提案してもらえませんか。待ってます。

これをきっかけに、まちづくりの集まりとか、組織ができるといいなと思ったんですけどね。市全体では、かかみはら暮らし委員会が「寄り合い」をやっていますが、地域でもそういうのがあってもいいなと。

川島、以前は独立した町でした。合併してからも地域

自治区とかつくったりする場合もあるんですが、こういう集まりもまたできるといいし、是非またやってください。

市内だと大野町が頑張ってます。岐阜市でも川原町だとか加納とか、僕らはずっと関わってるんです。また機会があれば来ます。本日はどうもありがとうございました。

稲川：富樫先生、そしてご出席者の皆さん、どうもありがとうございました。以上で会を終了させていただきます。お気をつけてお帰りください。

参加者名簿

アレサンドロ・セニガリエズィ：

各務原市川島河田町：+ designstudio

大西鉄平：

各務原市川島北山町：RITON

大野祐希：各務原市川島渡町、にこ助産院

苅谷伊：各務原市川島小網町、⑭デザインラボ

津川祐輔：各務原市川島河田町、アトリエ FUDO

水野香織：各務原市川島小網町、AnabasPlanning

オブザーバー

稲川和宏：各務原市川島河田町、
各務原市歴史民俗資料館

高井千晴：各務原市川島松原町、
各務原市川島ライフデザインセンター

川井純一：各務原市川島松倉町、各務原市史執筆委員

小林広和・安藤晃弘：各務原市企画政策課

ファシリテーター

富樫幸一、岐阜大学名誉教授

木村胡乃美：岐阜大学学生、前のページの記録担当

まちを楽しむ人たちの コミュニティ

～かかみがはら暮らし委員会特別対談 / 那加エリアでの活動 コレマデとコレカラ～



各務原市の中心「那加エリア」にとっても素敵な公園があるのをご存じでしょうか。その名は「学びの森」。広大な芝生の広場やビオトープ、大きな樹木や竹林に囲まれたこの公園にあるカフェ「KAKAMIGAHARA STAND」を運営し、ここを拠点として様々な活動をしているコミュニティが、「一般社団法人かかみがはら暮らし委員会」です。

かかみがはら暮らし委員会に初期から関わる戸高翼とオゼキカナコが、暮らし委員会や那加エリアでの活動についての、コレマデとコレカラを語り合いました。

年表の上段には対談の様子、下段には象徴的な出来事を記しています。私たちの活動に興味を持っていただけると嬉しいです。

＼ 私たちが作りました /



オゼキカナコ



戸高翼



藤井美奈



小澤ことは



戸高 翼 (以下：翼) これまでも前身となるイベントはあったけれど、各務原市がシティプロモーションや官民連携を目的としたイベント「マーケット日和」を始めたんだよね。

オゼキカナコ (以下：カ) 私は雑貨店を運営していたのだけど、市役所の方に誘われて出店をしたんだよね。でもイベントの雰囲気「なんか惜しい!」「せっかくならオシャレなイベントを作りたい」と思い、翌年から企画ボランティアとして参加することにした。

翼 各務原市は「まち」としての歴史が浅いから、そもそも伝統的な文化が少ない。市もいろいろ模索していたのかも。

カ 企画メンバーが集まって意気投合し、のちに「一般社団法人かかみがはら暮らし委員会 (以下：暮らし委員会)」ができるきっかけになった。

翼 いろんな業種 (雑貨店・会社員・美容室・飲食店・デザイナー) のメンバーがいたのがよかったよね。多面的な文化の発信が「マーケット日和」に含まれるようになったんだと思う。

ダサイイベントにしたいくない / マーケット日和

2013-2015



各務原マーケット日和

各務原市の公園「学びの森」を中心に、毎年11月3日文化の日に開催されるイベント。市内外から個性的な飲食店や雑貨店などの出店があり、多くの来場者で賑わう。2013年から始まり、10周年の2023年には学びの森や市民公園だけでなく、那加エリアや駅前商店街などにも出店やコンテンツを広げた。現在は一般財団法人かかみがはら未来文化財団を中心とし、暮らし委員会の企画ボランティアなどを含めたメンバーで、各務原マーケット日和実行委員会として企画を進めている。

暮らし委員会のかかわり

マーケット日和企画ボランティアの中心で活動していた5人のメンバーにより、一般社団法人かかみがはら暮らし委員会の設立へ至るきっかけとなる。またマーケット日和は現在まで、暮らし委員会のさまざまなメンバーがボランティアとして企画に参加し続けている。



KAKAMIGAHARA STAND オープン

2016

翼) KAKAMIGAHARA STAND (以下: スタンド) を始めたきっかけは「マーケット日和」は年に1回だけのお祭りだから、日常的にオープンしているスペースがあったらという思いから?

カ) 各務原市が公園内にある施設「雲のテラス」の運営会社を募集していて「僕たちで運営してみないか」とメンバーが。応募には会社を設立する必要があったから「一般社団法人かかみがはら暮らし委員会」を急いで創りプロポーザルに応募したの。

翼) それは“まちづくり”のため?

カ) “まちづくり”が目的ではなかった。誰もが公園で楽しめるようにテイクアウトのカフェがベースで、人と人が交流し、文化的な発信もできるようなイベントもやっというとして始めたよ。翼くんはそのタイミングで入社したよね。

翼) 「マーケット日和」に関わる人たちが面白すぎると思ったし、このままこの“まち”がどうなるのか、当事者として関わっていきたいという気持ちが生えた。オープニングイベントもすごく盛り上がったよね!

KAKAMIGAHARA STAND

「人々の交流と文化発信の拠点」という位置付けで生まれたKAKAMIGAHARA STAND。公園内の施設として市に家賃を払いながらも、一般社団法人かかみがはら暮らし委員会が独自で運営しているカフェ。誰でも食べやすい蒸しぱんと、テイクアウトして公園でも楽しめる種類豊富なドリンクがメイン。季節のメニューや自家製シロップのドリンクなどもあり。イートインスペースでは、寄り合いをはじめ、POPUPSHOPや個展、ライブなど、常にさまざまなイベントが催されており、たくさんの人々が行き交う場になっている。





まちの交流会で出会いを生む

2017

翼) スタンドがオープンしてから内輪での交流会を開催していくうちに、「この形をオープンにしたいね」と発展したのが「寄り合い」。当初は長く続くイメージもなく、まずは集ってみよう、そこからやりたいことを実現してみようと。

カ) 早い段階から「寄り合い」もイベントも企画していたね。

翼) 公園をテーマにした写真展を市と協同企画したのがイベントの最初かな。でも、継続してイベントを開催しないと印象もつかない。そこで企画者を増やそうという発想が生まれ、それぞれの「やりたい」を実現させていく形になっていった。

カ) 翼くんが活動のハブになっていたね。

翼) 「寄り合い」を通じて思ったのは、やりたいことは人によって違うということ。イベントを一度だけ開催してみたいという人もいれば、イベントまで行うのは疲れるといった声もあり、だったら興味関心で集まれるノリにしよう、いろいろな「部活動」が生まれてきたね。



寄り合い

スタンドにて毎月第一水曜日の夜に開催する「まちの交流会」。年齢、性別、職種に限らず多様な人が集まることで、新しい価値観や出会い、つながりが生まれるきっかけとなる、暮らし委員会を象徴する活動。現在はスタンドだけでなく、静岡や三重など他のエリアでの出張寄り合いも増え、地域ごとの交流会のきっかけ作りにもなっている。

部活動

暮らし委員会メンバーの「やりたい！」から始まる、趣味や興味で繋がる活動。メンバー以外の参加も可能。自分の“好き”を深めたり、新しい仲間と出会うきっかけとなる。スタンドカメラ部、カルカソヌ部、こども部など多種多様な部活動が存在する。



学びの森の使い方が広がる

2018

カ) コミュニティらしい雰囲気は芽吹き始めた頃だよ、今から思うと。

翼) スタンドでポップアップストアを開催したり、小さなイベントをたくさんやり始めた頃。公園での楽しみ方が増えてきたよね。いろいろなテーマで変わる「〇〇マルシェ」を企画したり。

カ) 「寄り合い」や「部活動」、「マーケット日和」で仲良くなった人たちが、企画にも関わってくれるようになってきたよね。仲間が増えていったのが楽しかった。

翼) 「〇〇マルシェ」の企画はまさに、そういう仲間と僕たちがアイデアを出しながら進め、皆で作業を分担して開催したよね。大変だったけれどすごく楽しかった!

カ) かもす食堂は現在、らくだの Pasta が営んでいて大人気だよ。元々は古い民家で、暮らし委員会のメンバーや市民の人と一緒に改装したんだよ。

スタンドだけではおぎなえない、ランチができる場所としても重宝してる!



〇〇マルシェ

薬草マルシェ、白色マルシェ、三角マルシェなど、テーマをグッと絞ることにこだわった10店舗だけの小さなマルシェシリーズ。

星空バル

夏の夜の公園での新しい体験として、地元の酒蔵の日本酒やワインを取り揃えた夜のカフェが期間限定でスタンドに出現。

かもす食堂

学びの森北側にある古民家の飲食店。市のDIYリノベ事業にて地域の人々が改装にも関わり、発酵調味料にこだわる食堂としてオープン。後にレンタルキッチンへ。2024年現在は「らくだのPasta」が運営を担い、公園エリアの活性に寄与している。





学びの森から市民公園へ

2019

翼)暮らし委員会が発足し、スタンドがオープンして、イベントと「寄り合い」を繰り返していたら、友達が増えたというのが本当のところ。ようやく最初に描いていた「みんなで考えてみんなで作りあげる」が実現できそうになった。だとしたら、現状の仕組みがおかしくないかと。理事は報酬を受け取り、他の人は無償のボランティア。でもボランティア仲間のおかげで価値は高まっている。だったら全員フラットにしよう。

カ)1月に「コミュニティ制度やります!」と翼くんが宣言をしてくれて。その時に入会してくれた人が20人ほどいたね。

翼)スタンドをより使いやすくするにはどうしたらいいか、これからの仕組みをどうしたらいいかを考えたね。

カ)そこでfacebookのグループを作ったよね。同時にその頃はイベントだけでなく、市と協同して公園での社会実験もしたね。いろんなことをやり過ぎて私は少し疲弊してた頃。



パークマーケット

学びの森南側の駐車場で開催された社会実験に暮らし委員会として協力。真夏に2週間ぶっ続けて開催する過酷なマルシェを終えたのち、KAKAMIGAHARA PARK BRIDGEが建設された。

パークリノベーションミーティング

市民公園のリニューアルに向けた社会実験。ワークショップや公園でのイベントを何度か開催。公園での焚き火や、話しかけたくなるベンチなど、まさに実験的な体験を提供した。





コミュニティのはじまり

2020

カ) コミュニティ制度となった矢先、コロナ禍に。多くのイベントが休止になり、スタンドの売り上げも低迷した。でも、頑張ってオンラインで活動を続けたね。

翼) 「寄り合い」もオンラインとなり、メンバー対談もこの頃から配信が始まった。暮らし委員会のあり方も見直しを図り、4月に大幅な組織改革を行った。理事が解散し、コミュニティのリーダーとなる委員長にカナコさんが選ばれた。

カ) 私が初代委員長になって、全員がフラットな関係で透明性があることを重視した。仕組みを作る運営チームも皆が自発的に集まってくれて、すごい!と思った。

翼) カナコさんは委員長選挙の公約として、ビジョン「まちを楽しむコミュニティ」& ミッション「楽しみを見つけ『やりたい』を実現する場を作る」を掲げていたね。

カ) 仕組みチーム全員で考えたよ。「やりたい人がやりたいことをやろう」と常日頃から言っていた。新体制がスタートしコミュニケーションツールとして Slack を導入したことも、メンバー同士の交流がしやすくなってよかったと思うよ。

●目指すこと Vision

まちを楽しむ人たちのコミュニティ

●何をやるか? Mission

楽しみを見つけ「やりたい」を実現する場をつくる

●大切にすること Value

- ①安心感 情報共有し、助け合える場をつくらう
- ②主体性 楽しいこと、やりたいことをやってみよう
- ③多様性 悪いやりを持ち、受け入れよう

コミュニティ・委員長制度

「コミュニティ」という思想を明確に打ち出し、会費制度を導入。また、代表理事は会社の基盤を守る役割、委員長はコミュニティの旗振り役になると決め、コミュニティ内のリーダー「委員長」を決めるための選挙を実施。この頃に「まちを楽しむ人たちのコミュニティ」というビジョンの設定、主体性・多様性・安心感を大切にするというコミュニティの基本的な方向性や仕組みを決定したことで、メンバーの活動や交流が加速した。





エリアを越えたつながり

2021

翼) コロナの影響がまだ強くて、社員総会もオンライン：spatialchat (スベチャ) を使ったバーチャルな空間で開催したね。それはそれで面白かった。

カ) 暮らし委員会って新しいことすぐ試すよね。配信用の機材も揃えたことで、活動の幅も増えた。ホームページもリニューアルしたね。3月には子どもたちが利用できるKAKAMIGAHARA PARK BRIDGE が誕生。暮らし委員会のメンバーも事業の一部を担って、イベントやアートラボを企画している。

翼) この頃から「出張寄り合い」も増え、マーケット日和もオフラインでの開催に戻り嬉しかった。ワークショップ、トークショー、盛りだくさんの内容で素敵な1日だった。12月にはクリスマスマーケットも開催できた。

カ) 少しずつ日常を取り戻しつつあったけれど、まだ感染対策もしている状況下。良い意味でオンラインとオフラインの共存ができるようになっていったね。



KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE

学びの森と市民公園を繋ぐ位置にある子ども向けの屋内遊戯施設。飛騨五木株式会社が管理運営を行い、暮らし委員会も一部事業としてアートラボなどの大人向け体験講座やイベント企画、テナントリーシングなどを担う。

出張寄り合い

各務原で継続的に開催しているまちの交流会「寄り合い」の出張編。「自分の町にもかかみがはら暮らし委員会のようなコミュニティが欲しい。」という相談がきっかけで始まった。現在もさまざまなエリアで、エリア独自の形で継続している。





公園から那加商店街へ

2022

翼) オフラインに復活しつつあったけれど、マーケット日和では公園内での飲食の出店はなかった。そこで、分散型にしよう、だったら那加商店街へ繰りだそうという流れができた。その商店街にあるベルハウスで飲食の出店を行うことができた。

カ) ベルハウスはメンバーがDIYでリノベーションした暮らし委員会の新しい拠点だよ。

翼) そう。ベルハウスをきっかけに那加商店街のエリアリノベーションが始動した。メンバーがベンチを作ってイベントを盛り上げた。そんなことがきっかけとなり、商店街の人たちとの触れ合いも増えた。今となっては那加商店街活性化の拠点となってきている。

これまでは公園でのイベントの企画が多かったけれど、「DIYしようよ」「いいね!」といった、また違った雰囲気が出てきた。

カ) 商店街も今までとは少し違う景色、新しい風景ができているってことだね。



ベルハウス

JR 那加駅近くにある「みんなで作るもう一つの家」。もとは喫茶店だった場所を暮らし委員会のメンバーを中心にDIYで改装し、持ち寄りを中心にみんなで使う場所となる。この頃から那加エリア近郊で仲間のお店ができる時はみんなでDIYをするスタイルが増えていく。



カクカクブックス

猫のいる小さなセレクト本屋。トークイベントやPOPUPなどさまざまなイベントも行う。暮らし委員会を中心としたたくさんの人たちが関わって、解体から多くの作業をDIYで作り続けた。そこでの経験を活かして、店主は今では1人で好きな時にDIYでの改装を重ね、日々進化するお店になっている。



生まれ変わる ” 那加エリア ”

2023

翼) 最近は商店街だけではなく、“那加エリア”にも個性
的な店が増えてきたよね。カクカクブックスや OUR 食堂
もオープンした。そういった店たちも、古い民家や店舗
を DIY したり、ロゴや看板、棚などの仕器まで造作して、
イベントもメンバーが手伝っている。このエリアに投資
する会社 OUR FAVORITE CAPITAL が活動を始めたこ
とも大きいかな。

カ) 看板と言えば、カクカクブックスの看板猫 “ちゃちゃ”
は、暮らし委員会のメンバーが保護した猫。暮らし委員
がなかったら “ちゃちゃ” には会えなかったというのも、
不思議な縁を感じるよ。

暮らし委員会のメンバーは「ギブする気持ち」を持つ人
が多いから、何か困った時にひと言投げかけると、あっ
という間に「協力するよ」「手伝うよ」といった声が返っ
てくる。それがいつもすごいと思う。



OUR 食堂

お惣菜を選べるほっこりとした味わいが美味しいまちの食
堂。各務原市的那加エリアを中心にまちに投資し新しい活動
を促していく、株式会社 OUR FAVORITE CAPITAL の最
初の物件。



茶と古道具 無題。

「そこにお茶があること」をコンセプトに、間借りや出張な
ど至るところで日本茶を淹れる、移動型の日本茶屋。人と人
が交流し繋がる場として、さまざまな人が集まる。



コレカラのこと

2024 -

翼) 現在ではメンバーも 100 名を超え、土台を作ったカナコさんと、その畑で何が育つのかをじっと見ている僕。僕が一番望んだことは、「いかに誰かが主体的に活動できるか」ということ。選挙で委員長になった僕が、リーダーらしさを持たないことで、それぞれ自由にやれるのではという仮説のもと、あえて何もしないという一年を送った。その検証が済み、今年は自分から発信し、皆で問答しながら具体的にしていく方向性を持たせている。それが楽しいし、良いと思っている。

カ) 問答スタイルは良いね。旗振り役となるリーダーは必要だけど、まずは自分が楽しむこと。そのために、いざというときには皆と情報を共有して助け合える、ゆるくつながった環境づくりは大切だと思う。これからも暮らし委員会がどう成長していくのか楽しみだね。

翼) 暮らし委員会だけではなく、OFC や各務原市が官民一体となって、那加エリアでの活動をより加速するためにも、まちごと楽しんでいきたいね。



karakuru

2024 年春にオープン予定。夜までやっている花と喫茶のお店。駅近くの物件を仲間達で探し、時計店だった場所を DIY で改装中。スタンドのポップアップストアでも出張花屋を出店するなど、イベントや DIY の様子を情報発信し、オープン前からファンが増え続けている。



十' TEN

JR 那加駅前の古民家。戦前からまちを見守ってきた建物が、まちの新たな交流拠点を目指してリノベーション中。(2024 年 1 月時点)

那加デザインミーティング

近年新しい活動が増え、今まさに変化している那加エリアの未来を考えるイベント。(キックオフイベントが2024年2月18日開催、今後も続く予定) 街歩きをしたり、まちづくりに関わるゲストの話を聞いたりしながら、まちに関わる人を増やしまちづくりを加速させる狙いがある。

CONTACT

中務原市は「おいしい」が両輪・両本脚。食文化が、暮らし、観光、観光、観光。OUR FAVORITE CAPITAL 株式会社は、おいしいをコンセプトに、中務原市を「おいしい」で盛り上げることを目指しています。

☎058-214-2444



KAKAMIGAHARA Naka Area
City Walking Map
Published by OUR FAVORITE CAPITAL
First Edition (August 2023)

各務原市那加エリア
まち歩きマップ
発行：株式会社OUR FAVORITE CAPITAL
初版(2023年8月発行)

- 01 はしもとアイスタブ (営業: 10:00-18:00) 1,000円(税込) 水曜
- 02 らぐたのハスタ (営業: 11:00-18:30) 1,000円(税込) 水曜
- 03 豆屋 (営業: 11:00-18:30) 1,000円(税込) 水曜
- 04 KAKAMIGAHARA STAND (営業: 10:00-17:00) 水曜
- 05 KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE (営業: 10:00-17:00) 水曜(18時以降)
- 06 ばんごころ (営業: 11:00-18:00) 水曜(18時以降)
- 07 豆屋 (営業: 11:00-18:30) 1,000円(税込) 水曜
- 08 Non's Burger is heavenly (営業: 水・日 10:00-14:00、木・土 10:00-20:00) 月曜
- 09 北京飯店 (営業: 11:00-15:30) 1,000円(税込) 水曜
- 10 VALISE BAGLE (営業: 11:00-18:00) 水曜
- 11 創作料理 ずく (営業: 11:00-18:00) 水曜
- 12 Blue Cafe (営業: 水曜-日曜) 11:00-18:00 水曜
- 13 目出汁ラーメン・クラム (営業: 11:00-14:00) 水曜
- 14 ずく (営業: 水曜-日曜) 11:00-18:00 水曜
- 15 たこ焼き たるま (営業: 水・日 10:00-14:00、木・土 10:00-20:00) 月曜
- 16 OUR FAVORITE (営業: 11:00-17:00) 日曜
- 17 カクカクアツクス (営業: 11:00-18:00) 水曜
- 18 河田秀正堂 (営業: 11:00-18:00) 水曜
- 19 本家豆大福 たるま (営業: 水曜-日曜) 11:00-18:00 水曜
- 20 浅野屋 (営業: 11:00-18:00) 日曜
- 21 季節のジャム SweetJam (営業: 11:00-18:00) 水曜
- 22 どて焼き 湯地 美津子 (営業: 10:00-21:00) 水曜
- 23 原重子長 餅屋 (営業: 水曜-日曜) 11:00-18:30 (水曜は18:00まで)
- 24 千房 (営業: 11:00-14:00) 1,000-2,000 水曜
- 25 ガブリエキップン (営業: 11:00-18:00) 水曜
- 26 へんごころ フェルトアート (営業: 11:00-18:00、水・日 10:00-16:00) 水曜
- 27 あけハシ屋 橋十郎 (営業: 12:00-18:00) 水曜

提供：株式会社 OUR FAVORITE CAPITAL ※こちらは 2023 年 8 月の発行時点での情報です

10. 各務原市まちづくり活動助成金について

可知桃奈（各務原市市長公室まちづくり推進課）

（１）まちづくり活動助成金とは

「まちづくり活動助成金」は、各務原市内で地域の課題解決をするため、市民活動団体の行う事業に要する経費の一部を助成することで、市民が知恵を出し合い、力を合わせて行うまちづくり活動の促進と市民活動団体の成長を図ることを目的として、各務原市が2014（平成26）年4月に創設した。

助成金は2種類あり、団体の設立年数によって自立や更なる成長を目指すものとしている（表1）。団体より応募された事業は、学識経験者、自治会、市民活動団体、産業界、農業界それぞれの関係者で組織する審査会で審査される。さらに、まちづくり助成1年目応募団体のみに課される公開プレゼンテーション審査では、審査会委員のほか出席団体による共感性の審査も行う。岐阜県内の他市町村で実施されている同様の助成金や補助金等において、同時に審査を受ける他団体が審査に加わる旨の記載があるものは現時点で見当たらず、県内唯一の審査方法であると思われる。

表1 まちづくり活動助成金の種類等

助成金 種類	スタート助成金		まちづくり助成金		
	■設立後3年未満の市民活動団体 ■団体の設立及び自立を目指す	■設立後3年以上の市民活動団体 ■課題解決する団体への更なる成長を目指す			
	1年目	2年目	1年目	2年目	
助成金額	助成率①	助成対象経費の 2/3以内	助成対象経費の 1/3以内	助成対象経費の 2/3以内	助成対象経費の 1/3以内
	限度額②	100,000円	50,000円	300,000円	150,000円
	持出し額③	（総事業費）－（事業実施に伴い得られる国・県補助金、利用料金、その他収入合計）			
	上記3つの金額を比較し、最も少ない額が助成金額となる（千円未満端数切捨て）。				
審査	書類	○	○	○	○
	公開プレゼンテーション			○	
報告	公開報告会	○		○	
	実施報告書類	○	○	○	○

（２）創設の背景

2013（平成25）年の市長交代により、まちづくり活動に関する市の方針が大きく転換した。それまでの総合計画では「各務原ボランティア・各務原ホスピタリティ」を都市戦略のひとつとし¹、ボランティアの育成やボランティア活動の支援などを行っていた。市長交代を経て、「市民協働」を基本目標の一丁目一番地に掲げた総合計画が策定されると、NPO、ボランティアなどさまざまな団体にまちづくりの情報を提供するなどの支援を行うこととなった²。また、新市長就任後に始まった「まちづくりミーティング」でも、市民のまちづくりへの参画を求める提言があり、市民・行政ともに市民協働の気運が高まっていた³。

そこで、2014（平成26）年度からまちづくり活動の支援に関する事業のパッケージ展開を進めることとなり、団

1 各務原市総合計画基本構想（2005-2014）より抜粋

2 各務原市総合計画基本構想（2015-2024）より抜粋

3 2014年1月19日 2013（平成25）年度第4回まちづくりミーティング

体が健全な運営を行えるよう成長することを重視した資金面での支援として「まちづくり活動助成金」を創設したのであった。

(3) 交付実績

2014（平成26）年4月の創設後、2022（令和4）年度までに延べ123事業に助成金を交付した（表2）。以下では、社会情勢や市民の動きを踏まえ、これまでの9年間の傾向を4期に分けて概観する。

・2014（平成26）年頃

任意団体からの応募が少なく、これは市内において無償ボランティアが主流だった当時は「非営利＝金銭を受け取ってはいけない」という意識が今よりも根強かったことを表していると推察される。一方で、すでに活動経験の豊富なNPO法人は助成金の応募にも慣れていたので、交付事業数の多さにつながったと思われる。また、趣味的要素の強い団体の行う事業も多く、現在よりも「地域課題の解決」のための助成金であることを強く打ち出していなかったことが関係していると考えられる。

・2017（平成29）年頃

この頃から、自治会から派生した団体やまちおこしに取り組む団体等さまざまな主体が登場し、2016（平成28）年度には13事業の交付を行った。しかし、2017（平成29）～2018（平成30）年度にかけて、1年目交付事業が3事業と大幅に減少している。同一事業で最大2年間助成を受けられるにもかかわらず、2年目事業として応募しない団体も多かった。交付団体に対する当時のヒアリングによると、「助成金を受けると活動に制限がかかるのでは」、「事務手続きが煩雑」等、助成金の活用に消極的な様子であった。また、「助成金を知らない市民が多い」、「広報活動が不十分である」という意見も多く、周知不足も事業数減少の一因であったと推察される。

これを受け、市は、市民への周知方法や団体への説明方法の見直しを図った。例えば、市内に配布される広報紙では、難しく捉えられがちな地域課題やまちづくり活動を日常生活に当てはめて紹介した（図1）。また、団体からの相談対応や助成金指導を行う「まちづくり支援相談員」を中心に、応募期間にかかわらず、年間を通して助成金に関する相談に応じているが、より丁寧に説明するよう努めた。

市内では、一般社団法人かかみがはら暮らし委員会に代表される「まちを楽しむ」という考え方が広がり、社会貢献活動と個人の楽しみが混在し始めた。さらに、寄附金やクラウドファンディング等の資金調達方法も多様化し、事業の持続可能性を考える団体からの相談も増加してきた。2019（令和元）年度、1年目交付事業数が13団体に増加した背景には、このような時代の流れも関係しているだろう。

・2020（令和2）年頃

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域住民と関わる活動が大幅に制限され、事業の半数以上が廃止となった。しかし、オンライン化やSNSの活用を試みる団体が登場し、市としても、オンライン化の相談に応じたり、相談自体をオンライン（Zoom）で行ったりするなど、コロナ禍でも支援を止めないよう努めた。これらの取り組みは、他団体からも参考になったとの声が聞かれ、事業の中止や廃止ではなく、いかに継続していくかを考えるきっかけになったと思われる。

この頃、市の新たな動きとして「まちづくり担い手マッチング事業」が始まった。この事業は、団体の得意なこと・できることが提供できる場を広げるため、団体同士の協働（マッチング）のきっかけとして、団体情報の発信や交流機会の提供、協働に関する相談対応等を行うものである。事業開始以降、これまで以上に団体と市とが関わるようになり、まちづくり支援相談員との何気ない会話から団体運営の相談に発展することもある。コロナ禍でも、各団体が新たな活動に挑戦したり、それぞれの強みを活かして活動できたりする場があったことで、まちづくり活動、ひいては助成金交付事業の減少に歯止めをかけることができたと考える。

・2023（令和5）年

現在、まちづくり助成1年目事業を行う6団体のうち5団体が過去に交付を受けた団体である。これは、団体に複数事業を実施できる余裕が生まれ、ステップアップを意識した結果であると考えられる。

近年は、前述のまちづくり担い手マッチング事業による市民同士の協働に対する意識の高まりや、審査会委員からの「他団体と協働し、事業を発展させてほしい」とのアドバイスもあり、交付団体同士がそれぞれの事業を手伝うケースが目立つ。



まちづくり活動の流れ

地域を思う気持ちを形に！

「まちづくり活動」は、あなたの地域を思う気持ちから始まります。ここでは、その流れをご紹介します。団体や活動によって流れは変わりますが、この例を参考に、あなたもまちづくり活動を始めてみませんか。

■始めてみたい

①まちづくり活動を学ぶセミナー
（デビューセミナー）

「地域のために活動したい」と考えている方のために、まちづくり活動を学ぶセミナーを開催しています。

②まちづくり担い手育成支援事業
「いっぽカフェ」

市では、「30年後の未来の各務原市」を見据え、地域課題を再認識し、自由な発想で主体的に取り組める人づくり、環境づくりを行っています。その一つである「いっぽカフェ」では、実際に、課題を解決に導く企画を計画・実行します。

■相談したい

③まちづくり支援相談

「地域のために何かできそう」という気持ちを、行動に移してみませんか。ま

ちづくり推進課では専門の相談員が相談に応じています。

相談は事業内容、資金などの相談以外にも、運営に関わる事務作業など、どんなことでもお気軽にご相談ください。

■資金を得たい

④まちづくり活動助成金

地域課題を解決するための公益的な活動や事業に関する経費の一部を助成します（市ウェブサイト・下記QRコード参照）。

来年度の助成金申請をお考えの方は、12月28日（金）午後5時まで、まちづくり推進課へご連絡ください。

■知識を得たい

⑤まちづくり参加セミナー

団体のスキルアップや、運営改善のためのセミナーを開催します。今年度は、集客や資金獲得をテーマに2つの講座を開催しました。

■情報を得たい

⑥まちづくり活動情報コーナー

まちづくり推進課の窓口やパンフレットラック、市ウェブサイト内「市民活動情報コーナー」など、情報提供のほか、広報支援も行っています。

支えます！あなたの まちづくり活動



詳細 まちづくり推進課 ☎ 058-383-1997



仲間内の楽しみ
近所に住む友達を誘って、喫茶店でおしゃべりしたり、でかけたりしている

+
課題 引きこもりや孤独死への対応が急務

||
まちづくり活動 定期的に、地域でおしゃべりできる場を創設。地域に呼びかけ、参加者同士のコミュニケーションをとる場を運営する

まちづくり活動の例

商業活動
フラワーアレンジメントの講師として、女性向けのアレンジメント体験イベントを実施

+
課題 育児の悩みを話せる場が少ない

||
まちづくり活動 イベント実行委員会を結成。参加する女性が、無償でアレンジメントを楽しみながら、子育ての悩みを話せる場を提供する

まちづくり活動とは、「地域課題の解決に取り組む、公益的な、市民に開かれた活動」のこと。難しく考えがちですが、日常の活動から、少

キーワードは、 地域課題の解決

市は、市民の皆さんが自由な発想で主体的・積極的なまちづくりに取り組める環境を作り、「市民一人一人が、幸せを実感できるまち」の実現を目指しています。

そこで、皆さんが積極的に「まちづくり活動」に参加できるように、市では資金や知識・相談面でのサポートを充実させています。

今年度、まちづくり活動助成金を活用して「ゆったりカフェ」を開催

「これからも続けたい！」

し外に目を向けて、ちょっと行動することで、地域のための活動として意味を持つものになります。

例えば「おしゃべり」や「観光地巡り」などの仲間内の楽しみ、そして、事業者の公益的な（富利を目的としない）活動。これらも、「地域課題の解決」という目的を持って対象を広げると、地域貢献につながる立派な「まちづくり活動」となります（左図参照）。

お気軽にご相談ください

まちづくり推進課では、活動の構想から、団体の設立スキルアップ、活動の継続など、それぞれの段階に応じたサポートを行います（まちづくり活動の流れは次ページ参照）。

ご相談は、いつでも応じます。内容によっては、市だけでなく、関連する機関やサービスなどを案内することもあります。お気軽にご相談ください。



松が丘では、「住民が集う場」が徐々に少なくなってきたことが課題でした。定期的に地域交流の場を開くことで、多くの方に気楽に参加してもらい、新たなふれあいも生まれています。

今回、助成金やさまざまなサポートがいただけ、ありがたかったです。これらの後押しを生かし、これからも活動を続けたいです。

している。「松が丘ゆったりクラブ」の喜多西繁さん（写真右）と、真弓健一さん（同左）に伺いました。



表2 助成金交付団体への継続調査（2022（令和4）年度末時点）

No.	団体名	事業名	種類	継続状況		交付 年度	事業 数
				団体	事業		
1	FunFanMedia かかみがはら	各務原CM映像制作事業	スタート	×	×	H26-27	2
2	リスペクトクラブ	世代を超えた交流の場 リスペクトクラブ事業	スタート	○	○	H26-27	2
3	特定非営利活動法人 つむぎの森	ふれあい交流広場 つむぎ	まちづくり	○	○	H26-27	2
4	特定非営利活動法人 各務原子ども劇場	あそびの中で育つ力 ～地域と歩むプレーパーク～事業	まちづくり	○	○	H26-27	2
		「遊びと文化」の力で楽しい子育て事業	まちづくり		○	H29-30	2
5	鶯沼東町太鼓保存会	東町まちづくり活動事業	まちづくり	○	○	H26-27	2
6	各務原太鼓保存会	伝統文化活性化事業～もりあげよう！ コミュニティ活動	まちづくり	○	○	H26-27	2
7	柿沢夢おこしの会	柿沢夢おこし事業	まちづくり	×	×	H26	1
8	各務原NPO法人 連絡協議会	市民がつくる協働のまちづくり事業	まちづくり	×	×	H26-27	2
9	ボランティアハウス あじさい	地域のまちづくりと交流の拡大	まちづくり	○	○	H26-27	2
10	特定非営利活動法人 だいじょうぶ	認知症予防対策と認知症の進行を 遅らせるための事業	まちづくり	○	○	H26-27	2
11	尾崎南4緑化推進 ボランティア	地域内の環境整備と町内の絆を 深める事業	まちづくり	○	○	H26-27	2
12	社会福祉法人各務原市 社会福祉協議会 八木山連合支部	「ささえあいの家」の機能充実事業	まちづくり	○	○	H26	1
13	K（各務原）スポーツ 青年会	すべての現実には夢から始まる・ スポーツイベント事業	まちづくり	○	×	H26-27	2
14	特定非営利活動法人 K-IT シティ・ コンソーシアム	親子で楽しむメディアワールド	まちづくり	×	×	H26-27	2
15	NPO団体各務原 まちづくり	各務野スイーツコンテスト'14	まちづくり	×	×	H26-27	2
16	みどりのまちづくり会	地域交流・有休土地活用・広報活動・ 勉強会・自然環境保全美化事業	まちづくり	○	○	H26-27	2
17	特定非営利活動法人 ローガンズ	戦う親父の応援団岐阜SP事業	まちづくり	○	○	H26-27	2
18	かかみがはら炎舞連	よさこい踊り体験事業	まちづくり	○	○	H26	1

4 ○：継続 △：形を変えて継続 ×：解散

19	各務原モラロジー事務所	各務原市まちづくり・第2回「家族のきずな」エッセイ募集	まちづくり	○	○	H26-27	2
20	特定非営利活動法人ピッコロ	地域ふれあいコンサート	まちづくり	○	○	H26-27	2
21	各務原市ターゲット・バードゴルフ協会	ターゲット・バードゴルフの普及による活力ある健康なまちづくり活動の推進	まちづくり	○	○	H26-27	2
22	尾崎小学校区青少年育成市民会議	子育て講演会	まちづくり	○	×	H26-27	2
23	各務原市民踊連盟	市民ふれあい盆踊りの夕べ	まちづくり	○	○	H26-27	2
24	中屋川クリーンクラブ	中屋川クリーン事業	スタート	○	○	H27-28	2
25	濃尾・各務原地名文化研究会	濃尾・各務原の地名文化に関わる推進事業	スタート	○	○	H27-28	2
26	もものみくらぶ	市民（子育てママ）交流事業	スタート	×	×	H27-28	2
27	岐阜木材団地で木工を楽しむ会	森の恵みのものづくり事業	スタート	×	×	H27-28	2
28	ボランティアウヌマ	手づくりガーゼハンカチで作る安心して育児のできる地域づくり事業	まちづくり	○	○	H27-28	2
29	かかみ野MTBクラブ	「かかみ野MTBフェスティバル」の開催事業	まちづくり	○	○	H27	1
30	ボランティアーハウスはなみずき	ボランティアーハウスはなみずき活動事業	まちづくり	○	○	H27-28	2
31	特定非営利活動法人居宅支援きざはし	障がいをもつ人、もたない人の出会い事業	まちづくり	○	○	H27	1
32	稲羽西地区社会福祉協議会	三世代ふれあい夏祭り事業	まちづくり	○	○	H27-28	2
33	Furusato 夏祭り実行委員会	Furusato 夏祭り事業	スタート	×	×	H28	1
34	E-Club	鵜沼宿を英語を使って活性化していく（英語でのガイドを含む）活動を推進する事業	スタート	○	△	H28	1
35	地域連携ネットワーク・アンダンテ	支え合う街づくり講座事業	スタート	○	△	H28	1
36	Cocoro	こころフェス2016事業	スタート	×	×	H28	1
37	peaceofpeace	わたしたちの未来を共に考える！事業	まちづくり	×	×	H28	1
38	おたすけ会	生活サポート事業	スタート	○	○	H28-29	2

39	清住町ふるさと創生会	清住町の安全・安心な生活環境の整備事業	スタート	○	○	H28-29	2
		防犯パトロール活動事業	まちづくり		○	H31-R2	2
40	公益社団法人 各務原青年会議所	各務原の未来へ魅力発信事業	まちづくり	○	△	H28-29	2
41	中山道鶴沼宿ボランティアガイドの会	市内史跡巡りウォーク事業	まちづくり	○	○	H28-29	2
42	風の芸術村	アートで自己表現・障がいのある人のための美術教室	まちづくり	○	○	H28-29	2
43	中部学院大学ラ・ルー ラファクトリー	夏祭り	まちづくり	×	×	H28-29	2
44	各務原飼い主探し隊	犬猫里親探し事業	まちづくり	○	○	H28-29	2
45	岐阜健康友の会 各務原支部	一年を通して健康づくり事業	まちづくり	×	×	H28-29	2
46	シングルマザーと その子どもたちの会 ～freely～	ひとり親世帯の助け合いと その子どもたちの未来を支える活動	スタート	○	○	H29-30	2
47	剪定ライフサークル	庭木と人のふれあい・助け合い活動事業	まちづくり	○	○	H29-30	2
48	松が丘ゆったりクラブ	こころとからだの安らぎをサポートする事業	スタート	○	○	H30-31	2
49	中山道間の宿 新加納まちづくり会	新加納地区の文化・歴史遺産を次世代に継承する事業	まちづくり	○	○	H30-31	2
50	各務原市全国まちおこし映画祭実行委員会	監督はキミだ！各務原市の魅力を再発見 ☆わくわく映画制作ワークショップ 事業	まちづくり	○	○	H30-31	2
51	各務原市ラジオ体操連盟	高齢者を対象にしたラジオ体操指導者普及活動事業	スタート	○	○	H31	1
52	みっばらキッズ	2019 親子で Let's アウトドア！事業	スタート	○	△	H31	1
53	カーネーション	みんなで取り組む産後ケア事業	スタート	○	○	H31	1
54	リョクエンナーレ 実行委員会	世代間交流ワークショップ事業 ⁵	スタート	○	○	H31/R3 ⁵	2
55	鶴沼南町自主防災組織	災害時に備えた炊き出し訓練事業	スタート	○	○	H31/R3 ⁵	2

5 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う特例措置として、2020（令和2）年度交付事業の実施が困難となり、助成事業計画変更承認決定通知（廃止）を受けたものについては、同一区分及び助成事業名での2021（令和3）年度以降の応募を認めている。

56	多文化共生 コミュニティいきる	性と命の多様性の大切さを『伝える』 事業	スタート	×	×	H31	1
57	縁結びハピママ	みばらママ 子育てママのお役立ち窓口 を開設事業	スタート	×	×	H31	1
58	えんまる	縁結びマルシェ事業	スタート	×	×	H31	1
59	山崎区屋形保存会	鶴沼山崎町伝統文化の継承と地域住民の 連携強化事業	まちづくり	○	○	H31-R2	2
60	人生これから！	元気なシニアがいいきき暮らす！ プロジェクト事業	まちづくり	○	○	H31	1
61	みんなのいえつなぐ	地域で子育て応援フェスティバル事業	まちづくり	○	○	H31	1
62	結愛ポート	病に負けない元気なところとからだ作り 事業	まちづくり	○	○	H31	1
63	グローバルファミリー	日本語教室事業	スタート	○	○	R2	1
64	国境なき レクリエーション	各務原市に住む外国人児童と保護者への ゆるやかな教育支援事業	スタート	○	○	R2	1
65	雄飛地区 まちづくり委員会	夏祭りプロジェクト事業	まちづくり	○	○	R3-4	2
66	Tri-Angle	男女共同参画に根付いた住みやすい 町づくり事業	スタート	○	○	R3	1
67	スコール各務原	子育て・親力アップセミナー事業	スタート	○	○	R3-4	2
68	貞奴フォーラム 実行委員会	貞奴をキーワードとしたきっかけづくり 事業	まちづくり	○	○	R3	1
69	耀く大野町 まちづくり委員会	アンケートによる住民の意向調査事業	スタート	○	○	R3-4	2
70	キッズボランティア リトルハンド	子供のボランティア参加促進事業	スタート	○	○	R4	1
71	ミニSL各務原	ミニSLによる三世代交流再開事業	まちづくり	○	○	R4	1
72	NPO法人 foryourmile	マルシェによる子どもたちの 成功体験応援事業	まちづくり	○	○	R4	1
73	創作オペラ「貞奴」 プロジェクト	地域文化芸術レガシーの承継と新たなる 挑戦：村国座・皆楽座を活用した第1回 貞奴芸術祭の開催	まちづくり	○	○	R4	1

1) FunFanMedia かかみがはら / 各務原 C M映像制作事業 河川環境楽園夏フェスでの取材



9) ボランティアハウスあじさい / 地域のまちづくりと交流の拡大事業

健康体操をする高齢者と子どもたち



スタッフ手作りの昼食を取る参加者



47) 剪定ライフサークル / 庭木と人のふれあい・助け合い活動事業

庭木の管理にお困りの方への「おたすけ剪定」



公園での出張出前講座



64) 国境なきレクリエーション / 各務原市に住む外国人児童と保護者へのゆるやかな教育支援事業
Zoom を活用したオンラインおしゃべり会



外国人市民が企画・運営・日本語での
司会を行ったイベント

72) NPO法人 for your smile/ マルシェによる子どもたちの
成功体験応援事業
受付を行う「キッズボランティア リトルハンド」メンバー



子どもものづくりマルシェ



子ども出店者による接客

(4) 今後の展望

2024 (令和6) 年度で創設から 10 年となる。社会・経済情勢が変化する中で、市民のライフスタイルや価値観、社会貢献の手法等も多様化してきた。地域が抱えるさまざまな課題を解決するには、地域で暮らし、活動する市民や団体の存在が必要不可欠である。この助成金によって、より多くの市民がまちづくりの主役として活躍でき、さまざまな地域課題が解決されることで、「市民一人ひとりがしあわせを実感できるまち」の実現を目指したい。

各務原市のまちづくりと市民活動

2024年3月 発行

岐阜県地方自治研究センター

発行所

岐阜県地方自治研究センター

〒500-8069 岐阜市今小町15番地

TEL 058-265-3135 (代)

FAX 058-267-0093

URL www.gifu-jichiken.jp/

E-mail info@gifu-jichiken.jp

表紙の写真

■各務原マーケット日和 (写真上 左)
毎年11月3日(文化の日)に学びの森・市民公園・那加地区商店街一帯で開催されるマーケットを中心としたイベント。日々の暮らしがちょっと豊かになるような物販、飲食の出店やアーティストによるライブなどが公園を彩る。

■新境川堤 百十郎桜 (写真中 左)
新境川の両岸約4kmに渡って咲き誇る1000本以上の桜並木は、春になると圧巻の景色を見せてくれる。地元出身の歌舞伎役者・市川百十郎が、境川放水路の完成を記念して寄贈したことからその名が付いた。

■ごんぼ積み (写真下 左)
川島地区の家屋に見られる、水害対策のための建築様式。川島地区は木曾川の中州に位置し、古く川とともにその歴史を重ねてきた。ごんぼ積みの石積み家屋はこの地域に独特の景観をもたらしている。

■各務原市の町並み (写真上 右)
市役所から北側を望む風景。各務原台地北端に位置している山々は、各務原アルプスと呼ばれ、稜線は関市、岐阜市との境界でもあります。

■中山道鞆沼宿 (写真中 右)
中山道六十九次のうち52番目の宿場。往時をしのばせる家並みに再生整備し、脇本陣や町屋館などを公開。ボランティアによるガイドサービス、歴史講座、祭りや各種文化イベントなども実施し、その魅力を市内外に発信している。

■岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 (写真下 右)
航空宇宙に関する資料や機体の収集展示、将来の航空宇宙産業を担う人材の育成を目的とする博物館。2018年に全面リニューアル。「飛行機のまち」として知られる各務原市を象徴する施設。